

く彈力もかく歐羅巴人の細糸を使用せんと欲する目的も適せざるあり

右の如く年々一歳一解の良蠶種を歐洲へ輸出して是の爲に大なる損害を被ふる事を日本商人の心附のさるも尤も異一むは堪たりされも伊佛等の國々の工場杯を全く日本は産する蠶卵の給を仰て其業を營む程の事ありといへども是即ち日本の大害あり蓋し外國の商人等の其始高價を投て蠶種を競求せしも損あるも似ぬれども是の爲に其國々の蠶種盡く良質も回復し再び本の如く細糸を製する様も成りて今も日本の品より却て其國々の産を競求せしむるに至りしを竊利豈莫大あらんや是を以て日本の絲商人自ら毀傷するを顧みず歐洲の製蠶工は大忠功を致しありといふ亦謬言も非るあり

夫一歳再解の繭は製する所の生糸を前も述るの如く歐洲の工人等の使用は適せざるハ其所以ある事あり因て次は其理を條列して知らしむへ

第一外國の種買商人等數回往來し一歳再解二繭の劣惡なるを曉るるを以て當時は唯一歳一解の蠶種のみを購求せり

第二歐洲は之を一歳再解の繭の價一歳一解の繭に價は比それと賤き事四分一より十分一まで當れり

第三歐洲は之を製糸の機器を精巧に工手は甚熟練し且能く注意して業を操るを以て一歳再解の繭は價賤しき者を用ふべき筈あれども是を用て製せる糸は其質劣惡なるの故に伊佛の

如き細糸を製する處は於てハ再び之を使用せざる事となりあるなり

右に記載せる件々も日本商人等の思慮の淺きと先知の識なきとより皆知らざる所なり方今歐洲諸國の日本産生糸を使用する者皆其糸の細きは過ぎ廢處多く且其質不潔よて紊亂し節目多く又糙澁よて其色惡きのみならず玉糸と唱ふるものを雜ゆるを思ふ凡そ此等の事ハ十一二年前までも甚希なる事なり一の當今も盡く皆此劣惡の品を製するを以て之を歐洲の工人等の使用は供せんを爲し仕上るも空く勞費を掛るの故に廢處多く出で其損倍獲するなり扱斯く日本は生糸著く劣惡よ赴けるをもて歐洲は染物師織物師の方へ粗糸を仕入るるを生業とする者等僅までも不齊不潔よて細さは過るの或は荷作り惡しき時を以て其生糸を用ひし故に此二三年前より買入れある生糸も夥數售れしとして大に積濱の商人等の損耗となれり是は因りて外國の工人等の日本の生糸の劣惡なれるを憎みて次第に伊佛、支那の産を愛を遷せしも理ありと知るべし

尙又外國人の患とする所も日本の商人等の持來諸種は生糸ハ其本皆其産處と品質とを區別せしとして上州信州より初發し出せし形は縮ね出をもて横濱に於て之を購求する者も其果しく何處の産ありやと疑惑解さ難き迄の屢之あり尤本港よて目利する者も稀ならず其産處を知るの然らされも人よ告知する、事あれども本港を出て歐羅巴に到る時直に工人の手は落るものよ非と必と數回阻礙し手を経るなり扱工人等は何れ品も皆上信二州は荷作

りと同じおれも固より産處は異なるを知らざるよよまで此二州の産なりと思ひ染盡し投し
機ひき不上せて始めて其欺られたるを覺る事數回なり是より日本は縮糸も皆真正の物非と
と見放さるゝよ至るあり是然一なり日本は製糸家等産處は異なるに因りて繭糸品質
差等あり事を心お忘れと機不上せある上よく判然と美惡乃差別ありむる様お注意し製し
出さる尙半ハ其不信を回復するよ足へのをしを惜哉

然れハ日本の國々處々に其出所乃生糸乃荷作は仕法を異し彼此相混淆せざる様
爲と時々賣人お買人お大なる利益となるへし之を爲さんとおち次方れとくせし其用尙
甚廣るへし

凡ソ糸商人等支那人はチヨップ即記と名くるとき記號を糸一束大束を毎よ附置き互ハ
他家より出せるもれと分別せし是伊、佛、支那等へて行ふ法よく極く良法なり

右は國々よて所謂チヨップを用ふる商人も常に良好よしと同一真正の品を嚮くは名を得る
るを以て其出所品の此號を用ひして嚮く所の商人の品よりお搦きも早く直段も善く
售るゝなり是よ因りて支那は商人等當今も其記號は本國は文字のとあらは英文字をも記し
外國人よも容易に知ると様よとるをもく右は記號さへあれは外國は商人も些も疑惑を抱
と安心して之を購求し來る事久し是支那の商人等の注意し記號を用ふるは益あり
凡ソ良好の生糸を賣ると宣言する所の商賈おしく若し常お眞よ良好の品を貯へ置き嚮く

人皆其記號を認めて殊品なる事を知るをもて此の如き商賈にも記號を用ふるの益極めて
大なりといへとも若此記號を用ひて劣惡の品の或ち美惡相混する品を賣るの又ち其品質を
漸くに惡敷爲と時ち早晚必と其聲價を落し其本を折るなり又若し記號を用ふる事世間一
般になる時ち其記號無きものも商人等皆其品の劣れるを證するに足るをもて其市價も自ら
下落するなり

生糸交易の創り去頃太き生糸を出せる甲州、マチダ近江越前等の如き諸地方にても近頃漸
くに太糸を出るを止めて當分も偏に細くのと繰る事となりるも甚悲しむへき事あり
擬余の輩日本に産する生糸殊に縮糸のときも數年前までの如く外國の人之を需用せぬとい
ふ事を日本人の肝に銘する程よ知らし然んと欲せれとも伊佛の蠶種大に缺乏しある時節
お其事も能たさるゝの當今も蠶地疾も豊く消し右二國は外西班牙厄勒都兒格齊里惡の諸國
に産する者よく大抵歐洲諸國の工人等の需用に供給するに足るへく且此諸國に産するもの
お其繰法にも極めて注意するをもて精粗細大の品相混する事おさのとあらす一束の糸の端
より末よ至るまで些も不平の處おけきを向後必ず日本産の者より好んで購求せらるへいと
思へお今そ諷誨を加ふるべき時おをハ聊の老婆親切を盡とのとされも日本の人右の如く諸國
よて忌み嫌ふをも事とせと尙依然として細糸を製出せし是益其智識の乏きを徴するのと唯
數年前まで良好は細糸を出し且一歳一繭の良蠶を出せる地信州の上田依田上州の下仁田富

岡安中大間々奥州の諸土の如きも次に載せる所の方法に従へ、細糸を製出せるは妨者なりと然きとも余輩強て日本人をして細糸の代りも前のとく太糸を製出せし然んとするもの前に述べるの如く細糸は歐洲に産するはのよて充分に其工人等の望を充るに足るべく其缺く所の者を獨り日本と支那とよの産する大糸に代るなり

支那の産する生糸も英及他歐洲の工人等夥敷之を使用する事舊し然れども日本よて支那の産に匹敵するの成へくも尙夫より優きを繭を八、十より十、十二乃至十五を合せて繰りたる糸を多く製出せる事至急の要務あるへ又夫程の太さにして美しく且平滑よて強剛に能く卷附ふる糸を製し置るを其捌き必と好く且善價を得ん事必せり

蓋し太糸を製するも細糸に比すれば其費用を減殺するも人の皆知る所されども日本の工人等必須く此事を忘るへからと又總て良好の細糸を製するは適せざる一歳再解の繭を却て粗糸を製するに宜きはのあり譬へ支那の如き一歳一解の良繭を産する事少き地にて其生糸大抵皆八、十より二十乃至二十五箇までの繭を合せ繰るはの多きを以て知るへ

扱又生糸の市價は固より彼供給と需用との減増は應じて其平衡を得るはのされども余輩呢々と此は説るす唯力の及ぶ丈日本の生糸は何を以て斯く從來の聲價を失ひしや且其聲價を挽回するも果して如何の策を用ふべきやといふ事を論述せんと因て左の件々を條別して以て日本國中の人を示す

子 上州よても下仁田富岡安中大間々等信州よても上田依田奥州よても他處の如き一歳一解の良繭を出せる地の細糸を製する事を得へ

丑 凡糸を製するは繭は數六七箇より少く用ふるはのらす是にて歐洲の工人等の用は供するは十分細き糸を得るあり

寅 細糸を製するに是一歳一解の良繭を用ふへ

卯 八、十、十二乃至十五箇或尙其以上の粗糸を製する時の一歳再解の繭を用ふるへ

辰 此三四年前夥敷製出せし如き細糸の數を減し粗糸を多く製出せしむるは其故は粗糸を日本人も外國人も使用は途多く細糸は唯歐羅人の需用に供すへきの如きも非れども之を製する者は爲し利益多かるへされどもあり

巳 凡糸を引出す時ハ初より注意し取懸るへ紛乱して結節多きを廢處多く出で使用する人の爲は損あり且初發不用意は繰出しある糸を再び繰車に掛る様よては截目多くありて費多し

午 凡糸を製するは成丈粘軟よて強剛あらし然んとすも細線を仔細に糾合せし糾合法を得ある者も其糸圓く否る者も其糸平匾よて疵毛のときはの多く且更は彈力あり右は陳述する所は専ら製糸工に關する事あり次は絲商人等は心得を載せし

未 生糸の産處を以て逐一之を類別ししは大は利益ある事あり從來横濱に出る所のはの

ち必と數處の産相雜りぬれち日本及外國の商人等之を鑑別するよ空く時間を費とあり
 ①申向後賣出と生糸を逐一記號を用ひ賣人も産處も明細みづかし知らるゝ様にせよ其法凡そ横濱に持來れる生糸ハ預先日本と英との文字を以て其産せし州郡府邑並よ之を製出せる家と商ふ者との名を一束毎よ委しく記し其品質を一二三四等の番號を附し是よ又逐一記號を添へて其類を分つへ

②生糸を俵よ詰るよ外面よ良性の品を被ひ内部よ惡質の品を詰るとき好點なふ仕方と向後必と之を止免同一の記號を附するものハ細大形質共よ必と常よ同一の物あるへ

③生糸を荷作るハ左まてハ肝要の事よ非きハ次の條々を注意して爲と時ち毎地其様を異よとる可なり

④凡ソ生糸を玉作るよち内部まで自由ハ検査の成る様ふとへ前年信州の飯田にて玉作する法の如く糸を緊く括る事ハ今迄尙美濃よて爲る事あれと是よち括目を切離そに非きハ仔細に検査する事能えと然れと其外見を損せざる様よ心遣ひせれち内部よ結び込免ある惡糸を見落との恐あり極免て不便ありされち生糸を玉作るよち些と其外見を損せとて全く吟味の行届く様ふとるを最良法とぞ彼上信奥等の國々よて爲と如く緩く括り置く之の爲よ別段の故障も生とま但馬の玉作の法も伊、佛等の仕方に大抵似寄て最良法とせと其一束毎よ逐一紙を以て括るも無益の勞あり大束毎よ一

記號を附して足せり

⑤括り糸を日本國中皆同重同大同質あるへ從來其事無きよよりて一般に苦情を述べ不滿を抱ふる根源とあれり蓋し日本の括糸各州各地皆異られるのちあらと一俵一束毎よ皆差異あり然きハ全く外國の商人を欺るん爲にのみ斯く數種の括品を用ふるといふ人あると其理ある事あるへと思える程あり又括り糸の外別に縮糸よ紙を括るを甚不用の之のあり向後宜敷廢せよ又括糸の太さち元結程よ一定とへ

右の件々を一般よ知らし免て後來の爭論苦情ハ全く止むへ
 從來横濱の商人會議社に加える者と又是に加えらざる商人と日本生糸の製法を改良せん事を企る事數回ありし日本人よ粗拙ある繰器を用ひしむるの外一と較善の實効あくして却て繰糸の法を日よ粗漏にあり絹糸の質を月に劣惡ふ赴きり

今般横濱ハ糸商人等公よ會議して日本の糸を製する工人及ヒ其商人等ハ敢て從來の惡習を改革する事よ眞實よ注目せしめん事を決定し因て諭して曰く若し上よ記述せし條々を守らざるハ於ても歐洲の市場必と日本商人の爲よ閉ちて開らざるへされち日本の生糸外國ハ輸出するの數漸く減とへ日本人と外國人の利益と富の根源とといふべき生糸の交易終よ衰廢と爲と

畢竟日本國中の生糸製出よ關る人も上ハ高貴の大名より下ハ卑賤の百姓商人よ至るまに今

回ハ是最後の諫言あれ懇よ之を體認し未だ全く地は墜ちざる日本生糸の聲價を以て再び
従前の高處に挽回せし即ち余輩は對して親切の報酬と思えんのみ

千八百七十一年四月十八日

於横濱

ゼ、エム、ジャケイモット

エフ、スケイドト

エフ、ダフルエウ、エイ、ホワイト

シー、バルデ

シヨシユアルマール

第三千九百四十二

明治五年六月五日大藏省達

第七十一號

別紙之通今般製絲告諭書相渡候條各府縣管内於テ右業体ノ者御旨意貫徹候様可致候此段相
達候事

告諭文

日本ノ産物ニテ交易ノ大ナルト金高ノ上ルトハ生絲ニ過ルモノナシ外國人モ之ヲ貴ヒ御國

中ノ利潤トナル事之ヲ以テ第一トス然ルニ御國ノ生絲カクノ如ク上品ナルハ土地ノ宜布故
ニテ其製法ニ至リテハ只人々ノ覺ヘシ手心ヨリ出來セルモノニテ其法未タ精シカラス近年
交易ノ繁昌スルヨリ粗惡ノ品次第ニ多ク其上御國中一様ナラス品柄宜シカラサレハ外國人
モ之ヲ貴ハスシテ直段モ次第ニ下落シ交易ノ利分モ大ニ減少ス此損失ハ唯系ヲ製スルモノ
而已ニアラス自然總体之不融通トナルナリ然ルモ御國産第一ノ品格ヲ落シ其害全國ニ及
ヒ貧困ノ基ヲ生ス歎クヘキ事ナラスヤ右ニ付朝廷万民ノ爲ヲ被思召此貧困ノ基ヲ去リテ家
々富饒ノ利ヲ得セシメントノ御趣意ヲ以上州富岡へ多分ノ入費ヲ掛ケ盛大ナル製絲場ヲ御
建被遊佛朝西國ヨリ生絲製造之師ト男女ノ職人數名ヲ雇ヒ入レ當夏ヨリ無類精好ナル生絲
ノ製造ヲ御始メ被成御國中製絲ニ志アル者へハ士民ヲ不論熟覽ヲ許サル此製絲場ニ於テ女
職人四百人餘御雇入相成製系ノ法ヲ學ハセラルヘキニ右女ハ外國人ニ生血ヲ取ラル、抔ト
妄言ヲ唱ヘ人ヲ威シ候者モ有之由以ノ外ノ事ニ候右女職人ハ製系ノ術傳習ノ上ハ御國內製
糸ノ教師ニ被成度御趣意候得ハ決テ無疑念傳習ノ爲メ差出シ可申妄言ニ惑ヒ候テ御趣意ニ
悖リ候様ノ儀無之様可致此製絲場ニカク迄入費ヲカケ盛ニ開カセラレ候御趣意ハ前文ノ如
ク御國生絲ノ品万國ニ勝レ永遠ノ御國益ト相成全國ノ民ヲシテ皆富饒ノ利ニ潤ハセンカ爲
ニテ只上ヨリ御世話被成候儀ニテ決テ下民ノ利ヲ上ヨリ奪候様ノ譯ニ無之御場所悉皆成就
製絲ノ術習熟ニ至候ハ、民間望ノ者へ御拂下ケモ被仰付度御趣意ニ候間郡村製絲ノ者へ不

及申四方ノ人民厚ク御趣意ヲ辨へ製絲ノ術ト傳習ニ心ヲ入レ精好ノ品多分出來候様有之度候也

壬申五月

勸農寮

第二百九百四十三 明治五年十一月八日布告

第二百二十三號

諸省府縣官局廻シ

御國產生絲ノ儀ニ付テハ御詮議ノ次第有之追々相達候儀モ可有之候得共從前各所區々ノ收稅イタシ來候分當壬申年ヨリ廢稅候條製絲方愈精良相成候様勉勵可致旨可申諭事

第二百九百四十四 明治六年一月三十日布告

第三十二號

諸省府縣

生絲ノ儀ハ國內ノ名産ニ候處近來製方蠱末ニ相流レ隨テ品位相劣リ加フルニ詐偽ノ所業モ不抄趣相聞以ノ外ノ事ニ候今般保護ノ爲メ別紙ノ通規則相定候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ稼人共御趣意相辨へ詐偽濫製無之様取締可致事

別紙

生絲製造取締規則

第一條

一 生絲ノ儀ハ海外輸出國內用ノ區別ナク都テ結目ニ相用候印紙當省ヨリ其地方官へ相渡候

十年三十七號
布告ヲ以テ廢
ス現行(七)三
百四十七(七)參
照スヘシ

條地方官ニ於テハ製造ノ凡積ヲ以何ケ度ニモ印紙請取方申立ヘリ事

但本文ノ儀ハ明治六年第六月一日ヨリ施行候筈ニ付結印紙ノ儀ハ期限以前請取方行届候様夫々可申立事

第二條

一 地方官ハ右印紙ヲ生絲改會社へ賣渡會社於テ各製絲人へ可賣渡事

第三條

一 製造人ハ右印紙買請其國所名面ヲ記シ候押印致シ生絲一操每亦ハ中結ニ雛形ノ通結用可申事

但卷目ヘモ製造人封印可致事

第四條

一 結印紙定額ノ代價ヲ以地方官ヨリ會社へ賣渡直ニ代金取立其時々租稅寮へ相納可申事
但會社へ賣捌手数料トシテ其代金ノ一割即付金十圓ニ下ケ渡可申事

第五條

一 結印紙會社ヨリ製絲人へ賣渡候節ハ定價ノ外取立申間敷事

第六條

一 各地方官於テハ結印紙請取高並代金納高及ヒ會社へ下ケ渡ノ手数料共前一ケ年分取調年

々二月中租稅寮へ可差出事

第七條

一 結印紙代ノ儀ハ左ノ通

鎮砲造島田造其外ニ相用候中結印紙

百枚ニ付

五錢

提造其外小線ニ相用候印紙

百枚ニ付

三錢五厘

繭類ニ相用候印紙

壹枚ニ付

五錢

真綿ニ相用候印紙

壹枚ニ付

十錢

第八條

一 製絲ノ儀ハ都テ入念汚レ或ハ切口等無之様仕立詐偽ノ所業致ス間敷事

第九條

一 玉絲鬘斗絲屑絲皮△キ等每品生絲ト總稱致シ候條同様ノ心得ヲ以テ印紙可取扱事

第十條

一 繭真綿出壳蛹山繭等ノ類都テ每箇上包へ印紙張用製造人國所名前等詳記可致事

但箇立不相成品ハ印紙相用ニ不及候事

繭

出壳蛹

壹箇目方七貫目迄ヲ限リ造立印紙張用可申尤量目七貫目ニ不滿トモ箇立タル上ハ前同様ニ印紙相用可申事

山繭

真綿

壹箇目方九貫迄ヲ限リ造立印紙張用可申其余前同様

第十一條

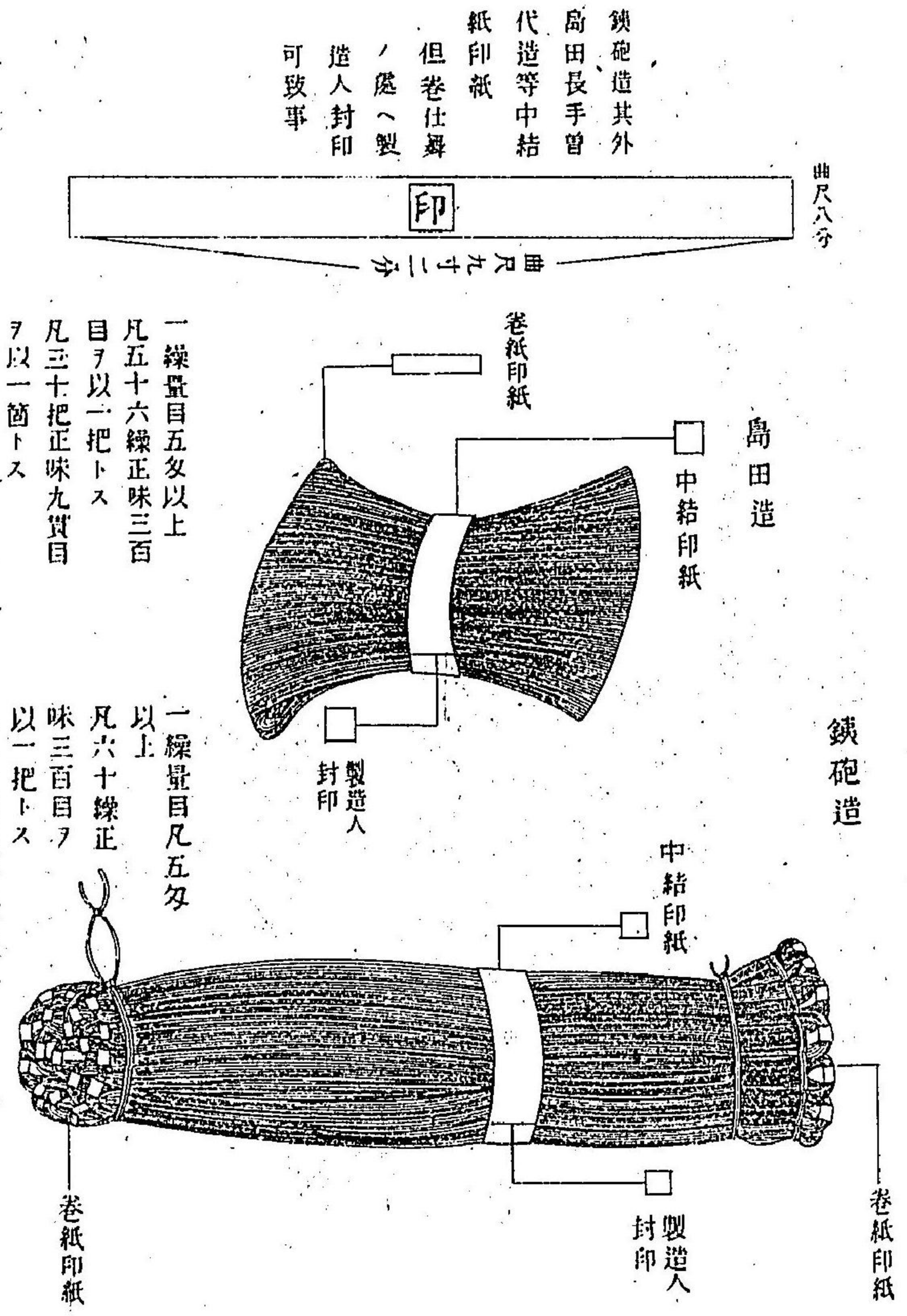
一 上州富岡製絲場於テ製造致シ候生絲タリトモ結印紙用方ノ儀ハ同様ニ候得共印紙ノ儀ハ當省ヨリ直ニ製絲場官員へ相渡候也

第十二條

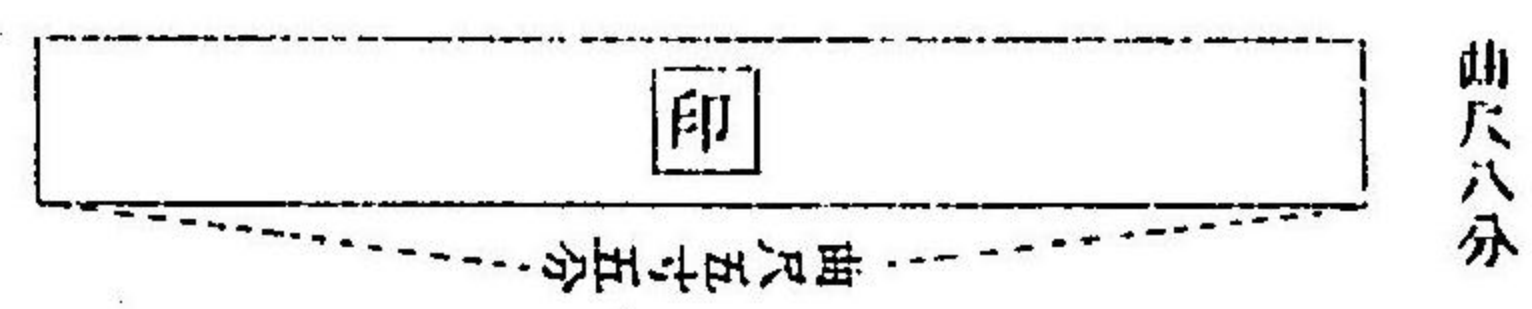
一 明治六年第六月一日以後ハ印紙無之生絲並繭真綿等密賣買致シ候節ハ其品取揚買請人製造人トモ其價ノ二十分ノ一材料可申付事
右之通相定候也

明治六年第一月

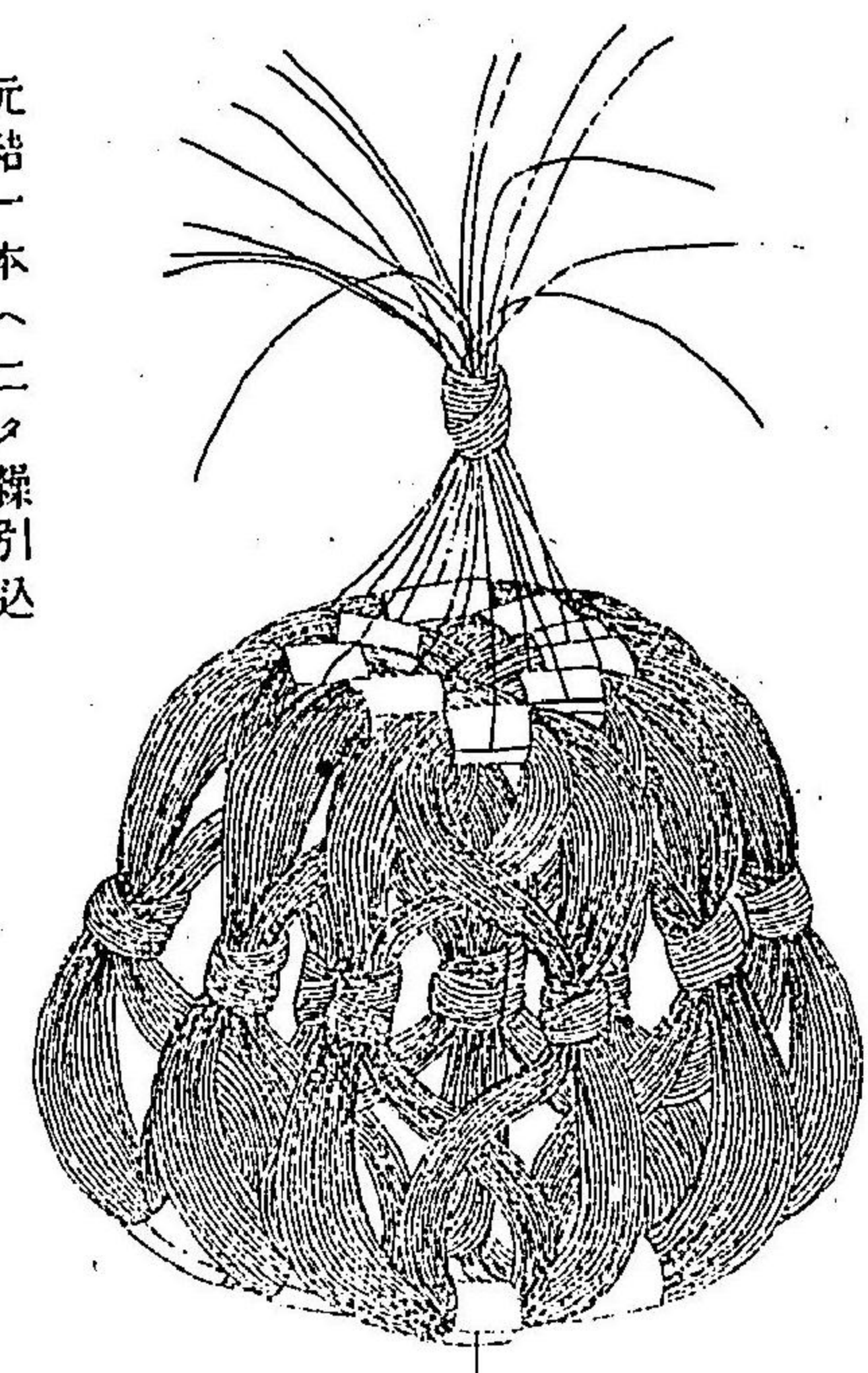
大藏省



一様天地卷
紙印紙
但卷仕舞
ノ處へ製
造人封印
可致事



元結一本へニタ線引込
一線量目八女以上
五十線正味四百目ヲ以一ト提トス



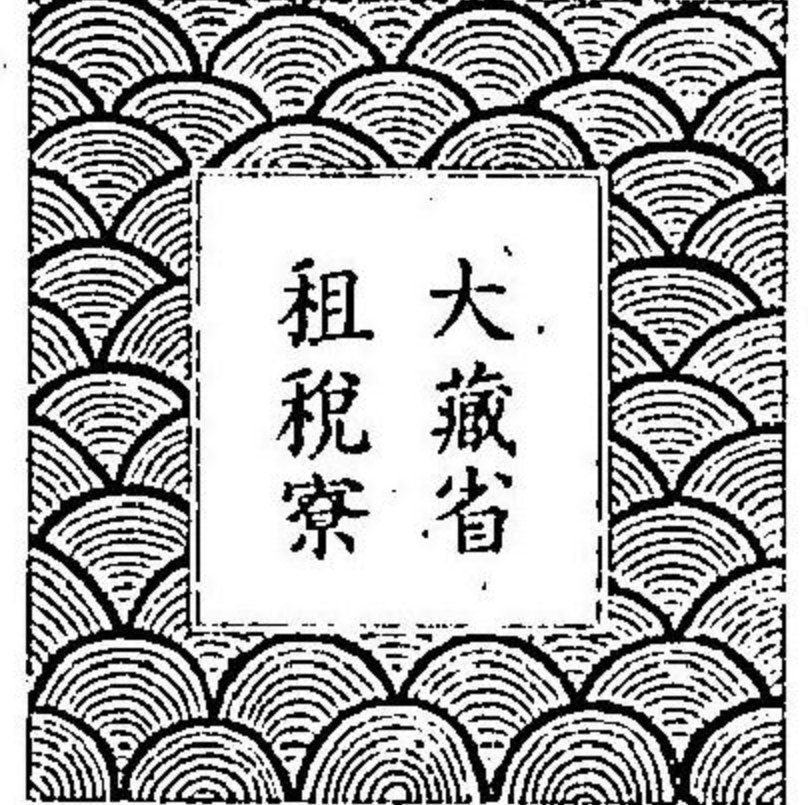
提絲造

製造人 封印

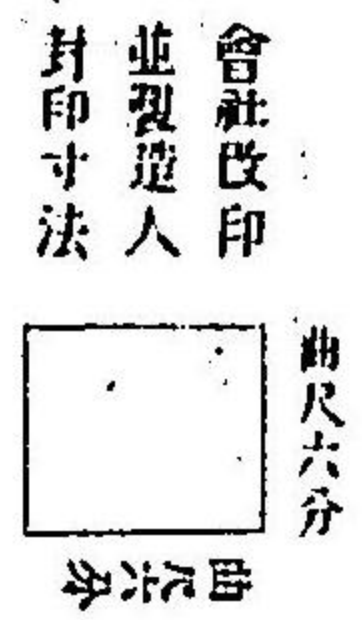
第三千九百四十五 明治六年二月十二日大藏省達
 第十三號
 生糸之儀ハ本邦最優ノ名産ニテ近來外國輸出盛大相成御國內一般ノ潤澤モ不少候處間ニハ製造杜撰ニ涉甚敷ハ濫製詐偽ノ所業致候者モ有之趣到底御國損ヲ招候基ニテ不容易事ニ付此



蘭類印紙
淡黒色



真綿印紙
青色



別紙
 程取締方規則御頒賦相成候次第然ルニ今般橫濱湊及國々生糸賣買人并製造人共協議之上改會社取設ノ儀別紙規則ヲ以申立令免許候間開港場及各地方便宜ノ場所於テモ夫々同様會社取設專ラ詐偽ノ舊弊矯正シ眞實ノ享利ヲ興シ候様精々注意可有之依之改會社規則相添此段相達候事

夫生糸者本邦最上之名産交通之享利ヲ得ル品ナレハ各注意シテ其業ヲ勉勵シ精製スベキ所頻年貿易盛大ニ開ケ輸出夥多ナルニ從ヒ粗製濫造ノ弊ヲ生シ品位次第ニ下劣シ終ニ名品ノ聲價ヲ減却シ商賈或ハ破産ニ至ルハ豈慨歎ニ堪ヘサランヤ因テ同盟結社シ回護ノ方策ヲ立ンカ爲メ製作場於テハ殖産ノ眞理ヲ盡シ開港場オイテハ製作ノ精粗ヲ改從來ノ弊害ヲ矯正シテ其蕃殖賣買トモ眞實ノ取扱ニ歸シ一般ノ公利ヲ起サンコトヲ謀リ茲ニ國々諸方ノ生糸總代之者ト協議シテ左ノ規則決定セリ

明治六年一月十日

生糸改會社

生糸改會社規則

第一條

一生糸之儀者國內賣買海外輸出共都而大藏省ヨリ御下渡之結紙其地方之生糸改會社於テ製造人ヘ分賦致シ候條製造人ハ結紙ヘ國所之名面ヲ記シ候押印イタシ提造又者鬻長手造

其餘都而一ト結毎ニ結ヒ用其製造人押印無之品者賣買致間敷事
但改之節會社ニ而改濟之押印可致事

第二條

一開港場生系會社オイテハ右結紙へ其地方生系會社之押印ヲ證トシ相改可申事

第三條

一右結紙之儀者御規則之代價ヲ以兼而其地方之會社ヨリ其本管廳へ相納可申ニ付生系製造人ヨリ夫々取立可申事

第四條

一右結紙無之生系賣買御禁制ニ付而者會社中之者取引不致者勿論若違犯之者有之候ハ、其品取上ケ其地方御廳へ可申立事

第五條

一是迄開港場會社へ加入シタル賣込問屋ト諸國取引之者トハ同様ニ會社之仲間ト可相成事

第六條

一諸國之會社ヨリ海外輸出之爲開港場へ差出候品者開港場會社又者其會社へ加入シタル賣込問屋へ可差出事

第七條

一前條結約之上者若諸國會社改印無之荷物開港場會社又者會社へ加入シタル問屋ニ而取扱或ハ爲替金等送り商賣之世話イタシ候者ハ會社ヨリ相當之罰金可取立事

第八條

一若又諸國會社へ加入之モノ開港場會社又者會社へ加入シタル問屋之手ヲ不經開港場會社ニ加入セサル他之商人へ荷物等送り候モノハ其所之會社ヨリ相當之罰金可取立事

第九條

一生系海外輸出イタシ候分者各開港場會社オイテ改ヲ受可申尤改濟之上若直組不相成節者國內用ニ引戻シ候トモ荷主之勝手タルヘク其節手数料之半高差戻シ可申事

第十條

一右改濟之生系濫製等之不正有之候ハ、開港場會社ニ於テハ産出之地方之會社へ掛合推窮之上其會社ヨリ至當之罰金可取立且地方之會社ニ於テハ其製造人ヨリ罰金取立可申事

第十一條

一貿易品者相場物ニ而輸出之遲速ニ寄多分之損益等モ有之候儀ニ付開港場會社於テハ改方目利并取扱方手馴シ者抱置精々手操之上改方致シ荷主之便利ニ相成候様注意可致事

第十二條

一近來ニツ取ト唱候器械專ヲ流行致シ壹人ニ而二口ツ、引揚候ハ辨利ニ相見候得共自ラ手

配屑兼候場合モ有之譬者繭五ツ付ケニ而挽始メ候内ニツ付ニツ付ニ切落候共其儘挽立候故糸ムラ相生シ候者勿論大粹へ繰返シ候節ニ至リ極メテ切レ口多ク相成其都度々々繫留候手數ヲイトヒ打付揚ニ致シ候故糸口散亂繰方惡敷相成畢竟杜撰之製方トハ申ナカラ器械之組拙ヨリ起リ候弊ニ有之候間自今ニツ取之器械ヲ廢シ一ツ引ニ相改且大粹へ繰揚候節糸口叮啞ニツナキ留節シ不立繰結ヒ先ヲ缺ミニテ切可申且又直取ト唱候而繭煎器ヨリ直ニ大粹へ引揚候モノ有之簡易之製方ニ相見候得共煎水系筋ニ糊着シ繰返シニ不相成故是又可爲廢止且糸挽立方之儀者折々水ヲ替へ始メヨリ終リ迄太細之ムラナク引立引水ヨクヨク乾シ可申別而雨天之節者大粹へ引揚火ニ而干シ濕氣無之様可致事

第十三條

一都而繭ヲ賃引ニ爲致候モノハ其製造人名印ヲ爲押可申事

第十四條

一結紙卷止メハ小麥粉其他重目ニ相成候モノヲ禁止シ米糊ニテ糊代壹分位之内ニ付ケ卷立可申事

第十五條

一元結ヒ之儀者百本ニ付目方六匁ヲ限可申事

第十六條

一長手造鬚造結ヒ糸之儀者赤糸淺黃糸之外相用ヒ申間敷事
但不結糸御印紙卷紙ニ差支候間小結イタシ賣買可致事

第十七條

一上繭ヲ表掛ニシ玉蛹惡蛹等ヲ裏掛ニシ或ハ小粹ヨリ大粹へ引揚候砌二筋一所ニ揚込其外前件ニ書載タル不正之製造イタシ候モノ有之候ハ、其品何方へ賣渡候共製造人へ相戻シ代價ハ勿論至當之罰金爲差出可申事

第十八條

一出穀繭生皮芋皮ムキ屑糸山繭等ハ每箇ニ上包ニ御規則之通御印紙張用ヒ木札ニ製造人之國所名面記シ會社之改ヲ受可申事

第十九條

- 一開港場生糸改會社手數料
- 一生糸
- 一製斗糸
- 一眞綿
- 一 생皮芋皮ム키

- 一 屑糸
- 一 繭山蛹
- 一 出カラ繭
- 一 玉糸

右品々孰レモ目利之上時々之相場ヲ以代金ニ見積リ千分之五請取可申尤豊凶ニ寄其品出港之多寡モ有之且會社建築其他諸入費ニ充否之目途不相立依而試檢之上實際ニ應シ猶増減可致事

第廿條

一 各地方改會社於テハ前書之規條ニ準照シ取扱可申尤改手数料之儀者素ヨリ會社諸入費ニ充候爲之儀ニ候條精々省略致シ當分手数料トシテ千分之三取立試驗之上増減可致事

第廿一條

一 右會社諸入費元拂精勘定之儀者年々十二月限御支配廳へ差出シ檢査ヲ受可申事
右之通規則相定候事

明治六年一月

生糸改會社

前書結社規則開屆候條后来此規則改正又者追補等之儀有之候節者其都度申立可請許可者也

明治六年一月十二日

租税頭陸奥宗光

第三千九百四十六

明治六年三月二十三日大藏省布達

第四拾號

生糸之儀ハ本邦之名産民間有用之物品ニテ其利益不尠既ニ戊辰年元蠶系改所ヨリ右渡世ノ者へ取締ノ爲メ賣買免許鑑札相渡置候處生糸商人ノ内右鑑札所持無之者モ儘有之一般之取締ニ關シ不都合ノ次第且近來製方愈粗漏ニ流レ或ハ詐偽之所業モ不少名産之聲價ニ差響不容易御國損ニ有之候間既ニ生糸製造規則モ御布告相成候得共猶賣買取引之間ニ於テモ舊弊存在之趣モ相聞候間爲取締更ニ生糸賣買鑑札相渡置候條戊辰年相渡置候分ト引換可申若シ舊鑑札所持無之分ハ管下生糸商人一人別ニ不洩様相渡都テ別紙規則ニ照準取締可致事

別紙

生糸賣買鑑札渡方規則

生糸之儀ハ本邦の名産民間有用之物品ニテ其利益不尠既ニ戊辰年元蠶系改所ヨリ右渡世ノものへ取締の爲め賣買免許鑑札相渡置候處生糸商人の内右鑑札所持無之者モ儘有之一般の取締ニ關シ不都合の次第且近來製方愈粗漏ニ流レ或ハ詐偽の所業も不少名産の聲價ニ差響不容易御國損ニ有之候間既ニ生糸製造規則も御布告相成候得共猶賣買取引の間ニ於ても舊弊存在の趣も相聞候間爲取締更ニ生糸賣買鑑札相渡置候條戊辰年相渡置候分ト引換可申若シ

十年三月十七日
布告四年八月
省令以テ廢ス
達シ以テ廢ス
第六十一及九
行六十一及九
十七)三三三
ヘシ)三三三
參照ス四現百

舊鑑札所持無之分ハ管下生絲商人一人別ニ不洩様相渡都て別紙規則ニ照準取締可致事

規則

第一條

一生絲賣買渡世のものへ去る戊辰年後元蠶絲改所において鑑札相渡有之候處今度國內一般生絲渡世のもの其土地の模様ニ寄取結ぶる會社中の者へ別紙雛形の生絲賣買鑑札更ニ大藏省租稅寮より可相渡候間其會社の管轄廳において取調收與可致事

第二條

一右會社へ加入いゝ候者ニ其會社より其管轄廳へ申立管轄廳において開居生絲賣買鑑札相渡當人國郡村町名前等巨細取調鑑札料相添第七條ニ掲る鑑札仕譯書差出候節一同可申立事

第三條

一生絲賣買鑑札相渡候よ付てハ鑑札壹枚よ付金五拾錢つゝ爲鑑札料上納可申付事
但戊辰後元蠶絲改所において相渡候鑑札所持の者ニ鑑札料相納るに不及新鑑札相渡舊鑑札ニ其廳へ引揚燒捨當人國郡村町井名前とも巨細取調可申立事

第四條

一生絲賣買鑑札萬一燒失流失盜難等て失ひ候儀有之其段申出候ハ、事實取調の上新規願

受候節の鑑札料半數上納可申付事

第五條

一生絲賣買鑑札願受候もの向後廢業致度候ハ、其管轄廳へ申立管轄廳よにおいて開居鑑札取上げ第七條鑑札仕譯書差出候節可申立事

第六條

一賣買鑑札一名壹枚ニ限り候儀ニ無之素より賣買上必携の品ニ付手代其外多人數召使賣買いゝ候者ニ願ひ寄何枚ても可相渡尤鑑札料の儀ニ第三條の通收入可致事

第七條

一右ニ掲る鑑札凡積を以其管轄廳へ可相渡置候間收與仕譯書詳明取調年々九月中可申立事

第八條

一各管内無鑑札よて賣買致し候者有之於相顯ニ其品取上げ鑑札料二十倍の科料可申付事
但密賣買候もの他より見出し訴出るにおいてニ其訴主へ取上品拂代金の十分の二褒美として被下候事

第九條

一生絲賣買鑑札ニ自己の相對を以他人へ貸與へ候儀を決して不相成候事
但萬一私ニ貸與候もの有之相顯るゝにおいてニ鑑札料五倍の科料金取立可申事

右之通規則相定候事

表面

番号

租稅寮
押切印

生絲賣買鑑札

何縣管下
國郡村町名
誰

○印ノ邊へ會社ノ印ヲ押ヘキ事

裏面

何縣府廳印

十年三十七號
 布告ヲ以テ廢
 ス現行(七三
 百四十七)參
 照スヘシ

第三千九百四十七 明治六年四月十七日布告
 第五百三十五號

本年第三十二號生絲取締規則布告候處猶詮議ノ上改正追加候條都テ成規ニ從ヒ取扱可申事
 生絲取締規則追加

鑊砲造製造ノ儀ハ一繰毎ニ印紙卷用猶造上ケノ上中結ノ卷紙相用候筈ノ處右ハ相止メ雛形
 ノ通造上ケノ上中結ノ卷紙相用其上へ化粧紙相用可申事

右中結印紙へ封印ノ儀ハ前規則ノ通可相心得事

各改會社ニオイテハ右化粧紙中通白地ノ處へ其國地郡村會社名前相認メ卷仕舞へ改印可致
 事

化粧紙拂下ケ方ノ儀ハ外印紙同様タルヘキ事

中結印紙代價 百枚ニ付新貨五錢

化粧紙代價 一枚ニ付新貨三錢

右化粧紙ノ儀ハ中結印紙ト相離レサル品ニ付裝紙モ百枚入用ノ筈ナリハ必ス一方引分ケ拂
 下ケ不相成候事

鑊砲造ニ相纏ラス小提ニテ賣買イタシ候分ハ提絲同様ノ結紙卷用可申事

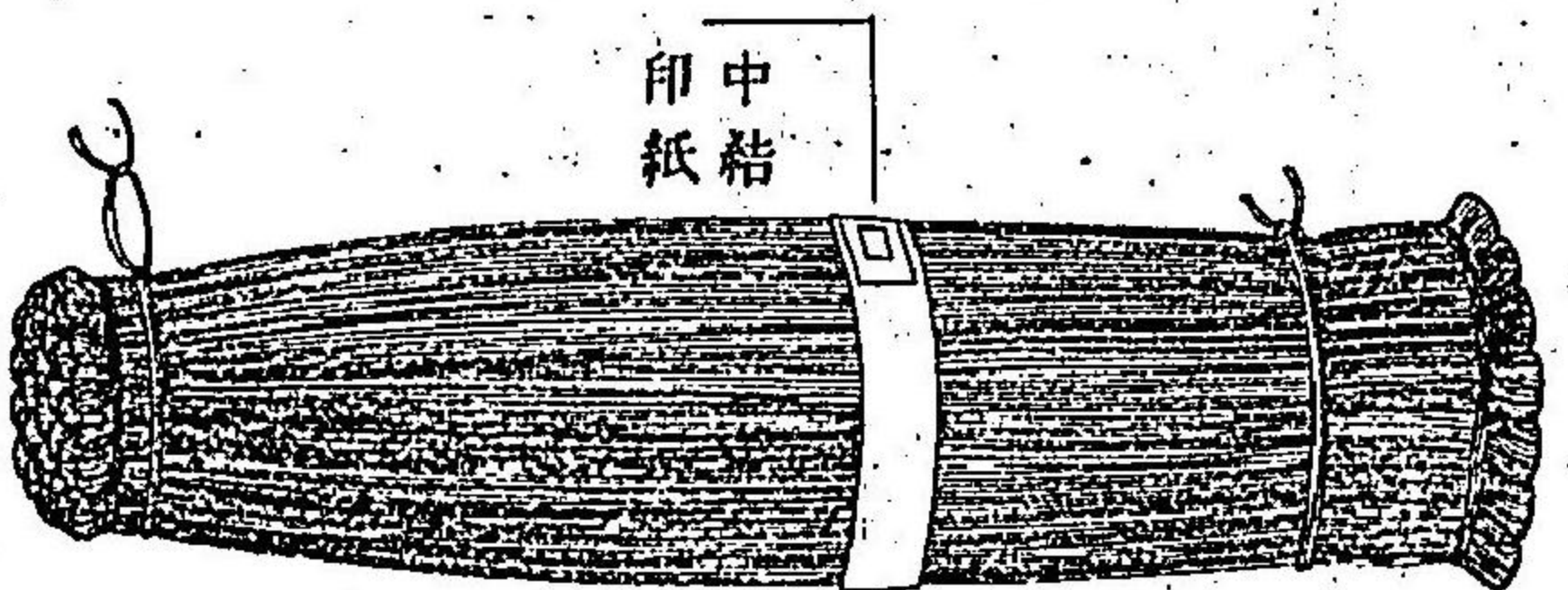
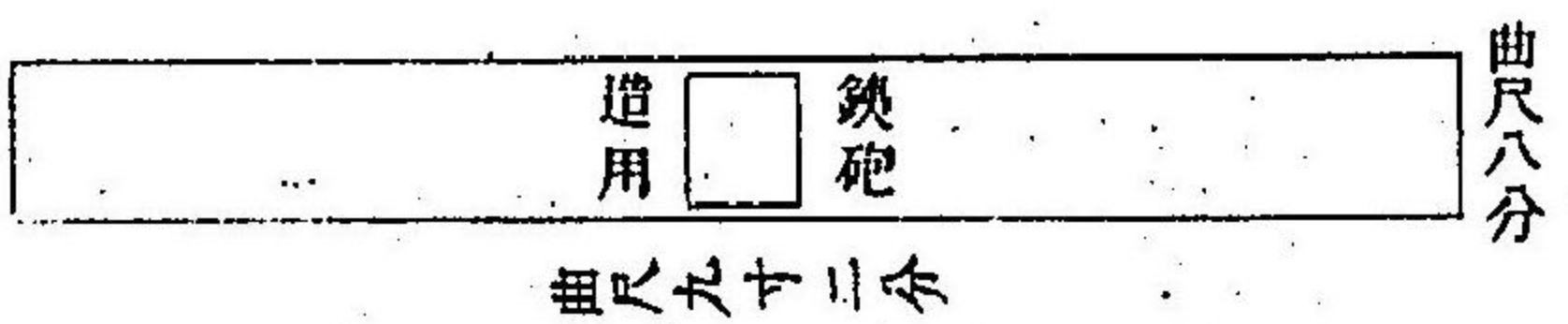
右化粧紙ハ勿論卷紙類等都テ一旦相用候紙ヲ復ヒ相用候儀決テ不相成方一右繰ノモノ有之

ニ於テハ其生絲取上相當ノ過料可申付事
 右之通相定候也

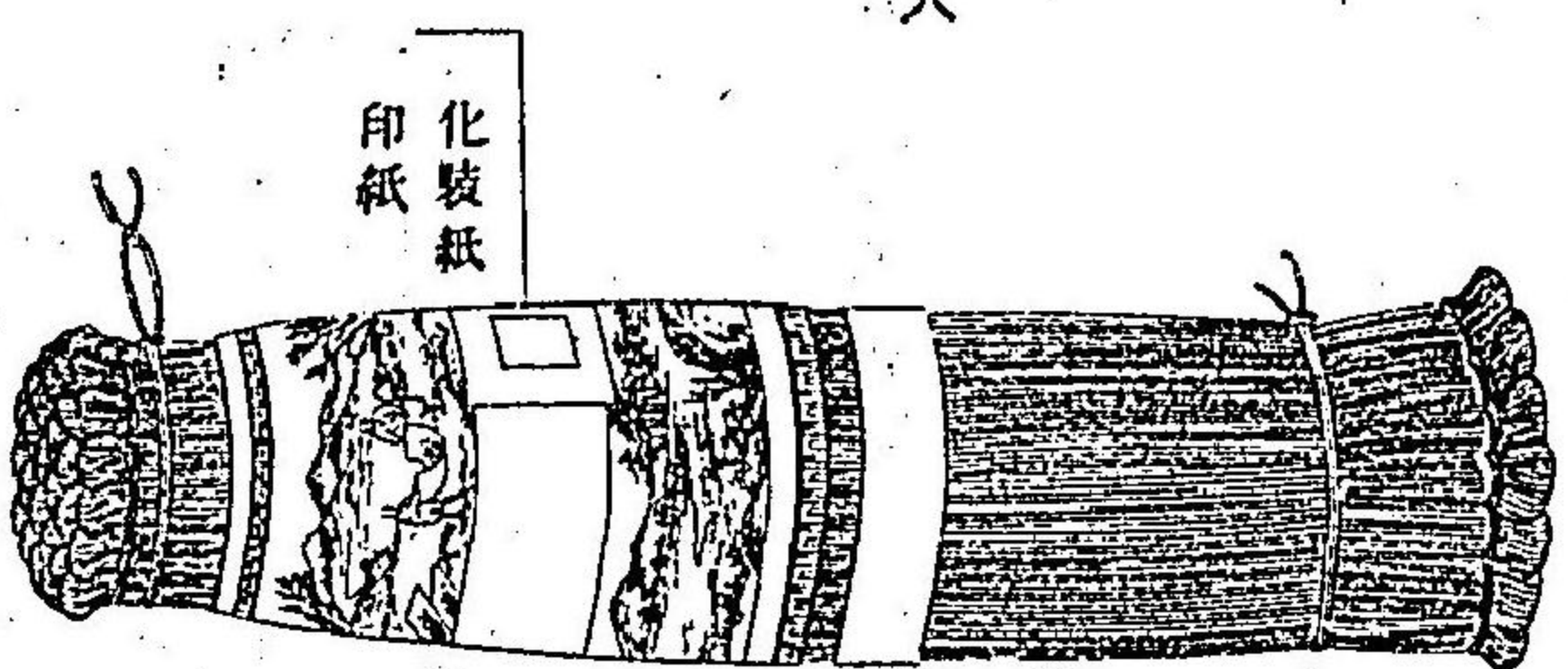
明治六年四月

大藏省

鑊砲造
 中結印
 紙卷仕
 但卷所
 舞ノ所
 製所
 人封印
 可致事



鑊砲造一把中結印紙
 製造人封印雛形



鑊砲造上
 段ノ手續
 ヲ以て上
 紙相用候
 雛形
 但卷仕
 舞ノ處
 製所
 人封印
 可致事

凡六十繰正味三百目ヲ以一把トス
 凡三十把正味九貫目ヲ以一把トス

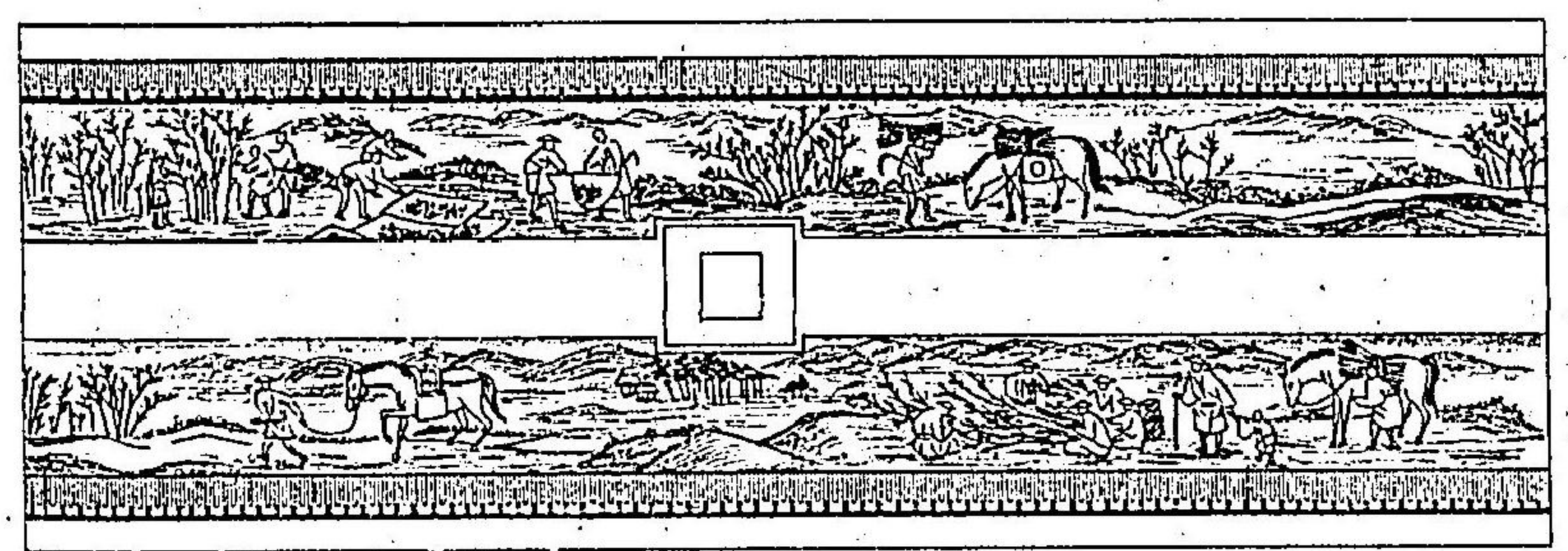
製造人
封印寸
法
曲尺六分
租税目本



摸樣略之

會社改
印寸法
曲尺八分
租税目本

鍍砒造
紙化造
印紙西
用紙西
横二切
卷仕舞
へ會社
改印可
致事



略圖之面

第三千九百四十八

明治六年四月廿九日大藏省布達

第七十二號

本年第百三拾五號ヲ以御布告相成候生絲取締規則追加中鍍砲造用中結印紙雛形寸法長九寸貳分ト有之候處其土地ノ仕來ニ依リ右寸法ニテハ卷不足相成候哉モ難計候間長壹尺壹寸程ノ卷紙可相渡候條其段可相心得尤目方ノ儀ハ取締ニモ關係致シ候儀ニ付規則面ノ通一把目方三百目ヲ限り候儀ト可相心得此段申達候事

第三千九百四十九

明治六年五月廿日大藏省布達

第八十一號

生絲製造ノ儀頻年詐偽濫製ノ流弊不少御國損ヲ招聲譽ヲ削却致シ不相濟事ニ付弊習矯正ノ爲メ本年第三拾二號生絲取締規則公布相成六月一日ヨリ實際施行ノ筈ニ有之其後當省第十三號ヲ以橫濱生絲改會社規則相添各地方便宜ノ地同様改會社設立ノ儀相達候趣モ有之候處未タ何等ノ申立モ無之向有之右ハ既ニ期日切迫致シ從テ賣買營業ノ滯碍可相成儀ニ付管下營業ノ者共へ篤ト申諭橫濱社則ニ照準シ結社ノ方法取設規則取調早々何出候様可致此段相達候事

第三千九百五十

明治六年六月二日大藏省布達

第八十八號

十年內務省
以テ消ル(第
三十九百六十
シ)參照スヘ

十年三十七號
布告及內務省
依テ消ル(第
三十九百六
十一)及現行
七(三十四十
シ)參照スヘ

生絲取締之儀ニ付本年第三十二號公布ノ趣モ有之開港場ハ勿論各地於テモ夫々改會社設立
六月一日ヨリ新舊内外賣買トモ御規則ノ通相心得印紙受取ノ上會社ヘ下ケ渡會社於テ製糸
人共ヘ賣渡可申答ノ處地方ニ寄營業ノモノ僅少ニシテ目今會社設立ノ場合ニ難運生糸結印
紙類并賣買鑑札等下渡方及ヒ改受方等差支候向モ可有之右等ノ地方ハ素ヨリ他管内タリ共
其辨利ニ從最寄ノ會社ヘ組入候答ニ付營業人共ヘ申諭製糸取締ノ御趣意貫徹候様可取計此
段相達候事

第三千九百五十一 明治六年六月二日大藏省布達

第九十一號

十年內務省
依テ消ル(第
三十九百六
十一)參照スヘ

本年第四拾號當省布達生絲賣買鑑札ノ儀ハ其土地ノ摸樣ニ寄取結タル生糸改會社於テ六月
一日ヨリ印紙賣捌并製糸改方致シ候手續ニテ右社中ノ者ヘ鑑札下渡候儀ニ付同日以後ハ無
鑑札ニテ生糸賣買等致シ候モノハ曾テ無之答ニ候得共若心得違ノ者有之候テハ不相濟儀ニ
付尙管内ヘ普達可致置候此段更ニ相達候事

第三千九百五十二 明治六年七月九日租稅寮布達

府 縣

十年內務省
依テ消ル(第
三十九百六
十一)參照スヘ

今般各地方生糸改會社設立相成生糸類爲海外輸出逐次開港場ヘ輸送可致ニ付テハ各會社印
鑑雛形并ニ社長人名共左ノ府縣ヘ早々差廻シ候様可致事

但會社未立之縣ハ早々結社方法爲取調許可之上本文同様可差廻事

第三千九百五十三 明治七年二月七日大藏省布達

第八號

十年內務省
依テ消ル(第
三十九百六
十一)參照スヘ

昨六年三月中生絲賣買鑑札改正相達候雛形書式ニ年月日認入之儀掲載無之候處往々不都合
之儀モ有之候間自今鑑札下渡之際々者別紙書式之通年月日認入可申尤是迄追々相渡置候分
者漸ヲ以認入候儀ト可相心得此旨更ニ相達候事

生絲賣買鑑札

年號月日

何 府 廳 印

第三千九百五十四

明治七年三月十九日內務省達

乙第二十四號

生絲取締ノ儀ニ付テハ明治六年第三十二號公布ノ趣モ有之生絲每一繰印紙卷用可致等ノ處山造リ杯ト相唱ヘ一把ニ不纏分ハ印紙不相用商人共買集造直シノ上印紙相用候地方モ有之哉ノ趣右ハ畢竟御趣意柄誤認致シ不都合ノ事ニ付向後右様ノ向ハ商人共ハ賣渡前屹度印紙卷用候様管内製絲營業ノ者共ハ普達可致候此旨相達候事

第三千九百五十五

明治七年六月十三日內務省布達

甲第十三號

生絲用諸印紙從來赤色ニ候處詮議ノ次第有之中結印紙小繰卷印紙并鐵砲造用中結印紙ノ三種以來青色ニ致更正當分ノ内赤色印紙取交可相渡候條此旨布達候事

第三千九百五十六

明治七年七月四日內務省布達

甲第十七號

生絲卷印紙寸法長五寸五分ノ處詮議ノ次第有之向後更ニ五寸ト相定メ候尤モ當分ノ内五寸以上ノ分取交可下渡條此旨布達候事

第三千九百五十七

明治七年十月十七日內務省布達

甲第廿七號

十年卅七號布
告ヲ以テ廢ス
現行(七)三三
四十七)參照
スヘシ

十年卅七號布
告ヲ以テ廢ス
現行(七)三三
四十七)參照
スヘシ

十年卅七號布
告ヲ以テ廢ス
現行(七)三三
四十七)參照
スヘシ

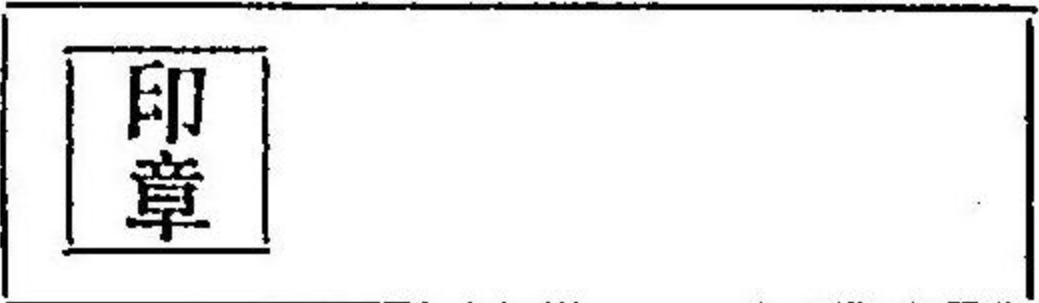
十年卅七號布
告ヲ以テ廢ス
現行(七)三三
四十七)參照
スヘシ

十年卅七號布
告ヲ以テ廢ス
現行(七)三三
四十七)參照
スヘシ

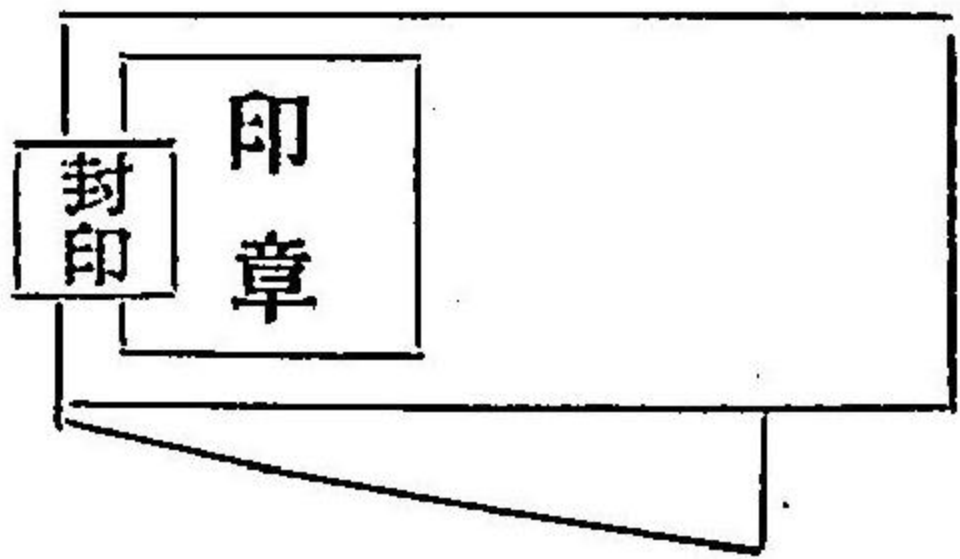
生絲小繰印紙卷用ノ儀是マテ印章卷込或ハ相顯候向モ有之不都合ニ付以來雛形ノ通押印ノ位置變更候條印章相顯シ卷立製造人トモ封印ヲ以印章ヘ掛ケ繼印可致候尤從來ノ小繰印紙當分ノ内取交相渡候條印章ヨリ凡三分前後ニテ折返シ卷用繼印等前同様可相心得此旨布達候事

雛形

位置變更
小繰印紙
印章寸法
等從之
通



從來小繰
印紙折返
印章上シ
製造人封
印ヲ以シ
繼印掛ケ
候形シ



小繰卷立
紙造人
封印ヲ
以繼印
致シ候
形



印紙卷仕舞

第三千九百五十八

明治九年三月廿四日布告

第三拾六號

明治六年第三拾貳號布告生絲製造取締規則第十三條左ノ通追加候條此旨布告候事

第十三條

第十三類 生絲

二百十七

一 取上品ハ第七條第十條ニ照シ相當ノ印紙ヲ用ヒ其結目へ取上品ノ印ヲ押シテ其品第ニ當ル時ハ其上包ニ印ヲ押スヘシ入札拂可取計事
但入札拂ハ其地ノ裁判官ニテ處分シ印紙代ハ其地方廳定額常費金ヲ以可任拂事

曲尺六分

取上品
印影

取上品

取上品

第三千九百五十九

明治九年七月四日大藏省達

乙第五十九號

商船生絲牛馬賣買鑑札改名代替轉居等ニテ鑑札書替下渡候節ハ八年^{十一月}第一百六十六號公布ニ準據シ可取計此旨相達候事

第三千九百六十

明治九年九月廿一日内務省達

乙第七號

明治六年大藏省第四十號布達生絲賣買鑑札渡方規則中第十條左ノ通追加候條此旨相達候事

第十條

一 玉絲鬘斗糸屑糸皮ムキ糸ハ勿論繭真綿出壳繭山繭糸賣買渡世ノ者ト雖生絲賣買鑑札提

十年内務省第七號布達生絲賣買鑑札渡方規則中第十條左ノ通追加候條此旨相達候事
以テ廢スヘシ
三十九百六十
一)參照スヘシ

携可爲致事

第三千九百六十一

明治十年四月卅日内務省達

乙第四十八號

府 縣

明治六年第四十號大藏省布達生絲賣買鑑札之儀以後廢止候條此旨相達候事

鳥獸獵

第三千九百六十二 明治元年四月廿一日布告

砲術之儀ハ一日モ怠ルヘカラス亦輕々布不可弄者ニ候處近來市中ニ於テ往々猥リニ發砲シ或ハ鳥打杯慰ニ致シ候者モ有之哉ニ相聞ヘ如何ノ事ニ候萬一ソレ玉等有之候テハ實ニ不相濟儀ニ候以來篤ク相心得タトヒ山野タリトモ容易之振舞不致様其筋々ヨリ嚴重ニ可申付候若御趣意ニ戻リ候者有之ニオイテハ屹度可被及御沙汰候事

但洛外ニ被立置候假調練場并ニ諸藩邸内ニ於テ被差許置候角場ニテ稽古ノ儀ハ格別ノ事

第三千九百六十三 明治元年九月達

近來諸川々又ハ郊外ニ於テ猥リニ鳥打致シ候趣當節農事繁多之時節農民共別テ難澁ノ旨申出候兼テ御沙汰之次第モ有之處甚不埒之至向後取締ノ者差出シ候間爲心得此段申達候事

第三千九百六十四 明治二年四月廿八日達

砲發ノ儀ハ市中端々ニ至ル迄從來嚴禁之處近頃猥ニ小銃ヲ以鳥ヲ打取候者有之哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候向後右様之儀於有之者巡邏兵隊其外取締ノ者見掛次第姓名取糺シ銃器取上ケ其主人ヘ可及沙汰候條諸向家來末々ニ至迄心得違ノ者無之様主人々々ヨリ屹度示置可申旨御沙汰候事

第三千九百六十五 明治五年二月廿日大藏省布達

六年百十號布告ニ依テ消ル(第三千九百六十九)參照スヘシ

六年百十號布告ヲ以テ廢ス(第三千九百六十九)參照スヘシ

六年百十號布告ヲ以テ廢ス(第三千九百六十九)參照スヘシ

六年二十五號布告ヲ以テ廢ス

同年百十號布告ヲ以テ廢ス(第三千九百六十九)參照スヘシ

第二十三號

此程銃砲取締規則御布告相成候處規則中獵銃免許ノ儀一般ノ制法被相設候ニ付テハ從來收入致候獵師役稅額ノ儀モ改正可有之候ヘト追テ相達候迄ハ總テ先ツ是迄ノ通り可致收入事但獵師役ノ名義ハ相廢シ獵銃免許稅ト相唱候事

第三千九百六十六 明治六年一月廿日布告

第廿五號

鳥獸獵免許取締規則等別紙ノ通被定候ニ付管内無遺漏觸示シ願出候者有之候者ハ身元并近傍故障有無相糺差支無之ハ規則ニ照準鳥獸獵免許鑑札相渡屹度取締可相立事

但從前ノ獵銃稅ヲ相廢シ第二十八號布告ノ銃砲取締規則第六條ハ此規則ニ引換候事

一從來鳥獸獵差許來候地所ノ字地名共取調七月迄大藏省ヘ届出銃獵ノ分ハ陸軍省ヘモ可届出事

但從來許來候地所ニテモ人民障得相成候場所ハ更ニ禁止ノ見込取調本文同様可申立事

一鳥獸獵免許ノ者ハ新古ニ拘ラス名面取調毎年十二月迄大藏省ヘ届出銃獵ノ分ハ陸軍省ヘモ可届出事

一鑑札免許稅ハ收入ノ度毎大藏省ヘ相納一ヶ年分一人別帳ヲ製シ毎年十二月限り同省ヘ差出右總計ハ雜稅帖ヘ組入歳入皆濟帖ヲ以成算可致事

- 一新規免許鑑札願出候者ハ時間ノ遲速ニ拘ラス税金ハ一ケ年ノ本額可爲納事
- 一過料金ハ一ケ年ニ括リ明細仕譯書ヲ以テ司法省ヘ可差出事
- 一鑑札雛形之通相心得焼印并割印ノ儀ハ在來相用爲見本一枚大藏省ヘ可差出事
- 一從前免許鑑札ヲ渡置モノ此規則ニ從ヒ鑑札改渡税金上納濟ノ分ハ下戻更ニ本額ノ税金可爲致上納事

右之通候事

鳥獸獵規則

- 第一條 銃砲ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ以テ生活トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス
- 第二條 銃獵ノ事自今免許鑑札ナキモノ一切禁止シ有害ノ鳥獸ヲ威シ或ハ殺スコトハ地方官ノ便宜ニヨリ臨時ノ免許ヲ與フヘシ
- 第三條 職獵遊獵共必ス願書ニ名住所身分年齢ヲ記シ地方官廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ケ出獵ノ節ハ必ス之ヲ所持スヘシ
- 第四條 獵鑑札ハ一人一己ノ用トナスヘクシテ只一ケ年ノミ効アリトス
- 第五條 鑑札ヲ渡スニハ職獵ニハ一圓遊獵ニハ十圓ツ、ノ稅ヲ納ムヘシ
- 第六條 鑑札ハ各地方廳ニテ別紙雛形ノ通製造シ相與ヘ尙翌年モ願出ルモノハ最前ノ手續ヲ用ユヘシ

同年三十八號
布告ヲ以テ六
ハ五ノ誤トス
六十七ニア
リ

同年五十七號
布告ヲ以テ第
十條ノ改正ス
第十七ニア
リ

第七條 鑑札ハ借貸或賣買スルコトヲ禁ス

第八條 鑑札ヲ遺失スル者及遺失セル鑑札ヲ拾ヒ得ル者ハ直ニ管廳ヘ届出ツヘシ

但其遺失セシ者ハ印鑑遺失例ニ照スヘシ

第九條 左ノ輩ヘハ鑑札ヲ與フヘカラス

- 一 十六歳以下ノ幼者
- 一 獵銃用ヒ方ヲ知ラサル者
- 一 白痴風癡等人事ヲ辨セサル者
- 一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者
- 一 山林田野川澤等ノ監守者
- 一 獵事ニ關スル諸規則ヲ犯シ前刑ノ言渡ヲ謹守セサルモノ

第十條 左ノ場所ニハ銃獵スヘカラス

- 一 人家稠密ノ地
- 一 人家アル所及人ノ往來作業スル所都テ銃丸ノ迸リテ人ヲ害スルノ恐レアル所
- 一 禁獵制札ノ場所
- 一 他人ノ住居或ハ構内
- 第十一條 銃獵ハ和銃四匁八分玉以下ノ小筒并西洋獵銃等併セ用ユヘシ軍用ノ小銃ニテ鳥

獸ヲ獵スルヲ禁ス

但獵銃ヲ所持スル者銃砲取締規則ニ照準スヘキ事

第十二條 獵ヲ禁スル地ニ非スト雖モ田畑植物ヲ踏荒シ且樹木ヲ毀損スルヲ嚴禁トス

第十三條 銃獵期限ハ十二月一日ヨリ三月中ヲ限トス右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス

但銃獵期限ハ地方ノ撻線ニヨリ其見込ヲ以テ此期限ヲ伸縮シ山間等人家ニ遠隔ノ地ハ其期限ヲ定メサルヲモアルヘシ

第十四條 戶長選卒地主山林田畑川澤等ノ監守者銃獵者所持ノ鑑札ヲ検査スルノ權アルヘシ若シ検査スルヲ否マハ無鑑札ノ者ト見做スヘシ而シテ此諸規則ヲ犯スモノハ右ノ輩申立ニ據リ其罪ヲ論ス猶決シ難キ時ハ證人ヲ以テ證スヘシ

第十五條 犯人アリト雖モ之ヲ即時ニ捕ヘ又ハ其獵具ヲ直ニ取上クルニ及ハス犯人ノ鑑札ヲ所持スルモノ其番號姓名等ヲ取調申立ヘシ若シ鑑札ナキモノハ其姓名住所ヲ聞糾其犯人ニ同行シテ其本宅ヲ認ムヘシ若シ犯人其面ヲ隱シ又其姓名ヲ告ケ肯セス且住所本宅知レサル時ハ最寄ノ役所ニ伴ヒ其身上ヲ聞糾スヘシ

第十六條 此諸規則ヲ犯スモノハ所在裁判所及地方官廳ニテ罪及罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第十七條 銃獵セシ者ノ爲メ其官廳ヘ出訴スル時ハ右出訴ニ屬スル入費其不理ナリト裁判ヲ受クルモノヨリ出サシムルヲ一般ノ公布面通リタルヘシ

第十八條 凡テ再犯以上ノ罰金ハ倍シテ取ルヘシ

但罪ヲ犯シタル時ヨリ十二月内ニ諸規則ヲ犯スモノヲ再犯トス

第十九條 此諸規則ヲ犯スニ詐僞脅迫ノ舉動アル者ハ本律ニ因リ從重科斷ス

第二十條 若シ無力ニシテ罰金ヲ出スト能ハサル者懲役法ニ依ルヘシ

第二十一條 此諸規則ヲ犯スニ由リ他人ニ損害ヲ蒙ラシムル者ハ之ヲ償フ可シ

第二十二條 何ノ罪ヲ問ハス此諸規則ヲ犯スモノ銃器ヲ取揚ケ本罪ヲ科シ及免許ヲ得スシテ獵スル者ハ職獵遊獵ヲ問ハス銃器ヲ取上ケ罰金六圓ヲ科ス

第二十三條 此諸規則ヲ犯シテ獲タル鳥獸ハ之ヲ取上クヘシ

第二十四條 鳥獸ノ死シ或ハ落醉スヘキ餌或ハ藥品ヲ用ヘテ獵スルヲ禁ス

第二十五條 總テ犯禁ノモノヲ他ヨリ證據ヲ取リ訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞譽トシテ賜フヘシ

罪名	職獵罰金	遊獵罰金
免許ヲ得テ鑑札ヲ持サル者	二十錢	壹圓
他人ノ遺失セル鑑札ヲ以テ獵スル者	二圓	十二圓
禁獵制札ノ場所ニ於テ獵スル者	一圓四十錢	六圓
獵ヲ禁スル地ニ於テ獵スル者	一圓四十錢	六圓

獵ヲ禁スル時限中獵スル者	二圓	十二圓
鑑札ヲ貸シ或ハ之ヲ賣ル者	二圓	十二圓
鑑札ヲ借り或ハ之ヲ買フ者	一圓四十錢	六圓
鳥獸ノ死シ或ハ落醉ス可キ餌等ヲ以テ獵スル者	二圓	十二圓

免許鑑札雛形

第何號

職獵銃鑑札
 某^府管下
 某區某郡某^村身分
 何某

豎二寸

年號干支月
 許 某^府廳
 燒印

遊獵銃鑑札
 前同斷
 何某

豎二寸五分

年號干支月
 許 某^府廳
 燒印

第三千九百六十七 明治六年二月七日布告

第二十八號

第二十五號布告鳥獸獵規則第九條十六歲ノ六ノ字五ノ字ノ誤リニ候間此段相達候事

第三千九百六十八 明治六年二月十七日布告

第五十七號

第二十五號布告鳥獸獵規則第十條ノ第二ケ條左ノ通被改候條此段相達候事

一假令郊外ト雖^レ銃丸ノ進リテ人ヲ害スルノ恐レアル所

第三千九百六十九 明治六年三月十八日布告

第一百號

本年第二十五號布告鳥獸獵免許取締規則別紙ノ通改正候ニ付各管内ヘ布達シ願出候者ハ身本并近傍故障有無取調差支無之ハ規則ニ照準免許鑑札相渡屹度取締可致事

但從前ノ獵銃稅ヲ相廢シ第二十八號布告ノ銃砲取締規則第六條并發砲ノ儀ニ付戊辰九月己巳四月庚午五月中達ノ趣ハ此規則ニ更換候事

一從來鳥獸獵差許來候地所ノ字地名共取調七月迄大藏省陸軍省ヘ可届出事

但從來許來候地所ニテモ人民障得相成候場所ハ更ニ禁止ノ見込取調本文同様可申立事

一鳥獸獵免許ノ者ハ新古ニ拘ハラヌ名面取調每年十二月迄大藏省陸軍省ヘ可届出事

同年百十號布告ヲ以テ廢ス

同年百十號布告ヲ以テ廢ス

七年百二十二號布告ヲ以テ改正ス(第三千九百七十)ニアリ

- 一 免許鑑札料ハ收入ノ度毎ニ大藏省ヘ相納一ケ年分一人別帳ヲ製シ毎年十二月限り同省ヘ指出右總計ハ雜稅帖ヘ組入歲入皆濟帖ヲ以テ成算可致事
- 一 過料金ハ一ケ年ニ括リ明細仕譯書ヲ以テ司法省ヘ可差出事
- 一 鑑札雛形ノ通相心得燒印并割印ノ儀ハ在來相用爲見本一枚大藏省ヘ可差出事
- 一 従前免許鑑札ヲ渡置モノ此規則ニ從ヒ鑑札改渡税金上納濟ノ分ハ下戻更ニ本額ノ免許料可爲致上納事

右之通候事

鳥獸獵規則

- 第一條 銃砲ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ以テ生活トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス
- 第二條 銃獵ノ事自今免許鑑札ナキモノ一切禁止シ有害ノ鳥獸ヲ威シ或ハ殺スコトハ地方官ノ便宜ニヨリ臨時ノ免許ヲ與フヘシ
- 第三條 職獵遊獵トモ必ス願書ニ名住所身分年齢ヲ記シ地方官廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ケ出獵ノ節ハ必ス之ヲ所持スヘシ
- 第四條 獵鑑札ハ一人一己ノ用トナスヘクシテ只一ケ年ノミ効アリトス
但毎年十一月ヲ以テ鑑札ヲ改メ渡スヘシ
- 第五條 鑑札ヲ渡スニハ職獵ニハ一圓遊獵ニハ十圓ツ、ノ免許料ヲ納ムヘシ

第六條 鑑札ハ各地方廳ニテ別紙雛形ノ通製造シ相與ヘ尙翌年モ願出ルモノハ最前ノ手續ヲ用ユヘシ

第七條 鑑札ハ借貸或ハ賣買スルコトヲ禁ス

第八條 鑑札ヲ遺失スル者及遺失セル鑑札ヲ拾ヒ得ル者ハ直ニ管廳ヘ届出ツヘシ
但其遺失セシ者ハ印鑑遺失例ニ照スヘシ

第九條 左ノ輩ヘハ鑑札ヲ與フヘカラス

- 一 十五歳以下ノ幼者
 - 一 獵銃用ヒ方ヲ知ラサル者
 - 一 白痴風癲等人事ヲ辨セサル者
 - 一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者
 - 一 山林田野川澤等ノ監守者
 - 一 獵事ニ關スル諸規則ヲ犯シ前刑ノ言渡ヲ謹守セサルモノ
- 第十條 左ノ場所ニハ銃獵スヘカラス

- 一 人家稠密ノ地距離三丁以内
- 一 假令郊外ト雖モ銃丸ノ進リテ人ヲ害スルノ恐レアル所
- 一 禁獵制札ノ場所

一他人ノ住居或ハ柵牆等ヲ以テ圍ヒアル場所

第十一條 獵銃ハ和銃四匁八分玉以下ノ小筒并西洋獵銃等併セ用ユ可シ軍用ノ小銃ニテ鳥獸ヲ獵スルヲ禁ス

但獵銃ヲ所持スル者銃砲取締規則ニ照準スヘキ事

第十二條 獵ヲ禁スル地ニ非スト雖モ田畑植物ヲ踏荒シ且樹木ヲ毀損スルヲ嚴禁トス

第十三條 銃獵期限ハ十一月一日ヨリ三月三十一日迄ヲ限トス右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス

但銃獵期限ハ地方ノ摸樣ニヨリ其見込ヲ以テ此期限ヲ伸縮シ山間等人家ニ遠隔ノ地ハ

其期限ヲ定メサルヲモアルヘシ

第十四條 戶長邏卒地主山林田畑川澤等ノ監守者銃獵者所持ノ獵札ヲ檢査スルノ權アルヘシ

シ若シ檢査スルヲ否マハ無獵札ノモノト見做スヘシ而シテ此諸規則ヲ犯スモノハ右ノ

費申立ニ據リ其罪ヲ論ス猶決シ難キ時ハ證人ヲ以テ證スヘシ

第十五條 犯人アリト雖モ之ヲ即時ニ捕ヘ又ハ其獵具ヲ直ニ取上クルニ及ハス犯人ノ獵札

ヲ所持スルモノ其番號姓名等ヲ取調申立ヘシ若シ獵札ナキモノハ其姓名住所ヲ聞糾其犯

人ニ同行シテ其本宅ヲ認ムヘシ若シ犯人其面ヲ隠シ又其姓名ヲ告ケ肯セス且住所本宅知レ

サル時ハ最寄ノ役所ニ伴ヒ其身上ヲ聞糾スヘシ

第十六條 銃獵セシ者ノ爲メ其官廳へ出訴スル時ハ右出訴ニ屬スル入費其不理ナリト裁判

ヲ受クルモノヨリ出サシムルヲ一般ノ公布面通リタルヘシ

第十七條 凡テ再犯以上ノ罰金ハ倍シテ取ルヘシ

但罪ヲ犯シタル時ヨリ十二月内ニ此諸規則ヲ犯スモノヲ再犯トス

第十八條 諸規則ヲ犯スニ詐僞脅迫ノ舉動アル者ハ本律ニ因リ從重科斷ス

第十九條 此諸規則ヲ犯スニ由リ他人ニ損害ヲ蒙ラシムル者ハ之ヲ償フ可シ

第二十條 何ノ罪ヲ問ハス此諸規則ヲ犯スモノハ獵札ヲ取揚ケ本罪ヲ科ス

第廿一條 免許ヲ得スシテ獵スル者ハ五圓ヨリ不少二十圓ヨリ不多罰金ヲ出サシム

第廿二條 此諸規則ヲ犯シテ獲タル鳥獸ハ之ヲ取上クヘシ

第廿三條 鳥獸ノ死シ或ハ落醉スヘキ餌或ハ藥品ヲ用井テ獵スルヲ禁ス

罪名	職獵罰金	遊獵罰金
免許ヲ得テ獵札ヲ持サル者	二十錢	一圓
他人ノ遺失セル獵札ヲ以テ獵スル者	二圓	十二圓
獵ヲ禁スル地ニ於テ獵スル者	一圓四十錢	六圓
獵ヲ禁スル時限中獵スル者	二圓	十二圓

鑑札ヲ貸シ或ハ之ヲ賣ル者	二圓	十二圓
鑑札ヲ借り或ハ之ヲ買フ者	一圓四十錢	六圓
鳥獸ノ死シ或ハ落醉ス可キ 卸等ヲ以テ鑑スル者	二圓	十二圓

免許鑑札雛形

第何號

職獵銃鑑札

某府管下
某區某郡某村身分
何 某

中田ヤ川

豎三寸

年號何年何月

割免許某縣廳

燒印

遊獵銃鑑札

前同斷
何 某

中田ヤ川

豎二寸五分

年號何年何月

割免許某縣廳

燒印

第三千九百七十

明治七年十一月十日布告

第二百二十二號

十年十一月號
改正
布
三
號
正
三
號
現
行
百
四
十
九
號
ア
リ

明治六年三月第十號布告鳥獸獵規則別冊ノ通改正候條犯則ノ者取締方ノ儀左ノ通可相心得
此旨布告候事

一 犯則ノ者有之節ハ何人ニ限ラス之ヲ即時ニ捕ヘ又ハ其獵具ヲ直ニ取上クルニ及ハス其犯
則ノ輕キ者ハ鑑札ノ番號姓名等ヲ取調役場區戸長又ハ警察官ヘ申立ヘシ若シ鑑札ナキ者
ハ其姓名住所ヲ聞糾シ其犯人ニ同行シテ其本宅ヲ認ムヘシ若シ犯人言語不通或ハ其面ヲ
隠シ又其姓名ヲ告ケ肯セス且住所本宅知レサル時ハ近傍ノ役場ヘ伴ヒ穩便ニ其身上ヲ聞
糾スヘシ若シ其犯セル事柄緩クスヘカラス且後日取調ノタメ證據ヲ要スヘキモノト思量
スル時ハ直ニ其場ノ地主カ又ハ近傍ノ者或ハ往來筋ナラハ其通り掛リノ者ニテモ兩三人
ニ其犯セシ次第ヲ認メ置セ直ニ其事柄ヲ役場ヘ報知スヘシ若シ役場ノ遠キ時ハ其最寄ノ
人家ヲ借り假リニ犯人ヲ伴ヒ置キ已レハ其人ヲ看護シ証人ノ内ヲ撰ミテ報知セシムヘシ
一 犯人高貴ノモノト認ル時ハ前條ノ處置ヲ施ストモ別テ粗暴ノ事ナキ様注意スヘシ

改正鳥獸獵規則

第一章

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生活トスル者ヲ職獵トシ遊獵トシ遊獵ノタメニスルヲ遊獵トス

第十四類 鳥獸獵

第二條 銃獵ノ事自今免許鑑札ナキモノ一切禁止シ有害ノ鳥獸ヲ威シ或ハ殺ス事ハ地方官ノ便宜ニ依リ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 職獵遊獵共必ス願書ニ國名姓名住所身分年齢ヲ記シ地方官廳へ願出免許鑑札ヲ受ケ出獵ノ節ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第四條 鑑札ハ一期限ノミ効アリトス且一己ノ用トナスヘキモノニシテ借貸賣買或ハ讓受スルヲ禁ス

第五條 鑑札ヲ受ルニハ職獵ハ壹圓遊獵ハ拾圓ツ、ノ銃獵稅ヲ納ムヘシ

第六條 左ノ輩ヘハ鑑札ヲ與フヘカラス

一 拾六歳未滿ノ幼者

一 獵銃用ヒ方ヲ知ラサル者

一 白痴風癲等人事ヲ辨セサル者

一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

一 山林田野川澤等ノ監守者

一 獵事ニ關スル諸規則ヲ犯シ前刑ノ言渡シヲ承服セサル者

第七條 鑑札所持ノ者タリ共左ノ場所ニ於テハ銃獵ヲ禁ス

一 都府ハ勿論人家稠密ノ場所

一 總テ人家ヲ距ル事五拾間以内(ルヤ)

一 衆人群集ノ場所或ハ銃丸ノ達スヘキ恐レアル距離ノ人或ハ家ニ向テ發砲スヘカラ

ス

一 禁獵制札ノ場所

但制札ニハ獵銃貳挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置ヘシ

一 作物植付アル場所

一 社寺人家等ノ構内

第八條 獵銃ハ和銃四匁八分玉以下ノ小筒并ニ西洋獵銃等併セ用フヘシ軍用ノ小銃ニテ鳥

獸ヲ獵スルヲ禁ス

但獵銃ヲ所持スル者銃砲取締規則ニ照準スヘキ事

第九條 銃獵期限ハ九月十五日ヨリ三月十五日迄ヲ一期限トス右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス

但地方ノ模様ニ依リ其見込ヲ以テ此期限ヲ伸縮シ或ハ山間等人家ニ遠隔ノ地ハ

其期限ヲ定メサル事モアルヘシ

第十條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十條 出獵ノ際所持ノ鑑札ヲ檢査スルヲ乞ハレタル時ハ拒ム事ナク之ヲ示スヘシ

第十條 地券ヲ所持スル土地ノ所有者其土地内ニ於テ他人ノ銃獵スルニ差支アル時ハ其

時間中第七條ノ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲ設ケ置クヘシ

第二章

第拾三條 銃獵セシ者ノタメ其管廳ヘ出訴スル時ハ右出訴ニ屬スル入費其不理ナリト裁判ヲ受クルモノヨリ出サシムル事一般ノ規則通りタルヘシ

第拾四條 凡テ再犯以上ノ罰金ハ倍シテ取ル可シ

第拾五條 此諸規則ヲ犯スニ詐偽脅迫ノ舉動アル者ハ本律ニ依リ從重科斷ス

第拾六條 若シ無力ニシテ罰金ヲ出スヲ能ハサル者ハ懲役法ニ依ルヘシ

第拾七條 此諸規則ヲ犯スニ由リ他人ニ損害ヲ蒙ラシムル者ハ之ヲ償フヘシ

第拾八條 總テ犯禁ノモノヲ他ヨリ証跡ヲ取り訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞譽トシテ賜フヘシ

第拾九條 此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少カラス貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第百九百七十一 明治七年十一月十日達

第百四十六號

使 府 縣

鳥獸獵規則別冊ノ通改正布告候條取締方不都合無之様處分可致此旨相達候事

但鑑札ハ兼テ内務省ヨリ可請取置事

改正鳥獸獵規則

十年十一號布告ヲ以テ改正ス現行(七三)百四十九アリ

第一章

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生活トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス

第二條 銃獵ノ事自今免許鑑札ナキモノ一切禁止シ有害ノ鳥獸ヲ威シ或ハ殺ス事ハ地方官ノ便宜ニ依リ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 職獵遊獵共必願書ニ國名姓名住所身分年齢ヲ記シ地方官廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ケ出獵ノ節ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第四條 鑑札ハ一期限ノミ効アリトス且一己ノ用トナスヘキモノニシテ借貸賣買或ハ讓受スルヲ禁ス

第五條 鑑札ヲ受クルニハ職獵ハ一圓遊獵ハ拾圓ツ、ノ銃獵稅ヲ納ムヘシ

第六條 左ノ輩ヘハ鑑札ヲ與フヘカラス

- 一 拾六歳未滿ノ幼者
- 一 獵銃用ヒ方ヲ知ラサル者
- 一 白痴風癲等人事ヲ辨セサル者
- 一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者
- 一 山林田野川澤等ノ監守者
- 一 獵事ニ關スル諸規則ヲ犯シ前刑ノ言渡シヲ承服セサル者

第十四類 鳥獸獵

第七條 鑑札所持ノ者タリ共左ノ場所ニ於テハ銃獵ヲ禁ス

一 都府ハ勿論人家稠密ノ場所

一 總テ人家ヲ距ル事五拾間以内(百ヤ)

一 衆人群集ノ場所或ハ銃丸ノ達スヘキ恐レアル距離ノ人或ハ家ニ向テ發砲スヘカラ

一 禁獵制札ノ場所

但制札ニハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置ヘシ

一 作物植付アル場所

一 社寺人家等ノ構内

第八條 獵銃ハ和銃四匁八分玉以下ノ小筒并ニ西洋獵銃等併セ用フヘシ軍用ノ小銃ニテ鳥獸ヲ獵スルヲ禁ス

但獵銃ヲ所持スル者銃砲取締規則ニ照準スヘキ事

第九條 銃獵期限ハ九月十五日ヨリ三月十五日迄ヲ一期限トス右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス

但地方ノ模様ニ依リ其見込ヲ以テ此期限ヲ伸縮シ或ハ山間等人家ニ遠隔ノ地ハ其期限ヲ定メサル事モアルヘシ

第十條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十一條 出獵ノ際所持ノ鑑札ヲ檢査スルヲ乞ハレタル時ハ拒ム事ナク之ヲ示スヘシ

第十二條 地券ヲ所持スル土地ノ所有者其土地内ニ於テ他人ノ銃獵スルニ差支アル時ハ其時間中第七條ノ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲ設ケ置ヘシ

第二章

第十三條 銃獵セシ者ノタメ其管廳ヘ出訴スル時ハ右出訴ニ屬スル入費其不理ナリト裁判ヲ受クルモノヨリ出サシムル事一般ノ規則通りタルヘシ

第十四條 凡テ再犯以上ノ罰金ハ倍シテ取ルヘシ

第十五條 此諸規則ヲ犯スニ詐僞脅迫ノ舉動アル者ハ本律ニ依リ從重科斷ス

第十六條 若シ無力ニシテ罰金ヲ出ス事能ハサル者ハ懲役法ニ依ルヘシ

第十七條 此諸規則ヲ犯スニ由リ他人ニ損害ヲ蒙ラシムル者ハ之ヲ償フヘシ

第十八條 總テ犯禁ノモノヲ他ヨリ証跡ヲ取り訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞與トシテ賜フヘシ

第十九條 此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少カラス二十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第三千九百七十二 明治七年十二月十五日内務省達

乙第七十七號

本年太政官第四百十六號達鳥獸獵免許鑑札下渡ノ儀本年ノ儀ハ既ニ銃獵期中ニモ相成居最

八年内務省七
州六號達ニ依
テ消ル(第三

千九百七十六
參照スヘシ

早從前鑑札渡方ノ際ニ付追テ當省ヨリ下渡候節交換候儀ト相心得當分ノ内從前ノ鑑札ヲ以
營業差許置可申尤都テ規則ニ照準取締方可致候此旨相達候事

第二千九百七十二 明治七年十二月廿四日內務省達

乙第八十一號

本年第二百二十二號布告鳥獸獵規則改正相成候處外國人遊獵免許ノ儀ハ追テ何分ノ儀相達候
マテ鑑札渡シ方見合セ候儀ト可相心得此旨相達候事

第二千九百七十四 明治八年一月廿九日布告

第九號

明治七年十一月 第二百二十二號布告改正鳥獸獵規則中第十六條刪除候條此旨布告候事

第二千九百七十五 明治八年三月十二日司法省達

番外

各 裁 判 所

別紙之通御達相成候條爲心得此旨相達候事

司 法 省

別紙內務省伺銃獵免許鑑札渡方條例中第十條削除之儀聞届候條此旨爲心得相達候事

明治八年三月九日

太政大臣三條實美

銃獵免許鑑札渡方條例之儀再伺

十年內務省
一號達ニ依テ
消ル現行(七
三百五十九)
參照スヘシ

十年十一號布
告ヲ以テ改正
ス現行(七三
百四十九)ニ
アリ

十年內務省
十一號達ニ依
テ消ル現行(七
三百五十四)
參照スヘシ

銃獵免許鑑札渡方條例之儀ニ付當一月八日附ヲ以テ相伺候處同二月四日附ヲ以テ御指令相
成然ル處右條例中第十條之儀ハ別紙之通於大藏省達之趣有之候ニ付刪除致度依テ條例相添
此段相伺候也

明治八年二月廿日

內務卿大久保利通代理

內務大丞林友幸

太政大臣三條實美殿

伺之通

明治八年三月九日

第二千九百七十六 明治八年三月廿日內務省達

乙第三十六號

太政官明治七年十一月第二百二十二號布告同年同月第四百六十六號達鳥獸獵規則改正相成候ニ
付テハ鑑札渡方及取扱向ノ儀左ノ條例ニ照準可取計此旨相達候事

銃獵鑑札渡方條例

第一條

鳥獸獵免許鑑札ハ別紙雛形之通相製當省ヨリ可相渡事

第二條

十年內務省
十一號達ニ依
テ改正ス現行
(七三三五)
四)ニアリ

鑑札ハ兼テ凡積ヲ以テ其管廳へ可相渡置候條管内限リ總計取調毎年六月三十日迄請取方可申立事

第三條

鑑札下ケ渡ノ節ハ毎年管廳於テ帳簿ヲ製シ置番號並住處苗字名身分年齡共詳細登記可致事

第四條

管廳於テ鑑札上ニ記スヘキ國郡苗字名年齡住所共位置雛形ノ通記入押印ノ上下ケ渡可申事

第五條

不定期ノ場所ニテ免許致シ候鑑札ハ一ケ年ヲ一期トシ一般ノ鑑札下ケ渡ノ節新舊引替相渡可申事

第六條

銃獵滿期ノ分ハ鑑札收却ノ上總テ該廳於テ燒却可致事

第七條

凡積ヲ以テ相渡候鑑札殘餘有之節ハ管廳へ預リ置翌年ノ用ニ供シ可申事
但凡積差出候節ハ頁數内譯ニ記載可申立事

第八條

鳥獸獵免許鑑札渡濟ノ上ハ別紙雛形ノ通總計表ヲ製シ翌年四月限リ當省へ可差出事

第九條

銃獵期限ヲ伸縮シ或ハ期限ヲ不定等ノ事有之ハ實際取調其時々可届出事
但不定期ノ場所ハ畧圖控添可届出事

第十條

銃獵犯則ノ者過料金ハ一期限リ明細仕譯書ヲ以テ司法省へ可差出事
但當省へモ可届出事

第十一條

禁獵制作ノ儀別紙雛形ニ照シ製作可致尤其形チ大小ハ適宜ニ任セ可申事
但規則第十二條ニ依リ一般ノ人民ニ於テ取建候節モ同様雛形ニ照準所持地主ノ苗字名ヲ記載可致事

第十二條

銃獵鑑札遺失セシ者並水火盜難等ニテ失ヒ候者有之再應請取方申立候節ハ事實取糺ノ上更ニ下ケ渡方可取計事

府

職

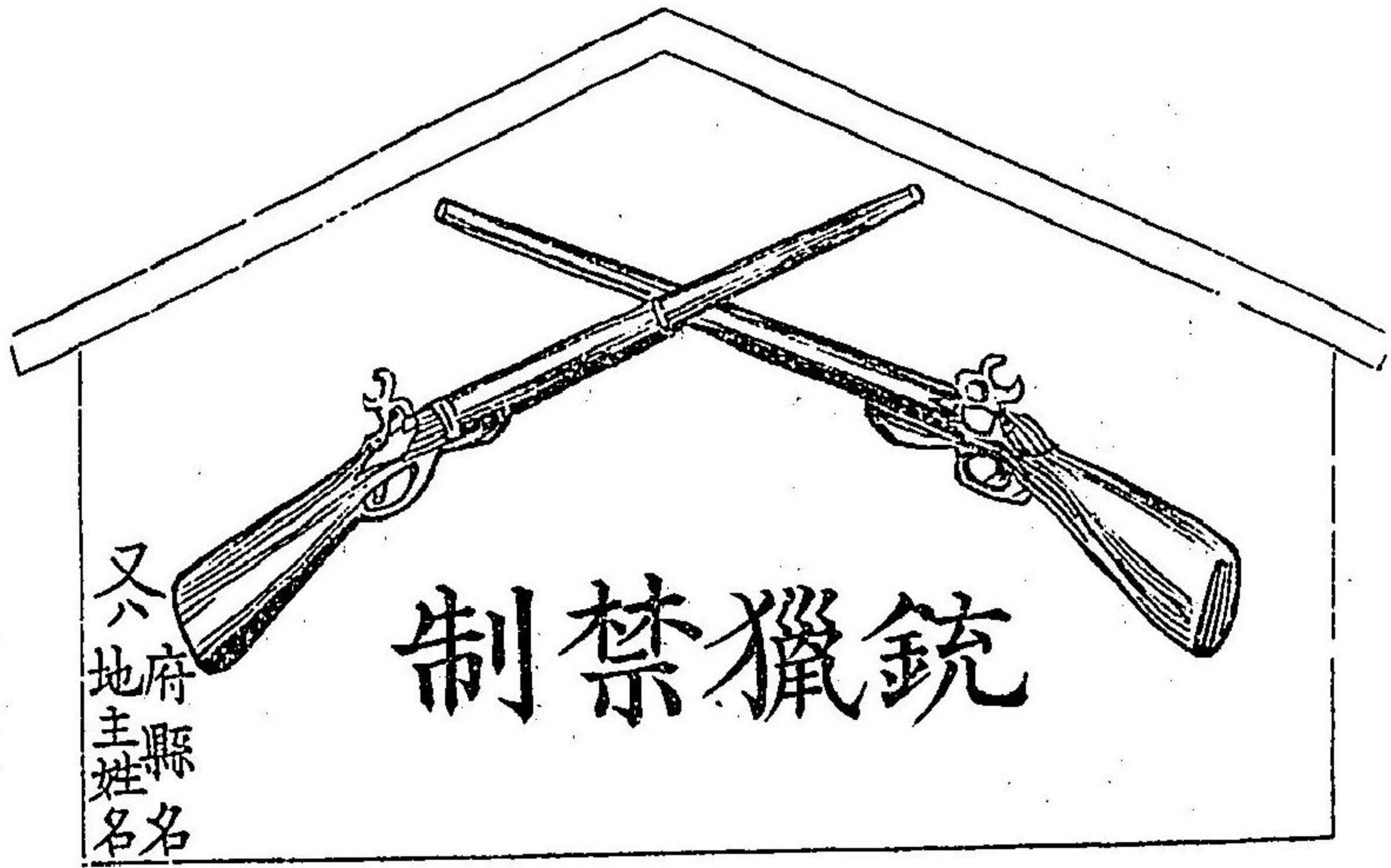
獵

遊

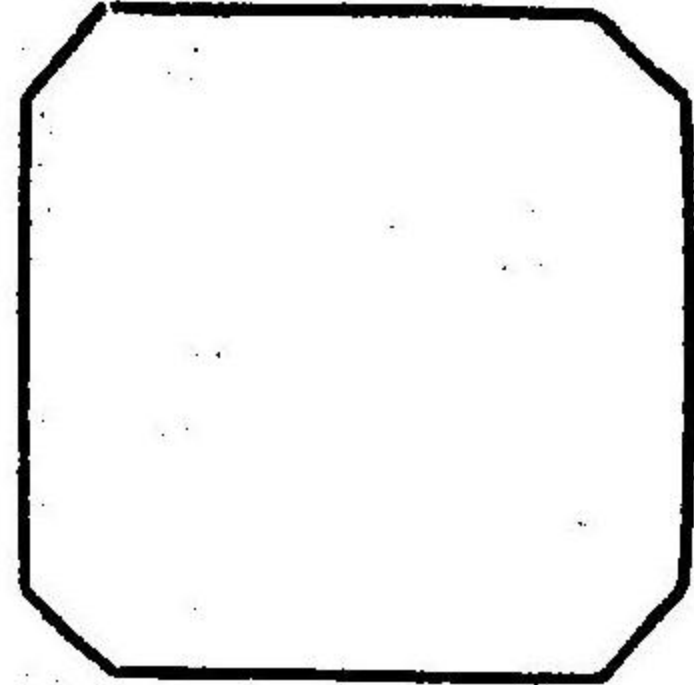
獵

總

計

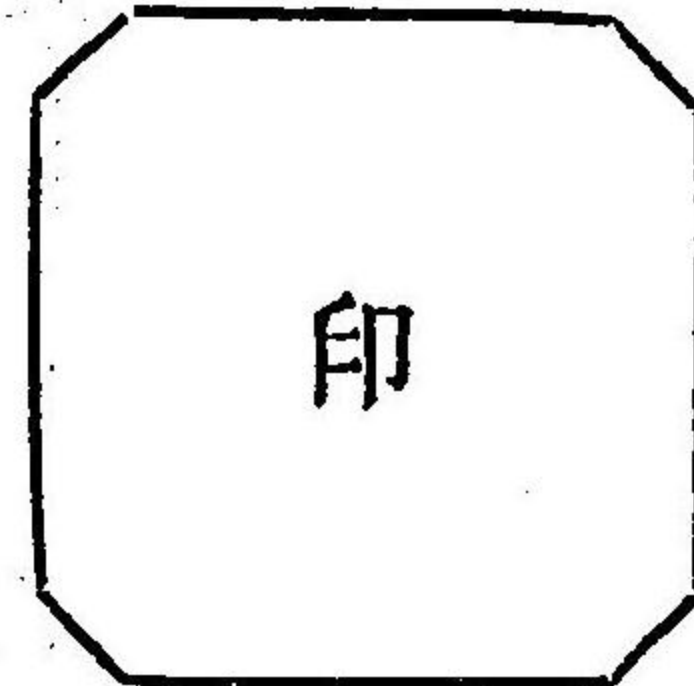


裏面ハ規則ヲ記載有之事



明治 年 月 日

使府縣廳



印

切押

銃獵鑑札

期限	住所 番號	年齡	姓名	本籍	番號
自明治何年何月何日 至明治何年何月何日	何國何郡何區何村町 何番地任或何ノ某方寄置	明治何年何月何十年何ヶ月	何 某	何府縣貫屬華士族平民	職獵第何號

遊獵モ同様記載ノ事

但平民ハ
何縣管下
ト可記載

縣名明治何年鳥獸獵總計表

縣名	明治何年	鳥獸獵總計	免許鑑札		銃獵稅	身分	銃獵名稱	再選	水	鑑札	及銃郡	止銃地
			何千何百枚	何千何百枚								
某地	何年何月	何枚	何千何百枚	何千何百枚	何千何百圓	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
			何千何百枚	何千何百枚								

第三千九百七十七 明治八年五月十七日內務省達
乙第六十三號

本年當省乙第三千九百七十七號達銃獵鑑札渡方條例中第五條左ノ通改正候條此旨相違候事

不定期ノ場所ヨリ免許致候鑑札ハ其年七月ニテ翌年六月迄ヲ一期トシ新舊引替相渡可申事

第三千九百七十八 明治八年十月廿九日內務省達

乙第三百二十九號

本年當省乙第三千九百七十八號達銃獵鑑札渡方條例中第八條左ノ通改正候條此旨相違候事

十年內務省
十一號達ヲ以テ改正ス現行
四(七)三百五
四)ニアリ

第八條

四月限リヲ(七日限リ)ト改ム

第三千九百七十九 明治八年十二月三日司法大丞ヨリ各上等裁判所各裁判所へ通達

外國人銃獵規則之儀ニ付別紙之通外務省ヨリ照會有之候間爲御心得此段御通知ニ及置候也

別紙

我國在留外國人銃獵罰則之儀ニ付目今各公使へ協議中ニテ未一決ノ運ヒニ不至候間公使雇ノ外國人ト雖モ一般銃獵不差許等之處御雇外國人等之内往々銃獵致度旨其雇入應へ願出且規則罰則モ日本政府取設クル處ノ方法ニ從フヘント申立候モ、有之由ニ候得共其國々公使右罰則方法承認不致間ハ本人申立ハ徒言ト相成實用不致候間我成規ヲ遵守スルト否トニ不拘一切不差許儀ニ候條此段爲御心得申進置候也

八年十一月廿二日

外務卿寺島宗則

司法卿大木喬任殿

第三千九百八十 明治九年二月十四日司法大少丞ヨリ大審院各裁判所へ通達

外國人銃獵ノ儀ニ付別紙ノ通御達有之候間此段爲御心得及御通達候也

別紙

第十三類 鳥銃獵

十年內務省
十一號達ヲ以テ改正ス現行
四(七)三百五
四)ニアリ

十年內務省
十一號達ヲ以テ改正ス現行
四(七)三百五
四)ニアリ

司法省

外國人銃獵ノ儀ニ付本年一月十五日相達候旨モ候處別紙ノ通外務省ヨリ上申候ニ付即チ朱書ノ通及指令候條此旨爲心得相達候事

明治九年二月十二日

太政大臣三條實美

外國人銃獵差留候節肯セサル時拘引可致旨各國公使へ通達方ノ儀上申

外國人我銃獵規則ヲ遵奉候マテ銃獵不相成旨客歲十一月十三日御指令相成猶本年一月十五日銃獵候外國人ハ警察官吏ニ於テ差留ムヘク若シ肯セサル時ハ拘引シテ該國領事へ可引渡トノ儀各國公使へ豫テ相達置可申旨御達シニ付右拘引ノ儀是迄談判ヲ盡候得此處分ヲ承諾不致向多ク猥リニ實行ニテハ必竟物議ヲ生シ不都合不少候ニ付右拘引ノ手續ハ當省ト熟議ノ上實行候様警視廳へ御達相成度此段上申候也

九年一月三十一日

外務卿寺島宗則

太政大臣三條實美殿

朱書

上申ノ趣聞屆内務省へ相達候事

明治九年二月十二日

第三千九百八十一 明治九年三月十二日内務省達

乙第二十七號

廳 府 縣

警察官吏ニ於テ外國人ノ銃獵スルヲ見認メ差留候節若シ肯セサル者アル時拘引シテ其筋へ引渡スヘキ手續ハ豫メ外務省へ協議ノ上實行候様可致此旨相達候事

第三千九百八十二 明治九年三月二十四日内務省達

乙第三十五號

廳 府 縣

本年乙第二十七號達ノ趣詮議ノ次第有之取消候條此旨相達候事

第三千九百八十三 明治九年三月廿四日内務省達

乙第三十六號

廳 府 縣

警察官吏ニ於テ外國人ノ銃獵スルヲ見認メ差留候節若シ肯セサル者アル時拘引スヘキ場合柄並手續等ハ豫メ外務省へ伺置候様可致此旨相達候事

第三千九百八十四 明治十年十月廿七日内務省達

丙第五十五號

開港場アル

府 縣

本年當省丙第四拾七號ヲ以テ外國人銃獵免許方ノ儀改正甲乙號雛形添へ相達置候處右雛形ノ内脫語有之更ニ増補訂止ノ上別紙甲乙號雛形相達候條最前ノ分ハ於該廳斷裁可致此旨更ニ相達候事

第十三類 鳥銃獵

二百四十九

同年内務省乙三十五號達ヲ以テ取消ス

十年内務省丙一號達ニ依テ消ル現行ハ三百五十九參照スヘシ

補遺

雛形

甲號

定約

某縣令ヨリ何國人民或ハ臣民何某ニ本日銃獵免狀ヲ附與セシニ付右何某左ノ條々ヲ確守スヘキ旨ヲ爰ニ某縣令ト(東京ニテハ內務省警視局ノ長官)約定ス

第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サス且只遊興ノ爲メニ安リニ食用ニ供セサル禽類ヲ銃殺スヘカラス

第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約規程外ノ場所

禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

作物植付アル場所

社寺ノ境内其他繩張或ハ假圍シタル場所

第三條 日本官吏ノ求メニ應シ右免狀ヲ示シテ點檢ヲ受クヘシ

他人ヲシテ右免狀ヲ使用セシムヘカラス

何某自身タリハ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ右免狀ヲ用ユヘカラス

表

面

第四條 前書ノ條款ニ違背スル時ハ洋銀拾弗ヲ拂フヘシ然ル上ハ右免狀ハ無用ノ廢物トナルヘシ

第五條 免狀ハ右日限後日數二十日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ

明治 年 月 日

何府 長官記名調印

願人 某手記

裏

英文

佛文

面

乙號

第號

日本帝國鳥獸獵免許之証

國名
姓名
年齡
住所

此免狀ハ當銃獵季即チ明治十年十月十五日(千八百七十

表

面

七年十月十五日)ヨリ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)迄ヲ限ル免狀料トシテ金拾圓ヲ受取リ
 第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サス且只遊興ノ爲メニ妄リニ食用ニ供セサル禽類ヲ銃殺ス可ラス
 第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所
 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約規程外ノ場所
 禁獵制札ノ場所
 但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ
 作物植付アル場所
 社寺ノ境内其他繩張或ハ假圍シタル場所
 第三條 日本官吏ノ求ニ應シ此免狀ヲ示シ點檢ヲ受クヘシ
 此免狀ハ他人ヲシテ使用セシムヘカラス
 此免狀ハ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ用ユヘカラス
 第四條 前書ノ條款ニ違背スル時ハ洋銀拾弗ヲ拂フヘシ然ル上ハ此免狀ハ無用ノ廢物トナルヘシ
 第五條 此免狀ハ右日限後日數二十日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ
 何府縣廳印

裏	<p>日本帝國鳥獸獵免許之証 此免狀ハ云々</p>
<p>英文</p>	<p>日本帝國鳥獸獵免許之証 此免狀ハ云々</p>

面	<p>佛文</p>
---	-----------

補遺

第三千九百八十五

明治十二年三月十七日内務省達

丙第十四號

東京警視本署 大坂府

兵庫縣 神奈川縣 長崎縣

新潟縣

外國人銃獵免狀取扱條例第七條但書左ノ通り改正候條此旨相達候事

第七條

但遺失毀傷等ニ因リ免狀再渡ヲ乞フ時ハ手數料トシテ金貳拾五錢ヲ收入スヘシ

金屬賣買

第三千九百八十六 明治元年四月十日布告

此度御一新之折柄大坂銅會所御取立相成候ニ付テハ兼テ舊幕府ヨリ相觸置候通諸國出銅ハ勿論古銅地銅ニ至迄右會所へ屹度可相廻事

但大坂表へ運送ニ指支之廉モ有之候ハ、其旨銅會所へ可届出事

一外國人ハ勿論自國タリトモ銅直賣不相成若心得違之者於有之ハ銅取上之上急度御沙汰可有之候事

一荒銅諸山元ニ而勝手ニ吹立諸器物等ニ仕立候儀不相成候事

一諸國ヨリ大坂表へ荒銅積廻候節ハ其船間屋ヨリ買數並送り狀トモ時々銅會所へ可届出候事

一荒銅古銅御買上直段之儀ハ外國並諸方へ御拂ニ相成直段ニ應シ時々相定候事

第三千九百八十七 明治元年七月布告

今般大坂銅會所鑛山局ト改稱相成候間山出金銀銅共出高之多少ニヨラズ總テ右局へ御買上相成候間差出可申且金銀銅入用之儀候ハ、同局へ可伺出候尤銅之儀ハ當四月御布令相成候通國々所々ニ於テ屹度相守可申旨被仰出候事

第三千九百八十八 明治二年三月九日布告

從來外國人ニテ銅輸出之儀政府入札之外ハ堅ク御禁止之處今度他品同様五步稅ニテ輸出可致祿御差許ニ相成候ニ付テハ向後御國內商人共銅賣買之儀可爲勝手旨被仰出候事

第三千九百八十九 明治二年十一月民部省布達

今般新貨幣鑄造被仰出候ニ付諸府藩縣ニ於テ是迄既ニ堀來候金銀銅之鑛山並年々堀出高等逐一明細ニ書記シ當年中當省へ差出可申事

但金銀銅トモ東京並大坂兩地大藏省ニ於テ相當之價ヲ以御買上相成候ニ付右地ニ運送着荷之上ハ速ニ同省へ可相届勿論諸方ニオイテ勝手賣捌之儀決而不相成候事

二年二月廿日
三月九日布告
ヲ以テ消ルハ
第三千九百八
十八)及鑛山
部(第二千三
百六十一)參
照スヘシ

二年二月廿日
三月九日布告
ヲ以テ消ルハ
第三千九百八
十八)及鑛山
部(第二千三
百六十一)參
照スヘシ

四年七月布告
ニ依テ消ル鑛
山部(第二千
三百六十六)
參照スヘシ

四年七月布告
以テ消ル鑛山
部(第二千三
百六十六)參
照スヘシ

銀行

第三千九百九十 明治五年十一月十五日布告

第二百四十九號

諸省府縣局廻

九年百六號布
告ヲ以テ改正
ス現行(七三
百七十一)ニ
アリ

貨幣流通ノ宜ヲ得運用交換ノ際ニ梗阻ノ弊ナカラシムルハ物産蕃殖ノ根軸ニシテ富國ノ基礎ニ候處從來御國內ニ於テモ爲替兩替等ヲ業ト致シ歐亞各國ニ通稱スル(バンク)ノ業体ニ等シキモノモ有之ト雖トモ其方法ノ精確ナラサルト施爲ノ陋拙ナルヨリ充分人民ノ便益ヲ得ルニ至ラサルニ付此度政府ノ公債証書ヲ抵當トシテ正金引替ノ紙幣ヲ發行スル銀行創立ノ方法ヲ制定シ普ク頒布セシメ候條望ノ者ハ其力ニ應シテ願出右銀行創立可致尤モ其創立手續營業ノ順序等ハ都テ別冊國立銀行條例同成規ノ條款ニ照準シ每事確實ニ取扱候様可致候事

右ノ趣各地方官ニ於テ管内不洩様可相達候事

但條例成規ハ書肆ニ於テ發賣差許候條此段モ爲心得相達候事

國立銀行條例

目錄

第一條 凡三節銀行創立ヲ願請スル手續ヲ明ニス

第二條 凡五節株金ノ募方及創立証書銀行定款ノ差出方ヲ明ニス

第三條 凡五節 開業免狀ノ渡方証書定款鈐印ノ手續ヲ明ニス

第四條 凡八節 銀行起業ノ順序及役員上任ノ制限ヲ明ニス

第五條 凡十四節 株高ノ定規株主ノ權利制限及元金高増減等ノ手續ヲ明ニス

第六條 凡十六節 銀行元金高ノ制限及ヒ其集合方法公債証書紙幣交収等ノ手續ヲ明ニス

第七條 凡八節 開業免狀ヲ渡セシ後入金ノ割合月賦ノ手續ヲ明ニス

第八條 凡九節 銀行紙幣ノ製造方及其品類紙幣通用ノ能力并ニ破損交換等ノ事ヲ明ニス

第九條 凡六節 銀行ヨリ預ケタル公債証書改方并ニ臨時証書ノ入換其他利足受取方ノ事

ヲ明ニス

第十條 凡四節 銀行營業ノ主本及地所物件賣買ノ制限ヲ明ニス

第十一條 凡九節 銀行營業ノ制限貸附金預リ金準備金等ノ定規ヲ明ニス

第十二條 凡六節 銀行ヨリ差出ス報告書計表ノ手續ヲ明ニス

第十三條 凡七節 銀行利益金分割ノ手續ヲ明ニス

第十四條 凡二節 銀行ハ追テ税金ヲ納ムヘキヲ明ニス

第十五條 凡四節 銀行ハ爲替方トナリ大藏省官員ト同シク職務ヲ取ルヲアルノ手續ヲ明

ニス

第十六條 凡五節 銀行ハ其紙幣引換ノ爲メ別店ヲ開キ又ハ他ノ銀行ニ引換方ヲ依頼スル

ヲ得ルノ手續ヲ明ニス

第十七條 凡四節 銀行ノ事務實際檢査ノ爲メ紙幣寮ヨリ檢査役派出ノ手續ヲ明ニス

第十八條 凡十五節 銀行ニテ紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處置特例監督役跡引受人等ノ取扱方并ニ公債証書没入紙幣引換等ノ手續ヲ明ニス

第十九條 凡八節 銀行鎖店ノ手續及其紙幣引換方ノヲ明ニス

第二十條 凡三節 別段ノ銀行モ此條例ニ從テ轉業シ得ルノ手續ヲ明ニス

第二十一條 凡一節 此條例ニテ發行スヘキ紙幣ノ概算ヲ明ニス

第二十二條 凡三節 此條例ノ外他ニ金券又ハ紙幣ノ類ヲ發行スル銀行ヲ禁止スルヲ明ニス

第二十三條 凡二節 銀行ノ訴訟ハ一般ノ處置ト異ナラサルヲ明ニス

第二十四條 凡二節 銀行簿記計表報告書等ノ文例ヲ明ニス

第二十五條 凡四節 銀行ノ役員奉務上ノ禁令ヲ明ニス

第二十六條 凡二節 銀行頭取々締役處務上ノ禁令ヲ明ニス

第二十七條 凡四節 紙幣贋造ノ禁令ヲ明ニス

第二十八條 凡二節 條例更正ノ事ヲ明ニス

通計二十八條 一百六十一節

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債証書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ通用紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケテ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々如左

第一條 銀行ノ創立ヲ願請スル手續ヲ明ニス

第一節 凡ソ國立銀行ヲ創立セントスルニハ其組合ノ人數ハ必ス五人以上タル可シ

第二節 此五人ハ即チ發起人タルヘシ而シテ此者共ハ連名ニテ銀行創立ノ願書ヲ紙幣寮ヘ差出スヘシ

但郵便ヲ以テ其願書ヲ送達シテモ苦シカラス

第三節 紙幣頭ハ其願書ヲ檢案シ相當ト思量スレハ諸般ノ手續ヲナシテ後大藏卿ノ許可ヲ得テ其發起人等へ會社創立証書并定款ノ差出方ヲ命スヘシ

但紙幣頭ハ右發起人等ノ身分其外トモ隱密ノ探索ヲ遂ケ且其地方官廳へ其者共ノ身分營業ノ模様其他ノ條款トモ公然ノ諮問ヲナシ銀行創立ヲ許可スルニ於テ相當ナルヤ否ヲ判按スヘシ

第二條 株金ノ募方及創立証書銀行定款ノ差出方ヲ明ニス

第一節 紙幣頭ノ此命アリテ後發起人等ハ株金ノ募方ニ取掛ルヘシ
 第二節 株主等定リテ後一同ノ協議ニヨリテ銀行創立證書定款ヲ認メ及ビ頭取々締役ヲ撰任シ諸般ノ手續ヲナシ右證書定款ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ
 第三節 此創立證書ニ掲載スヘキ要件ハ

- 第一 銀行ノ名號
但此社號ハ紙幣頭ノ承認ヲ得テ公然ト唱ルヲ得ヘシ
- 第二 銀行ノ業ヲ營ムヘキ地名キトナリ
- 第三 元金ノ高并其株ノ内譯株主ノ姓名居所
- 第四 此條例ヲ遵奉スヘキ人ノ爲ニ便宜ヲ謀リテ取極タル趣旨
- 第五節 右ノ證書ハ株主等一同姓名ヲ記シ調印シテ之ヲ其地方官廳ニ差出シ與書ヲ乞ヒ本紙并正寫ニ通ヲ添テ紙幣寮ニ出スヘシ
- 第六節 又銀行定款ハ銀行ヲ創立スルニ付テノ要件及ヒ此條例ノ諸款ト齟齬セサル箇條ヲ畧記スルモノナレハ銀行營業ニ付テノ規則書ト心得創立證書ト同シク株主一同ノ姓名ヲ記シ調印シテ本紙并ニ正寫ニ通ヲ添テ紙幣寮ニ出スヘシ
- 第七節 但此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受ルマテニテ地方官ノ與書ヲ乞フニ及ハス

第三條 開業免狀ノ渡方證書定款鈐印ノ手續ヲ明ニス

第一節 紙幣頭ハ右創立證書ト銀行定款トヲ大藏卿ノ承認ヲ得テ後其銀行ニ開業免狀ヲ與フルノ手續ヲナスヘシ
 但證書定款トモ本紙ハ記錄寮ニ納メ寫一通ハ紙幣寮ノ公書中ニ綴込一通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ銀行ニ渡スヘシ
 第二節 紙幣頭ハ此開業免狀ヲ渡スニハ其銀行株主等此條例通元金ノ入金ヲナセシヤ否ノ狀實ヲ檢査シ其元金集合ノ都合株主ノ正不正其他ノ事務ヲ視察シ不都合ナキヲ判然タル上ニテ之ヲ與フヘシ尤此開業免狀ニ其趣ヲ記載スヘシ
 第三節 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ初テ何々國立銀行ト公稱シ其業ヲ始ムルコトヲ得ヘシ
 第四節 此開業免狀ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ少クトモ六十日間世上ニ公告スヘシ
 第五節 紙幣寮ノ官印ヲ加ヘタル開業免狀創立證書銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ公廳ニ於テモ之ヲ確正ノ證據トシテ取用ラル、コトヲ得ヘシ
 第六節 銀行起業ノ順序及役員上任ノ制限ヲ明ニス
 第七節 銀行ハ此開業免狀ヲ得ル日ヨリ其社號ヲ以テ二十ヶ年ノ間營業ヲ取續クヘシ二十ヶ年ヲ經タル後ニハ更ニ免許ヲ願出ツヘシ

但三分二以上株主ノ存意ニヨリテ鎖店サテンスルカ又ハ此條例ニ改正アリテ分散スルコアルハ例外タルヘシ

第二節 銀行ノ頭取取締役等ハ免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省出納寮紙幣寮へ差出スヘシ

第三節 此頭取々締役等ハ銀行ノ業ヲ始ルニ當リ支配人會計役書記役其他ノ役員ヲ定メ諸役々ノ勤向ヲ取極メ約束ヲ揭ケ罰例ヲ設ケ便宜褒貶進退等諸般ノ條件ヲ揭載シタル申合規則ヲ取設クヘシ

第四節 此頭取々締役中(取締役ハ五人以上タルヘシ内一人ハ頭取タルヘシ)四分ノ三ハ銀行創立ノ地ニ一ケ年間ハ是非在任シタル者ニ限ルヘシ

第五節 此頭取々締役等ハ少クトモ元金三十株以上ヲ所持シタル者ニ限ルヘシ

第六節 此頭取々締役ハ上任ノ節ニ誓詞ヲナシ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條列中ノ要旨ニ聊カモ悖戾ヘイレイセサル旨ヲ認メ地方官ノ稟書ヲ加ヘテ紙幣頭ニ差出シ寮中公書ノ綴込ニ加フヘシ

第七節 此頭取々締役等撰任交代ノ手續及ヒ銀行事務施行ニ付テ權任ノ制限等マテ銀行定款下申合規則中ニ掲載シ置ヘシ

第八節 銀行ノ諸訴訟歎願書又ハ証書約定書及ヒ往復文書等マテ其社號ヲ用ヒ社印ヲ押ス

ヘシ

但シ約定書証書報告書誓詞等ノ類ハ頭取取締役支配人等ノ名印ヲ加フヘシ

第五條 株高ノ定規株主ノ權利制限及元金高増減等ノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行元金ノ株高ハ百圓宛ヲ以テ一株トナシ其者ノ望ニヨリテ何株ニテモ之ヲ所持スヘシ

第二節 此株高ヲ所持スル者ハ何レノ族屬何レノ職務アルニ拘ラス總テ其持高相當ノ權利アルヘシ

但大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係スルモノハ自分ノ名ヲ以テ株主トナルヲ許サス

第三節 此株高ハ全ク株主ノ所有物ナレハ頭取々締役ノ承認ヲ得銀行ノ元帳ニ引合セシ上ニテ讓渡ヲナスコト勝手タルヘシ

第四節 右ノ讓渡ニテ株主トナルモノモ前株主同様ノ條理ヲ踏ミ銀行定款ノ趣旨ニ遵フヘシ

第五節 銀行ノ株主等ハ誰彼ノ差別ナク其營業ニツイテノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

第六節 大損毛ニテ銀行ヲ分散スルコアルハ第十八條ノ手續ニ從フヘシ

第七節 銀行ノ株主等ハ自己ノ勝手ヲ以テ此社ヲ脱スルコトヲ許サス

第八節 然ト云ヒ其銀行ニ利益少キモ又ハ其外ノ事故アリテ社中三分二以上ノ株主等ノ集議ニヨリテハ此社ヲ鎖店スルコトヲ得ヘシ

第九節 銀行ノ株主等ノ集議ニテ件々ノ議案ヲ論定スルニハ株主ハ一株ニ付一説宛ヲ出スヘシ

第十節 故ニ三分二以上ノ集論ヲ撰定スルニハ其株高ヲ以テ之ヲ合計シテ其人員ヲ以テ算當スヘカラス

第十一節 此株主等ハ委任狀ヲ所持スレハ他人ノ名代トナリテ其高ニ應シ説ヲ出スコトヲ得ヘシ

第十二節 然レモ此銀行ノ支配人以下ノ役員ハ其名義ニテ銀行ノ株ヲ所持スルトモ眞ノ株主ト認メサルニ付其者トモ并ニ其株ヲ借金ノ引當トシタル者ハ己レノ説ヲ出シ又人ノ名代トナルヲ得ス

第十三節 銀行ノ株主等ハ陰ニ其元金ヲ引取り他用ニ供スヘカラス又其所有ノ株ヲ引當トシテ借財ヲナスヘカラス

第十四節 銀行ノ株主等三分二以上ノ集議ニヨリテハ集合元金ノ高ヲ増減スルヲ得ヘシ尤其増加ノ高ハ大藏卿ノ命ニヨリテ紙幣額之ヲ定ムヘシ又其減少ノ高モ此條例ニ於テ取究

メタル買數ヨリ減少スルヲ許サス且其増減トモ紙幣額ノ承認ヲ得サレハ之ヲ公然トスヘカラス

第六條 銀行元金高ノ制限及ヒ其集合方法公債証書紙幣交収等ノ手續ヲ明ニス

第一節 凡ソ國立銀行ハ人口十万人以上都會ノ地ニ於テハ五十万圓以下ノ元金ニテハ創立スルヲ許サス尤十万人未滿一万人以上ノ地ナラハ二十万圓ノ元金ニテ取建ルコトヲ得ヘシ但一万人未滿三千人以上ノ地ナラハ大藏卿別段ノ詮議ヲ以テ五万圓マテノ元金ニテモ取建ルコトヲ許スコトアルヘシ

第二節 國立銀行ハ右元高ノ目的ニ從ヒ其創立ノ許可ヲ得開業免狀ヲ受ル前ニ大藏省出納寮ヘ政府ノ公債証書ヲ預クヘシ

第三節 其高ハ元金高十分ノ六ニシテ次條ニ掲載スル入金割合ニ從テ之ヲ上納スヘシ

第四節 此公債証書ハ此條例ニ從テ銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當トナルモノナレハ出納頭ハ此銀行永續中ハ正ニ之ヲ預カリ置クヘシ

但此公債証書ノ中追テ大藏省ヨリ公債支消ノ節^{スキクシ}抜圖ニ當ルモノアレハ銀行ハ他ノ公債証書ヲ納メテ之ヲ引換ユヘシ

第五節 銀行元金高ノ十分ノ四ハ本位貨幣ニテ之ヲ社中ニ積立右公債証書ノ代リトシテ紙幣^{モトヤシ}受取ル通用紙幣ノ引替準備ニ充ツヘシ

第六節 前條ニ揭示スル銀行株主等ノ存意ニテ元金高ヲ増減スルコトアレハ勿論此公債証書并紙幣引換ノ準備正金モ其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ

第七節 右元金高集合ノ割合并公債証書ヲ納メ紙幣ヲ受取り準備正金ヲ貯ヘ銀行ノ業ヲ營業手續ハ左ノ如シ

第八節 譬ハ元金高五十萬圓ヲ以テ創立スル銀行ナレハ内

三十萬圓ハ

太政官又ハ民政部省ヨリ發行スル金札又ハ大藏省ヨリ發弘スル新紙幣ヲ以テ直ニ之ヲ

大藏省出納寮ニ納ムヘシ

二十萬圓ハ

本位貨幣ヲ以テ銀行ニ積立紙幣引換ノ準備トナスヘシ

合如高

但此元金高集合ノ割合ハ次條ノ期限ニ從フヘシ故ニ公債証書銀行紙幣交收及引換準備正金入金ノ順序モ其期限ニ從テ何度ニモ其手續ヲ爲スヘシ

第九節 大藏省ニ於テハ右三十萬圓ノ金札又ハ新紙幣ヲ銀行ヨリ受取り諸般ノ手續ヲナシテ後同員數ノ記名公債証書(証書ノ金額ハ數種ノ別アルヘシ)ヲ銀行ニ渡スヘシ

第十節 銀行ノ頭取支配人ハ其公債証書其社ノ見留印ヲナシ其姓名ヲ書込ミ再ヒ之ヲ大藏

省出納寮ニ納メテ其受取証書ヲ乞受クヘシ

第十一節 此受取証書ハ出納頭紙幣頭ノ連名ダルヘシ且兩寮頭ハ此勘定ニ付テハ互ニ簿冊ヲ開キ詳明ニ之ヲ記入シ相互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第十二節 銀行ハ右公債証書納濟ノ後同員額ノ紙幣ヲ各種ノ品類ニテ紙幣寮ヨリ乞受クヘシ

第十三節 右乞受タル各種ノ紙幣ヘハ其社ノ制印書込等ヲナシ以テ銀行營業ノ資本トスヘシ

第十四節 右ノ計算ニ據テ之ヲ畧言スレハ銀行ハ元金高十分六ノ金札ヲ以テ公債証書ヲ得其証書ヲ納メテ紙幣ヲ得他ノ四分ハ正金ニテ右紙幣引換ノ準備トスルノ割合ナリ

第十五節 故ニ銀行ニテ其紙幣發行ノ際ニ於テハ常ニ其三分二ノ割合ヲ以テ準備正金ヲ現存スルヲ交通ノ定度トシテ紙幣正金トモ便宜之ヲ資用スヘシ

但紙幣ノ皆高ヲ發行シテ後其引換多クシテ三分二ノ正金ニテ引換方差支コルヲアレハ其三分一ハ別ニ他ノ正金ヲ加ヘテ之ヲ引換聊カモ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠ルヘカラス

第十六節 紙幣發行ノ引當トシテ出納寮ニ納ムヘキ公債証書ハ太政官又ハ民政部省ヨリ發行セシ金札及ヒ大藏省ヨリ發行シタル新紙幣ヲ上納シテ受取タルモノニ限ルヘシ

右ニ掲クル金札ヲ以テ公債証書ヲ受取り之ヲ大藏省ニ納ムルノ手續ハ現時創立ノ處置ニ

シテ追テ右公債証書一般ノ交通アル節ハ元金高十分ノ六ハ直ニ其公債証書ヲ以テ上納シテ紙幣ヲ受取ルヘキ事トス

第七條 開業免狀ヲ渡ス前入金ノ割合及月賦ノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ少クトモ元金高ノ五割(半高ナリ)ハ是非トモ之ヲ銀行ニ入金スヘシ

第二節 他ノ五割ハ(半高ナリ)元金高ノ一割(十分ノ一ナリ)ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三節 右月賦ノコトハ銀行頭取支配人等誓詞ヲ以テ紙幣頭ニ請合ヘシ

第四節 若シ株主等此五割ノ入金又ハ月賦入金ヲ怠ル時頭取取締役等ハ其株ヲ競賣ニ出シ賣拂ノ上其入用ヲ差引過金アレハ元株主ヘ渡シ遣スヘシ

第五節 若シ又此競賣ニテモ其株ヲ買取ル人ナケレハ前以テ入金シタル高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ

第六節 此消株ニ付元金高此條例通りヨリ減少スレハ頭取取締役等ハ三十日ノ間ニ其補フナシ定限ノ高ニ滿タシムヘシ

第七節 頭取取締役等此ノ事ヲ怠レハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ跡引受人ヲ命スヘシ

第八節 競賣ニテ買取タル株高モ其買主ハ他ノ株主同様ノ權利アルヘシ

第八條 銀行紙幣ノ製造方法及ヒ其品類紙幣通用ノ能力并破損交換等ノコトヲ明ニス

第一節 銀行發行ノ紙幣ハ大藏卿ノ指令ニ從テ紙幣頭其製造ヲ董轄シ紙品板版ヲ精緻ニシ深ク磨摸ノ弊ヲ豫防シ且其印信繪ノ具等マテ充分ノ考按ヲ以テ完備ノ處置ヲナスヘシ

第二節 右製造ノ入費ハ紙幣寮ノ費用タルヘシ

第三節 此紙幣ノ品類ハ一圓二圓五圓十圓二十圓五十圓百圓五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ摺立遣スヘシ

但五圓以下ノ紙幣ハ總高ノ五割ヨリ多ラサルヘシ

第四節 此紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債引當ヲ以テ發行ノ趣旨并所持人ノ望次第正金引換ノ儀其他ノ要件ヲ掲載シ大藏卿并出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且銀行ニ渡セシ後其銀行ノ印信及ヒ書込等ヲ加フヘシ

第五節 此紙幣ハ諸公廳又ハ銀行商會其外ヲ不論日本國中何レノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ用ヒテ都テ正金同様ノ通用ヲ得ヘシ

但公債証書ノ利足ト海關稅ニハ之ヲ用ユルヲ許サス

第六節 若其通用ノ際此紙幣受取渡ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨其他不正ノ所爲アレハ其者ハ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第七節 此紙幣通用中敗裂破損等ニテ交通シ難キモノアレハ銀行ヨリ之ヲ紙幣頭へ出シテ

代り紙幣ヲ受取ヘシ

第八節 右代り紙幣ノ交換ハ紙幣寮ノ簿冊銀行ノ簿冊等ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣寮ノ官員ト銀行ノ役人トニテ之ヲ燒捨其趣ヲ簿冊ニ記シ各調印致シ置ヘシ

第九節 右燒捨ノ後ハ新聞紙其外ノ手續ニテ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第九條 銀行ヨリ預ケタル公債証書改方并臨時証書ノ入換其他利足受取方ノコトヲ明ニス

第一節 發行紙幣ノ抵當トシテ銀行ヨリ出納頭ニ預ケタル公債証書ハ毎年一度(數度ニテモ差支ナシ)銀行ノ役人出納寮ニ至リテ點檢シ本帳ニ引合セテ品種員額等相違ナケレハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ出納頭へ出スヘシ

但此改人出納寮へ出ルキハ銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二節 銀行ノ都合ニヨリテ別種同額ノ公債証書ヲ持參シテ預ケ置タル公債証書ト引換ヲ望ムキハ紙幣頭ノ考按ニヨリテ差支ナシトセハ之ヲ開届ケ其次第ヲ簿記シ出納頭ニ通達シテ引換遣スヘシ

第三節 又銀行ヨリ五千圓以上其社ノ紙幣ヲ返納シテ預ケ置タル公債証書ヲ取戻シ度趣ヲ願出ル時ハ紙幣頭ハ之ヲ開届ケ前ノ如ク之ヲ所置スヘシ尤モ其公債証書ノ殘高ハ此條例

ニ取極メタル規程ヨリ減少スルヲ許サス

但右引換ヲナシタル手續ハ出納寮紙幣寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 右公債証書市中賣買ニテ相場下低ノ時ハ紙幣頭ハ銀行へ達シテ其不足ノ高丈ヲ公債証書又ハ正金々札ノ内ニテ出納寮ニ増預ヲナサシムヘシ

第五節 右ノ公債証書ヨリ生スル年々ノ利足ハ其銀行之ヲ受取り毎年兩度銀行ノ利益精勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主ヘ分割スヘシ

第六節 然レモ銀行ニテ紙幣引換ノコトヲ怠ルカ又ハ此條例ニ悖戻スルコトアレハ其利足ヲ取押ユルコトアルヘシ

第十條 銀行營業ノ主本及ヒ地所物件賣買ノ制限ヲ明ニス

第一節 國立銀行ハ爲替兩換約定爲替預リ金其餘引受貸借又ハ引當物ヲ取リテ貸金ヲナシ貸借証書其他ノ証券及ヒ貨幣地金ノ取引等ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

第二節 國立銀行ノ地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ其株主トナルヘカラス唯左ノ條件ニ付テ地面又ハ家屋物件等ヲ買ヒ又ハ之ヲ預カリ又ハ之ヲ賣渡ス等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ

第三節 其條件ハ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ家屋ヲ取建ル爲ニ緊要ナル場所

第二 貸附金ノ引當トシテ質物トナリタル地所物件

第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡タサレタル地所物件

第四 官廳ノ裁判ニテ賣拂トナリタルモノ銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノ官廳ノ裁判ニテ引取リタルカ又ハ質入レ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スルタメニ賣物ニ出シタル地所物件

第四節 右ノ條件ヲ除クノ外銀行ニ於テハ如何ナル時宜タリトモ地面家屋其他ノ物件ヲ買取ルヘカラス

但銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地税法ニ從フヘシ

第十一條 銀行營業ノ制限貸附金預リ金準備金等ノ定規ヲ明ニス

第一節 國立銀行ニテ商會商社其外ヘ貸附金ノ制限ハ一口ニ付元金高ノ十分一ヲ限トスヘシ

但シ慥カナル爲替手形又ハ商賣上ノ取引ニテ暫時間ノ取替ニ等シキモノハ此例ニ非ス

第二節 國立銀行ハ其元金ヲ募リ又ハ社業ノ營ニ付銀行ノ紙幣ヲ引當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス

第三節 銀行ハ又其元金ノ株ヲ引當ニ取リテ貸金ヲナスヘカラス又諸株ノ買主又ハ其株主トナルヘカラス

第四節 然レモ貸附金ノ滞ニテ銀行ノ損失トナルコトアレハ不得止其株ヲ引當ニ取リ又ハ買取ルコトヲ得ヘシ併其株ハ遲クモ六ヶ月内ニ之ヲ賣拂フヘシ

第五節 銀行ノ株主等ハ左ノ事故ニ付テハ各其株高ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ承辦スヘシ

但此出金ハ全ク一時承辦ノ爲ニシテ其株高ト異ナレハ銀行ノ都合次第之ヲ各株主ヘ引戻スヲ得ヘシ

第一 發行紙幣兌換ノ事故

第二 預リ金渡シ方ニ付テノ事故

第三 諸爲換手形約定手形ヲ渡スニ付テノ事故

第六節 國立銀行ハ他人ヨリ預リタル預リ金總高ノ内少クトモ二割五分(十分ノ二五)臨時返却ノ用意トシテ常ニ銀行ノ金庫中ニ積立置ヘシ尤内一割ハ政府ノ公債証書ニテモ苦シカラス

但此用意積立金ハ決シテ紙幣引換ノ準備金ト混スヘカラス

第七節 國立銀行ノ貸附金利足及爲換手形約定手形荷爲替兩替等ノ打歩ハ可成丈之ヲ廉價ニスヘシ

第八節 國立銀行ハ貸附金ヲナシ爲替手形ヲ買入レ預リ金ヲ渡ス等ニ付テ紙幣ヲ遣ヒ出ス

ニ此條例ニテ定メタル其紙幣發行高二分二ノ準備正金ノ定規ヲ超過スヘカラス

第九節 若其割合ヲ超過シテ紙幣ヲ發行シ紙幣寮官員ノ實地検査ニテ露顯スレハ紙幣頭ハ速カニ定期準備金ヲ増加スヘキヲ命スヘシ若シ命セシ日ヨリ三十日ヲ過キテモ其増加ヲ怠ルキハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上跡引受人ヲ命スヘシ

第十二條 銀行ヨリ差出ス報告書計表ノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行ハ一ケ年四度以上其銀行ノ事務計算等實地詳明ナル報告書計表等ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從ヒ頭取々締役之ニ証印スヘシ

但シ右報告書計表ノ類ハ銀行ヨリ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二節 銀行ハ其株主等ノ姓名株高ノ内譯宿所等ヲ明細ニ記シタル表ヲ作り其社ノ用所ニ備ヘ置ヘシ

第三節 銀行ハ又其發行紙幣ノ高殘リ紙幣ノ現高準備金ノ現高預リ金ノ高及其用意積立高別段積金ノ高貸附金ノ總高及爲替立替假預リ等ノ差引マテ毎日ノ帳面差引ヲ明瞭ニシ簡明ナル一覽表ヲ作り其社ノ用所ニ備置ヘシ

第四節 此計表類ハ紙幣頭ノ命ニヨリテ時々之ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ且銀行ノ株主等ハ銀行ノ事務取扱中タラハ何時ニテモ銀行ニ來リテ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第五節 紙幣頭ハ尙ホ要用ト思フコトアレハ臨時ノ報告ヲ銀行ニ命スルヲアルヘシ

第六節 若シ銀行ノ頭取支配人等此定例臨時ノ報告ヲ怠テ紙幣頭ノ命スル日ヨリ十日ヲ超テ差出サレハ十日以外ハ一日ニ百圓宛ノ罰金ヲ命スヘシ

第十三條 銀行利益金分割ノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行ノ頭取々締役等ハ毎年兩度宛銀行ノ總勘定ヲナシ其純金ヲ正算シ株高ニ應シテ公平ニ之ヲ分割スヘシ

第二節 右分割ノ前ニ其利益ノ正算ヲ株主一同ヘ通知シ且ツ新聞紙ニテ世上ニ公告スヘシ

第三節 其公告セシ日ヨリ十日内ニテ未タ株主ヘ分割ヲナサハル前ニ其計算ヲ明瞭ニシテ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第四節 右利益金ノ内少クトモ十分一以上ノ高ヲ除キ置テ元金ノ二割ニ至ル迄銀行ノ別段積金トシ臨時ノ費用ニ供スヘシ

第五節 銀行ハ其業ヲ營ムノ間ハ利益金分割ノ事故又ハ自餘ノ狀實ニ托シテ元金高ノ内ヲ引去ル可ラス

第六節 滯リ貸金又ハ商業ノ失錯其他ノ事故ニテ銀行ニ損失アリテ元金高減少スレハ銀行ハ利益金ノ分割ヲ止メテ其不足ヲ補フヘシ若シ其不足高一度ノ利益金ニテ補ヒ得サレハ何度ニテモ利益金ノ分割ヲ見合テ其元高ニ復スヘシ

第七節 慥ナル引當物アルカ又ハ確實ナル引受人アル貸附金ノ外ハ六ヶ月ノ期月ヲ過テ元

利トモ返濟ニ至ラサルハ滯リ貸附金ト見ナスヘシ

第十四條 銀行ハ追テ税金ヲ納ムヘキヲ明ニス

第一節 國立銀行ハ追テ成立ニ從テ其益金ノ内ヨリ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

第二節 此税金ノ納方ハ向後政府ニテ制定スル規程ニ從ヒ租稅寮ノ指令ニヨリテ上納スヘシ

第十五條 銀行ハ爲替方トナリテ大藏省官員ト同シク職務ヲ取ルコトアルノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行ハ大藏卿ノ命アレハ大藏省又ハ各地方其他ノ爲替方ヲ勤ムヘシ其勤向ノ手續ハ大藏卿ノ考按ニヨリテ其筋ヨリ之ヲ差圖スヘシ

第二節 右爲替方ノ勤向ヲ奉仕スルニ於テハ銀行ノ役員ハ大藏省ノ官員ト等シク其職務ヲ取ル者ト心得ヘシ

第三節 大藏卿ノ右爲替方ヲ命シタル銀行ヨリ徵信ノ爲メ相當ノ公價證書又ハ自餘ノ證書ヲ預リ置ヘシ

第四節 是ハ銀行ニ於テ政府ノ貨幣ヲ確實ニ預リ置キ差支ナク之ヲ仕拂ヒ其職務ヲ手堅ク報スルコトニ於テ充分ノ信ヲ表スルタメナリ

第十六條 銀行ハ其紙幣引換ノ爲メ別店ヲ開キ又ハ他ノ銀行ニ引換方ヲ依頼スル等

ノコトヲ得ルノ手續ヲ明コス

第一節 左ニ掲載スル府港ニ創立スル國立銀行ハ紙幣頭ノ許可ヲ得テ東京大坂ニ於テ各一店ヲ開キ殊ニ其銀行發行紙幣ノ引替方ノミヲ爲スヘシ

但其銀行ノ本店ニ於テモ便宜ノタメ紙幣正金ノ引替チナスコトアルヘシト云トモ總テ引替店ヲ別段ニ設ケタル銀行ハ準備正金ハ悉ク別店ニ積置ク等ナレハ正金引換ノ本務ハ此別店ノ取扱タルヘシ

第二節 引換店ニ於テハ左ニ掲載セサル地ニ於テ創立スル銀行ノ發行紙幣ヲモ其銀行トノ約束ニヨリテ正金引換方ヲ引受ヘシ

第三節 右引換店ヲ設ケタルカ又ハ引換ノ引受チ依頼シタルキハ其趣旨ヲ詳明ニシテ其銀行ヨリ新聞紙其他ノ處置ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第四節 紙幣引換ノ爲メ積置ヘキ準備金ハ別ニ引換店ヲ設ケルモ又ハ他ノ銀行ニ依頼スルモ都テ元高十分四ノ割合(紙幣高二分ノ一)タルヘシ

第五節 其府港ハ東京西京大坂横濱神戸長崎新潟函館ト定ムヘシ

第十七條 銀行ノ事務實際檢査ノ爲メ紙幣寮ヨリ檢査役派出ノ手續ヲ明ニス

第一節 紙幣頭ハ大藏卿ノ許可ニ從ヒ各國立銀行營業ノ實際ヲ詳知スルタメ定例又ハ臨時ノ檢査役ヲ派出スヘシ

第二節 此検査役ハ各銀行ノ本店又ハ別店トモ事務取扱中ノ時限ナレハ何時ニテモ其所
ニ抵リ諸簿冊計表其他實地ノ取扱振テ詳密ニ檢閲スルヲ得ヘシ

第三節 此検査役ハ先ツ銀行ノ業体ヲ視察シ銀行役員ノ所務能ク此條例ニ遵ヒ成規ニ違ハ
サルヤ否ヲ監督シ其檢閲ノ實況ト考按ノ次第トヲ書面ニ認メ詳明ニ紙幣頭ニ報告スヘ
シ

第四節 銀行ハ此検査役ノ外何レノ職務何レノ官爵アル者ト云トモ其爲メニ威服セラレ實
務ノ検査ヲ受ルニ及ハス尤モ國法ニ於テ地方官廳ヨリ命シタル検査ハ此ノ例ニアラス

第十八條 銀行ニテ紙幣ノ引換ヲ拒ミシ時ノ處置特例監督役跡引受人等ノ取扱方公
債證書ヲ没入シ官ヨリ其紙幣引換ヲナス等ノ手續ヲ明ニス

第一節 國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ例刻中其銀行(別ニ引換店ヲ設クル銀行ハ其引換
店)ニ持參シテ正金引換ヲ望ム時銀行又ハ引換店ニテ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リ其引換ヲナ
サハルカ又ハ預リ金ヲ返却セサルコトアレハ直ニ地方官廳ニ訴ヘ掛合方ヲ乞フヘシ

第二節 然リト云トモ其銀行又ハ引換店ニ事故アリテ其狀實ヲ書面ニ認メ頭取ノ調印ニテ
持參人ニ渡スルハ紙幣持主ハ唯其書面ヲ地方官廳ニ差出スノミニテ別ニ掛合方ヲ乞ハサ
ルヘシ

第三節 地方官廳ハ右引換方ヲ拒ミ又ハ預リ金ヲ返却セサル等ノ訴アルカ又ハ其事故アリ

テ頭取ヨリ差出タル書面ヲ受取レハ直ニ其由ヲ紙幣頭ニ報知シ其書面ハ寫テ留置本紙ヲ
回達スヘシ

第四節 紙幣頭ハ此報告ヲ得レハ速ニ検査役ヲ派出シテ其事實ヲ推問セシメ愈々其罪ヲ
ハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ尤其銀行ニ屬スル爲替又ハ貸附
等ノ返金ヲ受取及預リ金ヲ渡スコトハ苦シカラス

第五節 右營業ヲ差止メタル銀行ニ於テハ手形證券類又ハ引當物地所等ヲ他人ニ譲リ渡ス
ヘカラス他人ヨリ預リ金其他ノ物件ヲ預カルヘカラス若シ此條例ニ背キ或ハ讓渡シ又ハ
預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコトアルトモ糾正ノ上之ヲ元ニ復セシムヘシ

第六節 紙幣頭ハ尙ホ大藏卿ニ稟議シ特例ノ監督役ヲ命シ右銀行ノ實際ヲ驗シ諸般ノ手續
ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ

第七節 右ノ精確ナル報告ヲ得テ紙幣頭ハ其銀行ノ罪ヲ判定シ其銀行ヨリ預リタル公債證
書ヲ没入スル旨ヲ申渡シ(報告ヲ得タル日ヨリ二十日内タルヘシ)其公債證書ヲ取上ヘシ

第八節 而シテ紙幣頭ハ大藏卿ノ指圖ニ從ヒ凡其銀行ノ紙幣ヲ所持スルモノハ引換ノ爲メ
都テ之レヲ大藏省ニ出シテ正金ヲ望ムヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣スヘ
シ

第九節 右引換ノ紙幣ハ都テ此條例ノ手續ニ從テ此レヲ燒捨テ新聞紙ヲ以テ其次第ヲ世上

ニ公告スヘシ

第十節 紙幣頭ハ銀行ヨリ没入スル公債證書ヲ公賣又ハ私賣トモ大藏省ノ便益ニ於テ充分ナリト思量セハ正金又ハ其銀行紙幣ヲ以テ之ヲ世人ニ賣渡スヘシ

第十一節 若シ大藏卿ノ考案ニヨリテ右公債證書ヲ燒捨テ政府ノ公債ヲ減却セント欲セハ紙幣頭ハ其命ニ從ヒ之ヲ燒捨テ新聞紙ニテ其次第ヲ世上ニ公告スヘシ

第十二節 紙幣頭ハ又別ニ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸帳面及ヒ各種ノ引當物等ヲ取押ヘ諸貸附金立替金其他銀行ノ所有物ヲ一切取調タル上ニテ地方官廳ニ謀リテ滯り貸金額ヲ處置シ時宜ニヨリテハ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ此銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所存物ヲ限リテ相當ノ分散ヲサシムヘシ故ニ銀行ノ株主等ハ縱令其銀行ニ何様ノ損失アルトモ其株高ヲ損失スル外ハ別ニ其分散ノ賦當ハ受サルヘシ

第十三節 右借債又ハ預リ金引負金ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ニテ三ヶ月間世上ニ公告シ此銀行ヲ相手トシテ貸借ノ控訴アルモノハ右時限中訴出シメ其次第ト證書類トヲ檢案シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

第十四節 若又此銀行ニ尙ホ陳白スル^{キヤンケ}アリテ其罪ニ伏セサルキハ紙幣頭ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日内ナラハ此處置ヲ宥恕シ地方官ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ其罪ナキ實

証アレハ之ヲ宥恕スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ急ニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ク其處置ニ取掛ルヲ見合セシムヘシ

第十五節 右紙幣引換滯ニ付持參人出願ノ入費及諸檢査糺問ノ入費跡引受人ノ入費共都テ相當ノ處置ヲ以テ紙幣頭之ヲ取究メ銀行ヨリ之ヲ辨セシムヘシ

第十九條 銀行鎖店ノ手續及其紙幣引換方ノヲ明ニス

第一節 國立銀行ハ三分二以上ノ株主ノ説ニ從テ平穩ニ之ヲ分散シ之ヲ鎖店スルヲ得ヘシ

第二節 右分散又ハ鎖店セントスルニハ其取締役ノ決議ニ任セ其銀行ノ頭取支配人ヨリ銀行ノ名印ヲ以テ其趣ヲ紙幣頭ニ報告シ又三ヶ月間東京大坂ノ新聞紙其他ノ手續ニテ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ公ニ世人ニ告知シ且其事ヲ促スヘシ

第三節 右公告ヲ爲シタル日ヨリ其銀行ハ其引換タル紙幣ヲ以テ出納寮ニ預ケタル公債證書ノ内ヲ取戻スヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半年ヲ過キ簿册上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル紙幣アレハ其高丈ケテ正金ニテ出納頭ニ差出シ公債證書ノ預リ高ヲ全ク取戻スヲ得ヘシ

第四節 然ル上ハ其銀行發行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニテ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ聊モ其責ニ任セサルヘシ

第五節 出納頭ハ其鎖店シタル銀行ノ殘リ紙幣引換ノタメ銀行ヨリ正金ヲ受取ラハ其趣ヲ詳記シタル受取書ニ通テ作リ一通宛紙幣寮ト其銀行ヘ渡スヘシ

第六節 紙幣頭ハ此受取書ヲ得レハ大藏卿ノ許可ヲ乞ヒ直ニ其殘在紙幣ノ引換方ヲ新聞紙其他ノ手續ニテ世上ニ公告シ相當ノ期限ヲ以テ之ヲ正金ニ引換遣スヘシ

第七節 右ノ手續ニテ引換タル紙幣ハ此條例ノ定規ニ從テ之ヲ燒捨テ其次第ヲ世上ニ公告スヘシ

第八節 右ニ屬スル諸計算其外トモ出納頭紙幣頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置ヘシ

第二十條 別段ノ銀行モ此條例ニ從テ轉業シ得ルノ手續ヲ明ニス

第一節 特例ヲ以テ會ヲ結ビタル銀行又ハ爲替銀行ノ類ハ此條例ノ趣旨ニ遵テ國立銀行ノ例ニ加ハルヲ得ヘシ然ルモ此條例ニ於テ定メタル創立証書定款等ハ從前ノ取扱人等之ヲ所置何銀行又ハ何爲替銀行ヨリ轉業シタル趣ヲ記載シ諸般ノ手續ヲナスヘシ

第二節 社號并ニ元金ノ株主ハ從前ノ儘之ヲ用テ苦シカラス尤此條例ノ定規ニ照準シ取締役其外ノ役員ヲ撰任スル迄ハ前ノ取扱人等之ヲ擔當スヘシ
但株高并元金高其外共都テ此條例ノ定規ニ遵フヘシ

第三節 紙幣頭ヨリ轉業ヲ許シ開業免狀ヲ與フレハ從前銀行又ハ爲替銀行ノ節所有スル特典殊例ハ全ク消却シ都テ此條例ニ從テ新ニ創立シタル國立銀行ト異ナルコトナカルヘシ

第二十一條 此條例ニテ發行スヘキ紙幣ノ目算ヲ明ニス

第一節 此條例ニ從テ創立スヘキ國立銀行ヨリ發行スル紙幣ノ總高ハ概子一億圓ヲ以テ定限ノ目的トスヘシ

第二十二條 此條例ノ外他ニ金券又ハ紙幣ノ類ヲ發行スル銀行ヲ禁止スルコトヲ明ニス

第一節 此條例ニ從テ國立銀行創立ノ事ヲ制定シタル後ハ何レノ人何レノ方法ヲ不論他ノ處置ヲ以テ紙幣金券及通用手形類ヲ行フコトハ都テ之ヲ禁止スヘシ

第二節 故ニ從來官許コトテ金券通用手形ノ類ヲ發行シテ營業スル銀行又ハ商會ト云トモ速ニ其通用ヲ止メ之ヲ正金ニ引換ルノ處置ヲナサシムヘシ

第三節 爲替兩替預リ金貸附等都テ銀行ノ類スル業ヲ營ム者ハ向後紙幣頭ノ承認ヲ得サレハ其營業ヲ爲スヘカラス故ニ從來其業ヲ事トスル商會又ハ銀行等ハ其地方官廳ヲ經テ在來營業ノ次第ヲ悉ク紙幣寮ヘ申牒シ其指令ニ從テ報告書ヲ差出ヘシ

但向後創立ノ分ハ勿論其前ニ紙幣頭ノ承認ヲ受テ營業スヘシ
第二十三條 銀行ノ訴訟ハ一般ノ處置ト異ラサルコトヲ明ニス

第一節 國立銀行ニテ他ノ商會又ハ銀行其外ノ取引先ヲ相手トシテ控訴スルカ又ハ他人ヨリ此銀行ヲ相手トシテ訴訟ノコアルモ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其地方官廳ニ於テ之ヲ裁判スヘシ

第二節 國立銀行ヨリ紙幣頭ヘ差出ス宥免願ノ類ハ其地方官廳ノ手ヲ經テ之ヲ出スヘシ
第二十四條 銀行簿記計表報告書等書例ノ事ヲ明ニス

第一節 國立銀行ノ諸簿冊計表其他ノ諸計算書類ハ極メテ精確ニ記載シ且簡明ヲ要スヘシ尤諸約定書証書手形類其他ノ要書ハ堅ク之ヲ庫中ニ管守スヘシ

第二節 銀行創立及ヒ營業中ノ諸証書定款又ハ報告書計表ノ類ハ銀行成規ノ書例ニ從フヘシ
第二十五條 銀行ノ役員奉務上ノ禁令ヲ明ニス

第一節 凡ソ國立銀行ノ頭取々締役支配人其外ノ役員ハ私ニ銀行ノ有金ヲ費糜シ又ハ之ヲ掠取リ又ハ私ノ費用ニ供フヘカラス又頭取々締役ノ承認ヲ得スニテ紙幣ヲ發行シ預リ証書ヲ出シ爲替手形約定手形諸約定諸貸附等ヲナスヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其外ノ要書中ニ詐譌ヲ記載スヘカラス又私曲ヲ謀リテ其銀行ノ株主又ハ官吏商會其他ノ者ヲ欺キ及ヒ銀行實際ノ検査役ヲ欺キ又ハ欺カント謀ルヘカラス若シ此數件ヲ犯ス者アラハ皆國法ニ從テ之ヲ罪科ニ處スヘシ

第二節 銀行ノ役員ハ其銀行ヨリ發行スル紙幣又ハ手形證書ノ類ハ之ヲ剝キ去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊附ニスル等ノコトヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ地方官廳ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ罰金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

第三節 若シ他人タリトモ銀行ノ役人ヲ誘ヒ右等ノ惡事ヲナサシメ又ハ其惡事ヲ助クル者アレハ何等ノ人ヲ論セス同等ノ罪科ニ處スヘシ

第四節 銀行ノ役員ニ連ナル者ハ假令其私宅ニ於テモ私ノ商業ヲナスヘカラス若シ銀行ノ名ヲ假リテ自己ノ利益ヲ謀ル者アレハ假令如何ナル處置タリトモ之ヲ不正ノ所爲トナシテ相當ノ罪科ニ處スヘシ

但銀行ノ株主ニテモ役員ニ連ナラサレハ別ニ自己ノ商賈職業ヲナスコト勝手タルヘシ
第二十六條 銀行頭取々締役處務上ノ禁令ヲ明ニス

第一節 國立銀行ノ頭取々締役タル者ハ自ラ此條例ニ悖リ又ハ銀行ノ役員又ハ株主等ヲシテ猥リニ之ニ戻ラシムヘカラス若シ或ハ悖戻ノコトアレハ此條例ニ於テ其銀行ヘ與ヘタル條理特權ハ悉ク之ヲ取上ヘシ

但其悖戻ノ罪ハ其銀行ヲ鎖店セレムルノ前紙幣頭ヨリ通達シテ其地方官廳ニ於テ之ヲ糾正スヘシ

第二節 此條例ノ悖戻モシ頭取々締役ニアリテ其爲ニ株主等ニ損失ヲ受ケシムルコトアレハ

其損失ハ頭取々締役之ヲ任スヘシ

第二十七條 紙幣鑄造ノ禁令ヲ明ニス

第一節 此條例ニ從テ國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ鑄造スヘカラス鑄造セシムヘカラス
鑄造ヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス鑄造ト知リテ之ヲ通用セシムヘカラス

第二節 右紙幣ノ文字畫圖ヲ變換スヘカラス變換セシムヘカラス變換スルヲ助ケヘカラス
變換セシ紙幣ト知リテ之ヲ通用セシムヘカラス

第三節 國立銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ヲ私ニ彫刻スヘカラス私ニ彫刻ヲ命スヘカラス其摺
立ニ用ヘキ板版繪ノ具及似寄ノ紙品ヲ所持スヘカス

第四節 若シ右ノ數件ヲ犯ス者アレハ何等ノ人ヲ論セス國法ニ從テ之ヲ嚴科ニ處スヘシ

第二十八條 條例更正ノヲ明ニス

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ何時ニテモ此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改革シ又
ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ

第二節 右增補改革廢止等アレハ紙幣頭ハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ
右之通相定候事

國立銀行成規

目錄

國立銀行創立ノ事

株金ヲ募ルノ通法

國立銀行定款文例

同 與書文例

銀行創立証書文例

請合狀ノ事同文例

取締役ノ事

取締役ノ誓詞文例

銀行役人ノ証書文例

銀行役人上^{ヤシキ}任規則

上任報告文例

國立銀行創立ニ付心得ヘキ件々

公債証書預ケ方ノ事

開業免狀ノ事同文例

開店ノ事

- 元金ノ事
- 元金月賦入金ノ事
- 元金集高届書文例
- 元金増減ノ事
- 元金増集証書文例
- 元金減少証書文例
- 發行紙幣注文ノ事
- 注文書文例
- 紙幣發行ノ事
- 舊紙幣焼捨并新紙幣受取方ノ事
- 舊紙幣ヲ差出ニ付添書文例
- 公債証書利息受取方ノ事
- 名代委任狀文例
- 國立銀行報告ノ事
- 用紙ノ事
- 簿冊ノ事

- 申合規則ノ事
- 申合規則文例
- 國立銀行ノ頭取支配人取締役等一同ノ心得トシテ申諭ス諸件
- 國立銀行記録ノ事
- 商業取扱ノ事
- 貸附金ノ事
- 役人ノ事
- 元金ノ事
- 諸務取扱ノ事
-
- 國立銀行成規
- 國立銀行創立ノ事
- 凡ソ銀行條例ノ規則ニ從テ國立銀行ヲ結ハント欲スルモノハ須ラソ左ノ條々ヲ心得テ銀行創立ノ手續ヲナシ其商業ヲ經營スルコトヲ謀ルヘシ
- 國立銀行ヲ結ハント欲スル者ハ先ツ五人以上ニテ申合セ組合ヲ定メ連印ノ願書ヲ認メ(五人以上ノ連名ニテモ總代ノ一印ニテモ差支ナシ)國立銀行ヲ創立致シ度趣ヲ東京大藏省

ノ紙幣頭へ申立ヘシ

但東京ヨリ遠隔ノ地方ハ此願書ヲ郵便飛脚便ニテ差出シテ苦シカラズ

紙幣頭ヨリ願ノ通一州一郡一地ニ於テ元金一萬圓ノ國立銀行ヲ創立スルヲ許スニ付テハ
銀行定款并ニ創立證書ヲ差出スヘシトノ指圖アルヘシ○願人等此指圖ヲ得テ直様株金ノ
募方ニ掛ルヘシ

- 一 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙或ハ張紙ノ類ニテ便宜ニ任セテ世上ニ公告シ一州一郡一地ニ於テ何々ノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立スルニ付其組合ニ加入セント欲スル人々ハ一月一日ニ一街一屋ニ來ルヘシ發起人何ノ誰々等ト記載シテ世人ニ通知セシムヘシ
- 一 當日ニ至リテ右ノ一街一屋ニ於發起人等帳面ヲ開キ其銀行ノ組合ニ加入セント申込ミタル人々ノ姓名并入金スヘキ金高ヲ此帳面ニ書込ミ一月一日迄ニ入金スヘシト取定ムヘシ
- 一 銀行ニ加入スル入金ノ高ハ百圓ヲ以テ一株ト唱ヘ何ノ誰ハ幾株ト唱フヘシ尤モ株數ノ多少ハ入金人ノ望ニ任スヘシ
- 一 入金ノ當日ニ至リテ入金人ヨリ各々書込ミタル金高ヲ發起人方ニ持參スヘシ(全高ヲ入金スルトモ或ハ半高ヲ入金スルトモ先前ヨリノ約束ニ從フヘシ)○發起人ハ此入金人ニ金子引替ニテ銀行ノ株手形ヲ渡スヘシ(百圓一株ニ付手形一枚ト定ム故ニ千圓ヲ入金シタル人ニハ株手形十枚ヲ渡ス)○於是此入金人ヲ某國立銀行ノ株主ト唱フヘシ

此書込ニテ集金ノ高發起人等ノ見込高ヨリ多キ時ハ割引ヲ以テ入金人申出ノ高ヲ減少スルトモ又ハ銀行ノ元金高ヲ最初ノ見込ヨリモ増加スルモ發起人ノ存意ニ隨フヘシ
此株金募方ノ手續ハ其大要ヲ示スノニ社ヲ結フ人々ノ便宜ニ任スヘシ故ニ紙幣頭ヨリ別ニ其規則ヲ設ケス

株金ヲ募リ初ムルニハ銀行條例第二條中ノ趣旨ニ從ヒ銀行定款ヲ三通認メ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ(銀行條例第二條中ヲ參考スヘシ)

銀行定款ノ文例如左

國立銀行定款

大日本政府ノ公債證書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引替ル儀ニ付明治五年八月五日大日本政府ニ於テ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ基キ新ニ國立銀行ヲ創立スル爲ニ銀行ノ株主等協議ノ上決定スル條々如左

第一條

此銀行ノ名號ハ一國立銀行ト稱スヘシ

第二條

此銀行ニテ諸爲替貸附金預リ金等一切銀行ニ關係ノ事務取扱所ハ一州一郡一街ニ取建ヘシ

第三條

此銀行ノ元金ハ一萬一千圓ト取定メ百圓宛チ以テ一株トスヘシ
但銀行條例第五條中ノ趣旨ニ從ヒ此元金ヲ増減スルヲ得ヘシ尤元金増減ノ節ハ
株主等ハ銘々ノ株數ニ從ヒ其割合ニ準シテ増減スヘシ

第四條

此銀行ノ取締役ハ三十株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰舉スヘシ其撰
舉ノ初集議ハ一月一日一街一ニ於テスヘシ事宜ニヨリテハ此書面ニ連名ノ株主
等ノ衆議ニ從ヒ追テ其月日ヲ取定ムヘシ

第五條

取締役ヲ撰舉スヘキ定式ノ會議ハ毎年正月十一日ヲ定日トシ株主等ミテ銀行ニ集
リテ議スヘシ
但當日故障アリテ集會セザル時ハ便宜他日ヲ約スヘシ尤此撰舉ハ右ノ條例ニ齟
齬セサル様ニ取締役ノ取極タル規則ニ從テ之ヲ行フヘシ

第六條

取締役ノ衆議ニテ其中ヨリ一人ヲ撰ミ之ヲ頭取トナス此頭取ハ規則ニ從ヒ年限中
之ヲ勤ムヘシ

但頭取タル者其任ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分二以上ノ存意ニヨリテ退任
セシムルトキハ此例ニ非ス

取締役等ハ又其内ヨリ副頭取一人ヲ撰舉スヘシ

但此副頭取ハ頭取欠席スルカ其他ノ事故ニ付テ其事務ヲ代理スルマテニシテ平
日勤向ハ取締役ト同様タルヘシ

取締役等ハ又銀行ノ事務ヲ取扱ヘキ支配人并ニ書記勘定方帳面方等ノ役人ヲ撰任
シ又右ノ諸役人等ノ給料ヲ取定メ衆議ノ上ニテ銀行ノ得失ヲ考ヘ或ハ此役人等ニ
重年ヲ命ジ或ハ之ヲ放免スルノ權アルヘシ

取締役等ハ又銀行ノ書記及役人等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人ヲ約シ罰金ヲ預
定スルノ權アルヘシ

取締役等ハ又向後ノ取締役撰舉ノ法ヲ定メ此撰舉ノ衆議ニ異論起ルルハ之ヲ裁決
スヘキ裁判人ヲ取定ムルノ權アルヘシ

取締役等ハ都テ銀行條例ニ從テ適任ノ職務ヲ取行フノ權アルヘシ尤モ此條例ノ要
旨ヲ遵奉シテ厚ク其銀行ノ便益ヲ謀リ條例中ニ揭示スル諸禁令ノ條款等ハ各相擔
任シテ格獲セシムルコトニ注意スヘシ

但取締役等ノ失任ハ銀行條例中ノ罰令ニ從テ其責ニ任スヘシ

取締役等ハ又銀行條例第四條ニ從ヒ銀行ノ處務ニ緊要ナル申合規則ヲ議定スルノ權アルヘシ

此銀行ノ株主等ハ此所有ノ株高ハ全ク所持ノ財本ニシテ決シテ他人ヨリ借財シテ株金ヲ出セシニ非サル旨又何等ノ事故アルトモ取締役ノ承認ヲ得スシテ其株ヲ賣渡スヘカラサル趣ヲ申合セ規則中ニ記載スル事ハ取締役等ノ權内ニアルヘシ

第七條

此銀行ハ創立證書ヲ調印シタル日ヨリ之ヲ永續スヘシ但シ銀行條例ニ從ヒ三分二以上ノ株主等ノ存意次第ニ此銀行ヲ鎖ス事ヲ得ヘシ尤モ株主等ハ一同ノ利益ヲ謀リテ銀行ヲ鎖店スルノ利アリト雖モ其手續ハ都テ銀行條例ニ從テ之ヲ行フヘシ

第八條

此銀行定款ハ株主等ノ衆議ヲ以テ何時ニテモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ尤モ銀行條例ニ阻阻スヘカラス(但シ改正セシ次第ヲ紙幣頭ニ届出ヘシ)

此改正取締役等或ハ株主等二人以上ニテ立議シ株主等一同ノ集會ヲ乞テ決議スヘシ

右ノ條々ヲ取極メタル證據トシテ姓名ヲ記シ調印イタシ候也

明治十一年一月一日

株主等連名 印

但シ此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定シ退テ頭取支配人等定マリシ上ニテ左ノ與書ヲ以テ紙幣寮ヘ差出ヌヘキ事トス

紙幣頭ニ差出ヘキ本紙ノ與書

右一國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ儲ニ之ヲ銀行ニ藏メ置候仍テ其保証ノ爲メ私共自カラ記名調印致候也

支配人

姓名 印

頭取

姓名 印

紙幣御寮

銀行ニ藏メ置ヘキ扣寫ノ與書

右ハ一國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙ハ規則ノ通之ヲ紙幣寮ニ差上候仍テ其保証ノ爲メ私共自ラ記名調印致シ候也

幣紙

第十三類 銀行

二百九十七

明治十一年一月一日

支配人

姓名印

頭取

姓名印

右何々國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ本寮ニ受取候ニ付年号一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ爰ニ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シ其事ヲ保証シ之ヲ銀行ヘ交附イタシ置候也

明治十一年一月一日

紙幣頭何ノ誰印



株主等ハ又銀行創立證書ヲ認ムヘシ其文例如左

銀行創立證書

大日本政府ノ公債証書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引替ル儀ニ付明

治五年八月五日大日本政府ニ於テ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ基キ國立銀行ヲ創立シ其商業ヲ經營セント謀リ此證書第四條ニ連名シタル者共協力シテ此社ヲ結ビ左ノ創立證書ヲ取極メ候也

第一條

此銀行ノ名号ハ「國立銀行」ト稱スヘシ

第二條

貸附金預リ金其他ノ業ヲ經營スヘキ此銀行ノ公店ハ「州」郡「街」ニ於テ取建ヘシ

第三條

此銀行ノ元金ハ一萬一千圓ニテ百圓ヲ以テ一株ト定メ一株ニ分割スヘシ

第四條

此銀行ノ株主等ノ姓名宿所并ニ所持ノ株數ハ左ノ表ノ如シ

株主姓名		宿所		元金株數	
誰	誰	州	郡何村町	金何圓	何株
誰	誰	州	郡何村町	金何圓	何株

總計何人

合金一圓
株數

三百

第五條

此證書ハ銀行條例ニ基キ私共一同ノ利益ヲ謀ル爲ニ取極メタリ右ノ證據トシテ私共一同姓名ヲ自記シ調印イダシ候也

明治一一年一月一日

株主等連名 印

右何々國立銀行創立證書ハ本日株主共一同余カ眼前ニ來リ書面ノ通ニ認メタル趣ヲ正實ニ保証シ其證據トシテ余カ姓名ヲ記シ當局ノ官印ヲ鈐シ候也

明治一一年一月一日

地方官員名印

紙幣察印

地方官
廳之印

右何々國立銀行創立證書ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ本寮ニ受取り候ニ付年號一月一日予ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ爰ニ紙幣察ノ官印ヲ鈐シ其事ヲ保証シ之ヲ銀行ヘ交附イダシ置候也

年號一月一日

紙幣頭何ノ誰印

官印

此創立證書ハ國立銀行ヲ結フニ付政府ト其銀行トノ約定書ニ比シキ大切ノ書面ナリ又銀行定款ハ全ク銀行組合ノ取極メナレハ政府ニ關係アルニ非ラス株主等ハヨク此別ヲ心得ヘシ

此創立證書銀行定款トモ紙幣頭之ニ與書官印ヲ加ヘテ銀行ニ渡シ銀行ニテ之ヲ藏メ置ヘシ

附請合狀ノ事

國立銀行ヲ結ハント欲スル者前文ノ手續ニナスヘキコト相當ノ儀ナレトモ身許問合等ニ時日ヲ費スノ患アリ故ニ願人等ノ身許ヲ請合タル請合狀ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ此請合狀ハ其地方ノ高官ニテモ又ハ有名ナル庶人ニテモ差支ナシ願人等ハ銀行創立ノ願書ト右ノ請合狀ト前文ノ銀行定款ト三通ヲ一時ニ紙幣頭ニ差出ヌヘシ然ル時ハ手數ヲ省キ開業ノ期モ自ラ速カナルヘシ但シ此事ハ銀行ヲ結フヘキ輩ノ便宜ニ任スナレハ可成丈本式ノ手續ヲナサハ猶適正ナルヘシ

請合狀文例

一州一郡何處ニ於テ銀行創立ノ儀ナ一州一地何ノ誰一州一地何ノ誰何ノ誰願出ニ

第十三類 銀行

三百一

付右ノ者共身許富實ニシテ從來ノ營業正シク右銀行創立ヲ發起スルニ相當ナル儀
ハ私從來詳知罷在候間御差許有之候テモ決シテ御差支ノ儀無御座候依之請合狀差
上候也

年號一月一日

何ノ誰印

紙幣御寮

取締役ノ事

銀行ノ株主等ハ一同ノ衆議ニヨリテ取締役ヲ撰擧スヘシ（撰擧ノ月日場所ハ銀行定款ノ條
中ニ記載シタリ）

右ノ撰擧ニ應シタル取締役ハ直ニ誓詞ヲ認メ遲滞ナク之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其寫ハ銀行
ニ藏メ置ヘシ其文例ハ即チ如左

頭取々取締役ノ誓詞

一州一郡一街一國立銀行ノ取締役何ノ誰謹テ左ノ條々ヲ誓フ私儀ハ一州ノ民籍
ニテ一州一郡一街ニ居住イタスニ相違無之事當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私共關
係ノ職掌ハ謹直ニ取扱フヘキ事

當銀行創立ニ付銀行條例ノ趣意ハ一ヶ條タリトモ決シテ犯ス間敷又他人ヲシテ犯
サセ間敷事

條例ノ趣意ニ從ヒ私儀當銀行ノ株高帳ニ書込ミタル通り元金中ノ三十株ハ自力ヲ
以テ所持スルニ相違ナキ事

右ノ株ヲ質入致シ或ハ借財ノ引當ニ向ケ置フハ決シテ不致候也

某州某府縣某銀行取締役

何ノ誰印

明治一年一月一日書面ノ者余カ眼前ニ於テ調印シ誓チイタシ候也

地方官員名 印

地方官
應之印

但此誓詞ハ取締役等各通タルヘシ

右ノ取締役ニ撰擧セラルヘキ人ハ元金ノ三十株ハ是非トモ自力ニテ所持スヘシ但株主等ノ
中ニ適當ノ人オアリテ一同ノ衆議此人ヲ撰フト雖モ右ノ三十株ニ不足ナル故ヘテ以テ取
締役ニ擧ゲガタキ時ハ其人ヲシテ三十株丈ケニ増株ヲナサシメテ後ニ改テ取締役トナス
ヘシ

右ノ取締役ヲ撰擧シ畢ラハ此撰擧ニ應シタル取締役等ノ衆議ニテ其内ヨリ一人ヲ撰ミテ頭

取トナスヘシ又（支配人ヲ人撰シテ之ヲ命シ書記其外ノ役人ヲモ命スヘシ）（支配人ハ銀行ノ商業ヲ處分スル重任アレハ須ラノ熟練ノ人ヲ撰フヘシ他人ヲ雇入レテモ差支ナシ決シテ株主ノ内ヨリト限ルコト非ス）
 銀行ノ株主等銀行條例ノ割合ニ從ヒ退々ト元金ヲ入金シ其集リ高元金ノ五割（十萬圓ノ元金ナラハ五萬圓ニアタルナリ）ニ至ラハ頭取或ハ支配人并ニ取締役連印ノ證書ヲ紙幣頭ニ差出ヘシ其文例ハ即チ如左

銀行役人ノ證書

大日本政府ノ公債證書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引替ル儀ニ付明治五年八月五日大日本政府ニ於テ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ基キテ新ニ創立シタル一州一郡一ノ一國立銀行ノ頭取支配人取締役謹テ左ノ條々ヲ保証ス
 當銀行永久ノ元金トシテ一萬一千圓ノ高ハ既ニ株主等ヨリ之ヲ當銀行ニ入金イダシ候事取締役等ノ宿所并ニ株數ハ左ノ表ノ通ニ相違無キ事

株數	宿所	取締役姓名

當銀行ハ開業ノ免許ヲ得ヘキ前ニ履行スヘキ條々ハ銀行條例ヲ遵奉シ一々之ヲ取行ヒタルニ相違無之候也
トリカコナヒ

年號一月一日

支配人 姓名 印
 取締役 姓名 印
 姓名 印
 姓名 印
 頭取 姓名 印

紙幣 御 察

此書面ニ調印スヘキ取締役ハ三人以上ノ連印ニテ差支ナシ

國立銀行役人上任規則

大藏省 紙幣寮
 明治一年一月一日
 各國立銀行并ニ當紙幣寮トノ往復其外ニ謬誤ヲ生セサランニハ諸銀行ノ役人等轉任ノ度毎ニ之ヲ當寮ニ報告スルヲ緊要ナリトス銀行新任ノ役人等ノ調印ニテ書面ヲ差出ス時當寮ニ於テ其役人ノ姓名花押印鑑ヲ知ラス又上任ノ事ヲ知ラ

スシテハ大ニ不都合ヲ生スヘシ於此左ノ規則ヲ履行セシム

一 諸國立銀行ヨリ當寮ニ差出スヘキ諸書面ニ調印スヘキ銀行役人ノ姓名花押印鑑ヲ前以テ當寮ニ報告ナキ時ハ一切其役人ノ調印シタル書面ヲ取用ヒサルヘシ

一 當寮ヨリ諸銀行ヘ達スヘキ書面ハ上任ノ報告ヲ以テ承知シタル役人ヘ向ケテ達スヘシ

一 上任ノ報告ハ他ノ報告書ト体裁ヲ異ニシ銀行ノ印ヲ加ヘ可成ハ前任新任ノ兩印ヲ備フヘシ

一 上任ノ報告ハ左ノ書体ニ從ヒ一様ナルヲ長トスヘシ

一州一郡一國立銀行

明治一年一月一日

當一月一日何ノ誰儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何ノ誰儀ハ支配人ニ命セラレ其花押印鑑ハ別紙ノ通りニ候也

銀行ノ印

元頭取 何ノ誰 印

元支配人 何ノ誰 印

新頭取 何ノ誰 印

新支配人 何ノ誰 印

紙幣御寮

用紙美濃堅七寸幅二寸

千支一月一日何ノ誰代リ

何役撰舉

頭取或ハ支配人

籍

銀行ノ印

印鑑

小印 何ノ誰花押

支一歲

宿所

國立銀行創立ニ付心得ヘキ件々如左

- 一 銀行條例第二條ニ記載シタル如ク凡ソ新創ノ銀行ノ社號ハ紙幣頭ノ承認ヲ得テ之ヲ通稱トナスヘシ銀行ヲ新創セント欲スル發起人ハ預シメ其社號ヲ撰ニ證書類ヲ差出ス前ニ其社號ヲ紙幣頭ニ伺フヘシ
- 一 銀行定款并ニ創立證書ニ名印スル輩ハ姓名ヲ正記シ其實印ヲ押スヘシ
- 一 創立證書ニハ必ス地方官ノ奥書與印ヲ具スヘシ此地方官ハ地方官廳或ハ官廳ノ記録局ノ

類ナリ須ラク府縣諸廳ノ定則ニ從テ其奥印ヲ受クヘシ
一銀行定款ノ本紙并ニ扣トモ株主等ノ總連名ニテ頭取支配人等ニ通共ニ奥書ヲナスヘシ尤
其文例ハ既ニ前ニ詳ナリ

公債証書預ケ方ノ事

國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ記名(若シ空名ナレハ出納寮ニテ記名ニ引替テ願フヘシ)
ノ公債証書ヲ出納頭ニ預クヘシ是ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ引當ナレハ其銀行ノ元
金高ノ十分六ニシテ即チ銀行ニ受取ルヘキ紙幣ト同様ノ員額タルヘシ(銀行條例第六條
中ノ數節ヲ參考スヘシ)

此公債証書ノ裏面ニハ銀行ノ頭取支配人ノ裏書ヲ加ヘ此公債証書ハ信ヲ表スル爲ニ銀行ヨ
リ出納頭ニ預ケ其受取証書ヲ乞得ヘシ

此公債証書ヲ差出スニハ遠隔ノ地ハ郵便驛便ヲ以テ送ルトモ差支ナシ○出納頭ハ公債証書
ヲ落手シ直ニ假受取書ヲ其銀行ヘ渡シ追テ紙幣頭連名ノ本受取書ヲ渡スヘシ

開業免狀ノ事

銀行創立証書定款等ノ手續相濟銀行諸役員ヲ選任シ各株主等ハ定規ノ入金ヲナシ銀行條例
ノ趣意ヲ悉ク履行シタル証據ヲ得ハ紙幣頭ヨリ改メテ開業免狀ヲ其銀行ニ渡スヘシ(銀
行條例第三條)此免狀ヲ得タルトテ銀行ヨリ六十日ノ間ハ世上ニ公布スヘシ

大藏省

紙幣寮

第一千一百一十番

明治一年一月一日

開業免狀

某州一郡一地方ノ國立銀行ヨリ差出シタル証書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ノ公債
証書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引替ル儀ニ付明治五年八月五日大
日本政府ニテ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ從テ創立シ其開業前ノ手續ハ都テ此銀
行條例ノ規則ヲ履行シタルト分明ナルコト付今此開業免狀ヲ交付シ自今銀行條例ニ
從テ銀行ノ業ヲ營ムコトヲ許可スルモ也

右ノ証據トシテ明治一年一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ爰ニ姓名ヲ自記シ官印
ヲ鈐スル也

年號一月一日

紙幣頭何之某 印

官印

開店ノ事

銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得タル上ニテ銀行條例ニ許シタル通りニ其業ヲ經營スルコトヲ得ヘシ
右ニ付火盜ノ難ヲ防グコトヲ第一ニ心掛ケ堅固ナル石庫ヲ取建テ又帳面勘定向チ嚴密ニナシ

何時ニテモ紙幣頭ヨリ達シ次第ニ報告ヲ差出スニ差間ナキ様ニ必懸ヘシ

元金ノ事

凡ソ國立銀行ハ人口十万人以上ノ地ニ於テハ五十万圓以下ノ元金ニテハ創立スルヲ許サズ
尤モ十万人未滿一万人以上ノ地ナラハ二十万圓ノ元金ニテ取建ルヲ得ヘシ
但一万人未滿三千人以上ノ地ナラハ大藏卿別段ノ詮議ヲ以テ五万圓マテノ元金ニテモ
取建ルヲ許スヲアルヘシ

元金月賦入金ノ事

國立銀行ノ元金ハ開店前ニ是非トモ其半高ヲ株主等ヨリ銀行ニ入金シ殘リノ半高ハ之ヲ五
ツニ割リ毎月之ヲ入金スヘシ假令ハ

某銀行元金十方圓

- 正月十五日開店迄ニ入金高 五萬圓
- 二月十五日迄ニ入金 壹萬圓
- 三月十五日迄ニ入金 壹萬圓
- 四月十五日迄ニ入金 壹萬圓
- 五月十五日迄ニ入金 壹萬圓
- 六月十五日迄ニ入金 壹萬圓

計拾萬圓

右ノ如ク開店ノ日ヨリ算シテ一ケ月毎ニ入金スヘシ尤モ六ケ月前ニ入金シ畢ルハ勝手タル
ヘシ開店ノ時ニ總高ヲ盡ク入金スルハ最上タルヘシ

但此入金十分ノ六ハ金札ニテ出納察ヘ納メ公債証書ヲ得更ニ其公債証書ヲ預ケ紙幣ヲ
受取ノ手續ヲ爲スヘシ

右ノ月賦ヲ株主等ヨリ入金シ銀行ノ元高増加スルニ付其元金ノ實額ト紙幣察ノ計帳高ト相
違ナカラシムヲ事務トスヘシ故ニ元金ノ月賦入金濟迄ハ毎月其銀行ヨリ元金集高届書ヲ
紙幣頭ニ差出スヘシ其文例即チ如左

元金集高届書

一州一郡一ノ國立銀行ノ元金トシテ一萬一千圓ノ第一回月賦ヲ株主等ヨリ銀行
ニ入金イタシ是迄ノ入金ニ加算シ總高一萬一千圓ト相成候也

明治一一年一月一日

支配人 誰 印

頭取 誰 印

誰 印

銀行 紙幣 御寮

元金増減ノ事

國立銀行ノ元金ハ株主等ノ存意ニヨリテ増加スルヲ得ヘシト雖モ紙幣頭ノ承認ヲ得サレハ其手續ニ取掛ルヘカラス故ニ銀行ノ株主等若シ元金増チナサント決議セハ其趣ヲ前以テ紙幣頭ニ申立其許可ヲ得テ元金増集ノ手續ニ取掛リ其增高入金濟ノ上銀行ヨリ紙幣頭ニ元金増集届書ヲ差出スヘシ其文例左ノ如シ

元金増集証書 一州一國立銀行

何州一郡一地	元金何圓	合何圓
何ノ誰	増金何圓	此株何程
合元金増金	總合此株	

右ハ株主三分二以上ノ存意ヲ以テ元金増加現額書面ノ通相違無之候也

支配人

紙幣寮割印

明治一一年一月一日

何ノ誰 印 頭取

銀行ノ印 紙幣 御寮

何ノ誰 印

右之通相違無之候也

地方官廳ノ印

地方官員 印

右ハ一銀行元金増集証書ヲ差出ニ付年號一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ割印ヲ加ヘ之ヲ保証スル也

年號一月一日

紙幣頭何ノ誰 印

証印

右ノ書面ヲ差出サハ與書ヲ與フヘシ銀行ハ此與書ヲ得タル上ニテ公債証書ヲ預ケ通用紙幣ヲ受取ル手續ニ取掛ルヘシ

國立銀行ハ又其元金ヲ減少スルヲ得ヘシト雖モ紙幣頭ノ承認ヲ得サレハ其手續ニ取掛ルヘカラス銀行ノ株主等若シ其元金ヲ減少セント決議セハ其趣ヲ紙幣頭ニ申立其許可ヲ得テ減少ノ手續ニ取掛ルヘシ
但此減少ハ銀行條例ノ元金高定規ヨリ減スルヲ許サス

減少ノ手續ハ其發行紙幣ヲ紙幣寮ニ返上シテ燒捨ノ手續ヲナシ其高丈ケノ公債証書ヲ出納頭ヨリ紙幣頭ノ手ヲ經テ取戻スヘシ又準備金モ之ニ準シテ減少スヘシ
ヒキアテセトキン
 右減少濟ノ上銀行ヨリ元金減少証書ヲ差出ヘシ其文例如左

元金減少証書何州一銀行

紙幣寮割印

何州一郡一地	現額	外減少高
何ノ誰	元金一圓	金何圓
同何ノ誰	元金一圓	金何圓
合何圓	合何圓	合何圓

右ハ株主二分二以上ノ存意ヲ以テ元金減少高并ニ殘現額トモ書面之通り相違無之候也

明治一年一月一日

銀行 紙幣御寮
 支配人 印
 頭取 印

右ノ通相違無之候也

地方官廳ノ印

地方官員ノ印

右ハ一銀行元金減少証書差出ニ付年號一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ割印ヲ加ヘ之ヲ保証スル也

明治一年一月一日

紙幣頭何ノ誰印

証印

右増減証書ハ本紙寫ニ通テ紙幣寮ニ出シ其寫ヘハ前ノ文例ノ如ク紙幣頭ノ奥書鈐印アルヘシ

發行紙幣注文ノ事

國立銀行ヨリ公債証書ヲ預ケ本受取書ヲ落手セハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ニ申立ヘシ其文例如左
 但銀行條例第八條ノ第三節ヲ參覽シテ此注文書ヲ出スヘシ
トリヨセミル

注文書

一州一郡一ノ一國立銀行ニ於テ銀行條例ニ從ヒ一万一千圓ノ紙幣ヲ發行イタシ度ニ付左ノ目錄ノ通りニ御渡被下度候也

紙幣名稱	員數	金高
一圓	枚	圓
二圓		
十五圓		
五百圓		
五百圓		
合計	枚	圓

右發行紙幣ノ引當トシテ出納頭ニ預ケタル公債証書ノ現額ハ如左

公債証書ノ種類	利息	金高
	分	
	分	
合計		金

右ノ趣証ヲ奉願候也

——國立銀行

明治——年——月——日

支配人——印
頭取——印

ノ銀行
印行

紙幣御察

紙幣頭ハ右ノ注文書ノ通ニ紙幣ヲ製造シ大藏卿其他ノ官員并ニ番號ト銀行ノ番號トヲ兩ナカラ押シテ銀行ニ渡スヘシ
銀行ハ之ヲ受取テ後受取証書ヲ出スヘシ其文例如左

紙幣受取証書

紙幣名稱	員數	金高
一圓	枚	圓
合計	枚	金圓

右ハ當——銀行發行紙幣トシ正ニ受取候也

年號一月一日

支配人
頭取
印

銀行
ノ印

紙幣御察

紙幣發行ノ事

國立銀行ニテ前文ノ紙幣ヲ落手セハ頭取支配人ノ兩人一々紙幣ノ表面ニ其銀行ノ証印ヲ押シ書込ナシテ後之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ押シ損シ等アラハ其趣ヲ紙幣寮ニ申立廢紙幣ヲ納メテ引替ヲ乞フヘシ

但シ其銀行ノ印類雜形ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其節印肉ハ紙幣寮ヨリ之レヲ渡スヘシ
舊紙幣燒捨并新紙幣受取方ノ事

國立銀行ヨリ發行シタル紙幣追々ト手摩レ其紙面垢付キ或ハ糜爛敗裂ニ及ハ、之ヲ取戻シ兼テ紙幣頭ノ定メタル舊紙幣燒捨テノ條規ニ從ヒ之ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ其時頭取支配人ヨリ一書ヲ添フヘシ其文例如左

但押印書込等ノ節押損シ又ハ書損セシ紙幣モ此例ヲ以テ申立ヘシ

一州一郡一ノ一國立銀行本日何々一便ヲ以テ當國立銀行ヨリ發行ノ紙幣中敗裂ノ分一万一千一圓ヲ差出候其目錄ハ即如左

紙幣ノ名稱	員數	金高
壹圓		圓
二圓		
五圓		
拾圓		
二十圓		
五十圓		
百圓		
五百圓		
合		
	合	

右ハ當銀行發行紙幣ノ内敗裂等ニテ通用難相成分書面ノ通り差上候處相違無之候右ノ敗裂紙幣ハ御定例ノ通り燒捨ノ立合可致候尤モ燒捨濟ノ上右ノ金高ヲ新紙幣ニテ御渡可被下候此段奉願候也

明治一年一月一日

一國立銀行
支配人

國立銀行ノ印

紙幣御察

頭取

印

印

紙幣寮ニテ右ノ敗裂紙幣ヲ受取ラハ代リ新紙幣ヲ銀行ニ遣ハスヘシ

銀行ハ又燒捨ノ立合人ヲ東京ニ於テ兼テ頼ミ置クヘシ紙幣寮ニテ燒捨ノ節ハ其立合人ニ通達アルヘキニ付其者紙幣寮ニ至リ諸寮ノ立合ト共ニ燒捨所ニ立合ヒ實驗ノ上ニテ燒捨証書ニ調印スヘシ尤モ此燒捨証書ハ二通ニ認メ本紙ハ紙幣寮ニ藏メ扣ヘノ方ハ之ヲ銀行ニ藏ムヘシ(銀行條例第八條)

右ノ立合ニハ大藏省ニ關係ナキ人ヲ撰ンテ銀行ヨリ差出ヘシ

國立銀行ヨリ差出タル敗裂紙幣ノ引替并ニ燒捨ノ條規
第一條

國立銀行ヨリ引替ノ爲メニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂紙幣ハ五百圓以上ノ高タルヘシ尤百圓宛チ一包トナスヘシ

第二條

敗裂紙幣ハ消印ヲ押シ名稱ヲ分チテ之ヲ別々ニ束チ其上ニ高チ記シ目錄ヲ添ヘ紙幣寮ヘ差出ヘシ

右ノ通ニ致サハル紙幣アラハ之ヲ當寮ヨリ其銀行ニ差戻ヘシ

切々ニ敗裂シタル紙幣アラハ銀行ノ役人ノ集メテ糊附ニナシテ之ヲ差出ヘシ

第三條

敗裂シタル紙幣ヲ其銀行ニ持參スル人アラハ銀行ノ役人ハ能ク其金高チ記シタル名稱ノ所ヲ改メ之ヲ引換ヘ遣スヘシ假令敗裂シタル紙幣ノ切ニ不足アルモ大藏卿印章アラハ之ヲ引替ヘシ

此紙幣引替ニ付往復運送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

公債証書利息受取方ノ事

國立銀行ヨリ出納頭ニ預ケタル公債證書ノ利息受取方ノ儀ニ付テハ僻遠ノ地ニ創立スル銀行ハ云ニ及ハス府下ノ銀行タリトモ名代人ヲ命シテ其利息ヲ出納頭ヨリ請取ラシメテ差支ナシ尤モ此名代役ノ姓名印鑑及ヒ其名代ヲ命セシ趣チ其銀行頭取支配人ヨリ書面ヲ以テ出納頭并紙幣頭ニ差出ヘシ

右ノ預ケタル公債証書ノ利息ハ盡ク東京ニ於テ拂フヘシ
公債利息拂ヒノ期月ニ至ラハ銀行ノ頭取ハ名代人ニ委任狀ヲ渡スヘシ此委任狀ヲ持參シタ

ル名代人出察納ニ至リテ此委任狀ヲ示ス時ハ出納頭其社號等ヲ引合ヒ公債ノ金高ニ應
テ歩合ノ利息ヲ其者ニ渡スヘシ此委任狀ノ文例ハ即チ如左

名代委任狀

私儀此銀行ノ頭取タルヲ以テ右ノ權ヲ奉戴シ茲ノ(何地何街何丁目何ノ誰)ナシテ
此銀行ノ名代人ヲラシメ此銀行ヨリ出納頭ニ預ケ置タル公債証書ノ利息ヲ受取ヘ
キヲ命ス

此名代人ハ即チ此銀行ノ名代ナレハ利息受取方ニ付テハ諸事其權内ニアルヘシ
右ノ證據トシテ私ノ姓名ヲ記シ社印ヲ加ヘ候也

―――國立銀行

明治十一年一月一日

頭取―――

印

銀行
ノ印

國立銀行報告ノ事

國立銀行ハ一ケ年中四度以上其銀行營業ノ實際報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ(銀行條例第十
二條)此報告雛形并ニ文例ハ紙幣頭ノ定メタル体裁ニ從フヘシ

此餘ノ諸報告ニ付紙幣頭ヨリ兼テ觸置タル報告書面ノ覺書アリ銀行ハ須ラク此覺書ヲ用所
ノ壁上ニ掲ケ置ヘシ

銀行條例ノ趣意ヲ履行シ諸國立銀行ヨリ可差出報告并書面ノ覺

紙幣頭ニ可差出報告

第一 銀行實際報告

是ハ毎年四度以上紙幣頭ヨリ達シタル日限マテノ商業ノ模様ニ付其實際ヲ記シ右ノ達ヲ
落手シタル日ヨリ十日ノ内ニ差出ヘシ

報告ノ文例ハ紙幣察ヨリ發行シタル印紙ノ例ニ從フヘシ

第二 銀行實際別段報告

是ハ紙幣頭ノ考察ニテ某國立銀行實際ニ付尙明細ノ情實ヲ知ルヲ緊要ナリトセハ其銀
行ヲシテ此報告ヲ差出サシムヘシ尤其銀行ハ右ノ達ヲ落手シタル日ヨリ十日ノ内ニ差出
スヘシ

第三 銀行利益金割合報告

是ハ銀行ニ於テ當年ノ利益金ハ元金一株ニ付何圓何錢ノ利益アリト云フ割合且右割合ノ
内ニテ銀行積立金高ヲ分記シ全ク株高ヘ分割スヘキ高ヲ現ハシ株主一同ヘ公告ヲナシタ
ル日ヨリ十日ノ内ニ紙幣頭ニ差出スヘシ

第四 銀行實際報告刊行見本

是ハ銀行ニ於テ實際報告ヲ世上ヘ刊行公告スル時ニ其刊行見本ト共ニ上木ノ奥書ヲ添實
際報告ヲ差出タル日ヨリ後可成丈ケ急速ニ差出ヘシ

第五 株主姓名表

是ハ銀行ノ株主等銘々ノ姓名宿所并ニ所持ノ株數ヲ一々記載シ毎年十二月十日ニ差出ヘシ

第六 頭取々締役誓詞

是ハ銀行ニテ頭取々締役ヲ撰擧シ之ヲ命シタル度毎ニ其人ニ誓詞ヲ記サセ直ニ之ヲ差出ヘシ

第七 銀行役人上任報告

是ハ銀行ノ頭取并ニ支配人ヲ選舉シ之ヲ命シタル度毎ニ上任規則ニ從テ速ニ之ヲ差出ヘシ

第八 銀行元金増減申立

是ハ元金増減ノ儀ヲ紙幣頭ニ申立其承認ヲ得テ後ニ増減ヲ實地ニ取行フヘシ（銀行條例第五條ヲ參考スヘシ）

第九 銀行鎖業并ニ分散ニ付株主等見込ニ申立

是ハ銀行ヲ鎖サシ或ハ銀行ヲ分散スルコトニ取掛ル前直ニ之ヲ差出ヘシ（銀行條例第十九條ヲ參考スヘシ）

第十 鎖店或ハ分散申立刊行見本

是ハ鎖店又ハ分散ノコトヲ世上ヘ刊行公告シテ後可成丈速ニ差出スヘシ（銀行條例第十九條ヲ參考スヘシ）

第十一 發行紙幣平均高并ニ準備金預リ金平均高申立（但一ケ年半ケ年平均）

是ハ毎年七月二十日迄ノ内ニ差出スヘシ
但シ右ノ外銀行日々出納計算表ハ銀行條例第十二條ノ第三節ニ從ヒ明瞭ニ之ヲ作ク
置キ紙幣頭ノ差圖ニ從テ差出スヘシ
右ノ規則ニ從テ諸國立銀行ヨリ諸報告并申立ノ書面ヲ差出スヘシ且心得トシテ此覺書ヲ
銀行ノ壁上ニ掲ケ置ヘシ

用紙ノ事

國立行銀ヨリ可差出銀行定款創立証書取締役誓詞實際報告等ノ如キ諸書類ノ紙幅并ニ体裁
共都テ一様ナランコトヲ要トシ紙幣寮ニテ皆之ヲ上木シタリ故ニ銀行ハ創立ノ初メニ此紙
類ノ印紙ヲ紙幣寮ヨリ申受テ用フヘシ若シ用ヒ畢ラハ幾回モ申受テ之ヲ用ユヘシ但シ豫
シメ其社ノ入用ヲ見積リ前以テ其銀行ヨリ申立ヘシ

銀行諸簿冊ノ事

銀行諸簿冊ハ紙幣寮ニテ定メル書式ニ從ヒ一様ノ手續ニテ之ヲ記載シ出納合計差引等ヲ
精確ノ勘定ヲナシ明瞭ニ之ヲ記入スヘシカキカヌ

但シ此簿冊ハ預シメ入用ヲ測リテ銀行ヨリ紙幣寮ヘ申立成冊ヲ申受テ之ヲ用ユヘシシメテテヨクメン

申合セ規則ノ事

國立銀行ヲ創立スル上ハ取締役等ノ衆議ニテ此社中申合セ規則ヲ取定ムヘシ尤モ社中ノミ
ノ申合セニテ公然タル法則ト見做スヘキニ非サレハ之ヲ紙幣頭ニ差出スニ及ハス故ニ條
中ノ増減モ衆議ニ任セテ差支ヘナシ但シ銀行條例ノ趣意ニ違背セサル様ニ心掛ケヘシ
今茲ニ申合セ規則一般ノ文例ヲ左ニ掲ク

但シ銀行條例第四條中ノ趣旨及ヒ銀行役員ノ給料褒貶ノ手續キ其他ノ要件ヲ參考シテ可
成丈ケ詳細ニ諸事ヲ申合セテ之ヲ取定ムヘシホメタリサトシタリ
クハシクコマカ カンジシノコト

一州一郡一ノ國立銀行申合規則取締役選舉ノ事

第一條

當國立銀行株主等ノ集會ニテ新取締役ヲ選舉スルコトハ毎年正月十一日朝第十字
ヨリ第四字迄ノ間ニ當銀行ニ於テ之ヲ行フヘシ尤モ此集會ノ日限趣意柄ハ一ヶ月

前ヨリ當銀行ノ頭取支配人之ヲ公布スヘシ

取締役等又此集會ノ一ヶ月前ニ株主等ノ内ヨリ三人ヲ撰ミテ之ヲ撰舉シ裁判役ト
定メ置クヘシ此裁判役ハ撰舉ノ議論ヲ決斷シタル上ニテ其撰舉ノ始末並ニ選舉シ
タル新取締役ノ姓名ヲ頭取支配人ニ報告スヘシ

第二條

頭取支配人ハ右ノ裁判役ヨリ撰舉ノ報告ヲ得ハ直ニ此事ヲ當銀行ノ日記ニ録シ右
ノ撰舉ニ應シタル新取締役ニ通達シ當銀行ニ於テ集會アランコトヲ申込ヘシ
此集會ノ當日ニ至リテ右ノ取締役等過半出席セサル時ハ追テ過半ノ人員出席スル
迄會議ヲ延スヘシ

第三條

毎年選舉ノ定日ニ當リ故障アリテ集會スルコトヲ得サル時ハ其事故ヲ公布シ追テ
集會ノ日限ヲ定ムヘシ但シ裁判役ノ選舉裁判役ノ報告新取締役ノ撰舉等ハ都テ此
規則ノ第一條第二條ニ從フヘシ

銀行役人ノ事

第四條

當銀行ノ役人等ト稱スルハ

取締役	凡五人
内頭取	一人
支配人	一人
勘定方	一人
帳面方	一人

書記役等都テ銀行ノ業体取扱ニ關係シタル人々ヲ云ナリ

第五條

當銀行ノ頭取ハ退役轉役放免ノ外ハ奉職ノ年限中必ラス勤仕スヘシ
若シ取締役或ハ頭取欠員ノ時ハ取締役ノ衆議ヲ以テ代任權任ノモノヲ命スヘシ

第六條

支配人并ニ以下ノ役人等ハ取締役ノ衆議ニテ命シタル年限中奉職スヘシ

第七條

支配人ハ當銀行ノ有金積金其餘大切ノ物品ヲ預カリ其責ニ任スヘシ又頭取々締役ノ差圖ニ任セ或ハ其差圖ヲ受ケタル人ノ沙汰ニ任セテ之ヲ出納スヘシ

第八條

頭取ハ銀行ノ事務全体ヲ注意シテ總テ其責ニ任スヘシ然レトモ新ニ一舉ヲ定メ又

ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及定例ナキ出納ノ事等ハ取締役ノ協議ニ非レハ之ヲ決スヘカラス

第九條

勘定方ハ支配人其外ヨリ時々引渡シタル金銀并ニ諸物品ヲ受持テ其責ニ任スヘシ又取締役ノ差圖ニ任セ或ハ其差圖ヲ受ケタル人ノ沙汰ニ任セテ之ヲ出納スヘシ

第十條

當銀行ノ諸役人等ハ其職務ヲ廉直ニ勤ムルコトノ證據トシテ奉職ノ節慥ナル請人兩人以上ヨリ身許請狀ヲ取締役ニ差出スヘシ若シ此役人等ニ過失アラハ取締役ハ其請人ニ迫リテ相當ノ罰金ヲ當人ヨリ取立以テ當銀行ノ損耗ヲ償フヘシ

但此役々ヨリ可成丈ハ奉務中ノ證據金トシ相當ノ公債証書其他ノ証券ヲ預置テ最上トス

社印ノ事

第十一條

取締役ノ衆議ニテ決定シテ採用シタル當銀行ノ印章ハ即チ如左

一寸八分四方

押切印



外ニ合印渡濟請取等ノ小印アルヘシ

地面家庫讓渡ノ事

第十二條

地面田畑山林家屋土藏ノ類ヲ引取り或ハ讓渡ス節ハ當銀行ニ於テハ取締役ノ協議ニ從ヒ社印ヲ押シテ取扱ヒ頭取支配人ノ中ニテ之ヲ調印スヘシ

元金増ノ事

第十三條

當銀行ノ定款ニ從ヒ元金ノ高チ増加セント衆議ニテ決定スル時ハ頭取々締役ヨリ株主等ニ増株書込^キノ事ヲ通スヘシ

元金増ノ節ハ株主等ハ銘々ノ株數ニ應^キテ新規ノ増株ヲ所持スルノ權アルヘシ若シ株主等ノ中ニ此増株ヲ書込ムコトヲ怠ル者アラハ頭取々締役ハ衆議ニテ此殘株ノ處置ヲナスヘシ

銀行業体ノ事

第十四條

一般ノ祝日并ニ休日ノ外ハ當銀行ハ每朝第一字ヨリ夕第一字迄ノ間商業ヲ取扱フヘシ

當銀行ノ取締役ノ中一人ニテ別ニ爲替掛リヲ勤ムヘシ此者ハ頭取支配人ニ詢リ諸爲替手形并ニ証券類ノ取引賣買ノ差圖ヲナシ定式ノ集會毎ニ其取扱振ヲ取締役一同ニ報告スヘシ尤此爲替掛リノ取締役ハ六ヶ月毎ニ撰舉ニテ交代イタスコトアルヘシ

記録ノ事

第十五條

當銀行ノ創立証書定款并取締役撰舉ノ儀ニ付裁判役ヨリ差出シタル報告或ハ取締役定式ノ集會臨時ノ會議等都テ當銀行ニ關係ノ書類ハ之ヲ記録ニ綴込ミ頭取ノ末尾ニ調印シ支配人之レニ連印シ之ヲ後日ノ證據ニ藏置ヘシ

株讓渡ノ事

第十六條

當銀行ノ株ハ銀行條例ノ趣意ニ從ヒ當銀行ノ元帳ニ引合セタル上ニテ讓渡スコトヲ得ヘシ此元帳ハ諸株証券ノ賣買ヲ取扱フ所ニ備ヘアルヘシ

第十三類 銀行

當銀行ノ株ハ頭取々締役ノ許可ヲ得サレハ之ヲ他人ニ讓渡スヘカラス
此株讓渡シノ儀ハ取締役ノ許可ヲ得銀行ノ元帳ニ引合セタル上ハ何時タリトモ差
支ナシ尤モ其株手形ノ書替ヘチナサ、ル時ハ當銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ新故
ヲ論セス其株ノ名前人ニ渡スヘシ

第十七條

當銀行ノ株手形ニハ頭取并ニ支配人之レニ調印シ此株ハ銀行ノ元帳ニ引合セノ上
之ヲ讓渡スコトヲ得ヘシト記載スヘシ
此株讓渡ノ節ハ株手形ヲ元株主ヨリ銀行ニ請取リ改メテ新株手形ヲ新株主ニ相渡
スヘシ

銀行ノ入費ノ事

第十八條

當銀行日用ノ雜費ハ支配人之ヲ仕拂ヒ毎月毎年遺拂明細帳ヲ頭取ニ差出シ頭取檢
印ノ上取締役ヘ廻スヘシ

約定ノ事

第十九條

諸約定書類手形類并ニ請取書類ニハ當銀行ノ頭取支配人ノ中ニテ之レニ調印スヘ

シ
検査ノ事

第二十條

取締役ハ三ヶ月毎ニ其内ヨリ一人ヲ撰舉シテ検査役ダラシムヘシ此検査役ハ當銀
行ノ有高チ計算シ勘定ノ差引ヲ改メ諸帳面ノ締高等ノ正直ナルヤ否ヲ検査シ又當
銀行商業ノ實際儘カニ立行クヘキヤ否ヲ検査シ其顛末ヲ集會ノ節取締役一同ニ報
告スヘシ

集會ノ事

第二十一條

取締役其外ノ役々定式ノ集會ハ毎月一日タルヘシ
臨時集會ハ頭取或ハ支配人ヨリ通達シテ來集ヲ乞フヘシ

決議ノ事

第二十二條

頭取并ニ取締役ノ會議ニテ事ヲ論決スル時ニハ連席ハ數半以上ノ説ヲ以テ衆議ト
定メ之ニ從フヘシ

第二十三條

此申合規則ハ取締役三分二以上ノ論ニ從フテ之ヲ改正スルヲ得ヘシ

國立銀行ノ頭取支配人取締役等一同ノ心得トシテ申諭ス諸件

凡ソ國立銀行ノ頭取支配人取締役ニ撰舉セラル、人々ハ銀行條例ノ趣意ヲ詳悉シ其商業ノ取扱振リニ熟達スヘキコト論ヲ待ダスシテ明カナリト雖モ今余紙幣頭ノ職ヲ奉シ國立銀行ヲ總管スルヲ以テ茲ニ數件ヲ揭示シ其銀行ノ商業ヲ取扱フ爲メニ聊カノ裨益ヲナサンヲ望ム

國立銀行記錄ノ事

國立銀行ヨリ紙幣寮ニ差出シタル創立證書銀行定款ノ扣ヘハ之ヲ銀行ノ記錄ニ寫シ留メ取締役ノ撰舉銀行ノ申合セ規則諸役人ノ撰舉取締役撰舉ニ付裁判役ノ報告取締役ノ誓詞諸役人身許請狀等其餘都テ後日ノ證據トナルヘキ書類ハ盡ク之ヲ記錄ニ寫シ留メ其銀行ノ創立ヲ明瞭ニ他人ニ示スヘキ様ニ心掛ヘシ尤モ其寫留メニハ頭取支配人ノ調印アルヘシ且其本紙類ハ大切ニ之ヲ藏置ヘシ

商業取扱ノ事

國立銀行ノ商業ヲ取扱フニハ丁寧ト遲滯ナキトノ兩條ヲ大眼目トスヘシ帳面類ハ毎日差引ヲ附ケ有高ト帳面高トニ相違アルヘカラス銀行ノ檢査役ハ常ニ此所ニ注目シテ檢査シ其

狀實ヲ取締役一同ニ報告シ其顛末ヲ記錄ニ載置ヘシ

頭取ハ毎年撰舉スヘシ尤モ撰舉ノ衆議ニヨリテ重年ヲ命スルコトアルヘシ其外支配人以下ノ役々ハ頭取々取締役ノ衆議ニテ進退スヘシ但上任ノ節慥ナル請人兩人以上ノ調印ニテ其者ノ身元受狀ヲ取り置キ若シ當人ニ過失アルトキハ償金取立テノ請人ヲラシムヘシ

貸附金ノ事

貸附金ハ其利分ヲ前ニ引去ヘシ尤モ慥ナル見据ヘト引當アラハ利分跡拂ヒテ肯ニスルコトアリト雖モ可成丈ケハ前拂ヒニ取ルヘシ且貸附ノ日限ハ短キ程銀行ノ爲ニ便ナリト心得ヘシ

敗裂糜爛ノ紙幣ハ決シテ之ヲ貸附等ニ用フヘカラス之ヲ新紙幣ニ引換渡スヘシ

金子ヲ實地ニ受取ラスシテ證文ノ書換ヘテ承知致スヘカラス手續ヲ纏ル迄ニテ更ニ銀行ノ益ナカルヘシ帳面上ノ益ノミニテハ實地ニ於テ其効ナシト知ルヘシ日限ニハ急度返濟金ヲ受取リテコソ實地ノ利益ヲ見ルコトナリ

貸附金ハ大高ヲ一口ニ貸附ヘカラス須ラシ小高ニ數口アルヲ良トスヘシ尤モ時宜ニヨリテハ一口大高ヲ貸レ附ケ其利益ヲ得ルヲアレトモ遂ニハ其借主ノ爲メニ銀行ヲ分散スルニ至ルノ恐レアリ貸附ノ秘事ハ未前ヲ洞察シテ進退スルコトアリト知ルヘシ

出入ノ得意先ハ都テ信切ニ取扱フヘシ得意先ノ人々ノ繁昌ハ即チ其銀行ノ繁昌ナリ但シ銀

行ノ秘事ヲ得意先ニ知ラシムヘカラス却テ彼ニ謀ラル、ノ端トナルヘシ
 若シ貸附先ニ付テ疑ヲ懷タクコトアラハ貸附ヲナスヘカラス之ヲ斷ル方銀行ノ爲メニ益アルヘシ決シテ果斷ヲ行フナカレ又得意先ノ人ニ信用シ難キコトアレハ速カニ之ヲ斷リテ取引ヲ爲スヘカラス彼ノ術中ニ陷サリタルト見セ掛ケ此方ノ利益ヲ占ムルノ奇道ハ商業上ニ於テアルコトナレトモ大抵ハ損ヲ招クコト多ク利ヲ得ルコト少ナシト知ルヘシ貸借ノ事ニ付他人ノ策ヲ信用スルコト勿レ只々謹直ニ取扱フヘシ或ハ政事上ノ權ニ脅サレ或ハ非常ノ利ニ惑ヒ自己ノ私慾ニテ全社ヲ誤ルコトアリ一休國立銀行ハ日本全州ノ爲メニ創立シタル大切ノ銀行ナレハ自カラ其重任タルコトヲ願ミテ此般ノ誤ヲ醸スコト勿レ

役人ノ事

銀行ノ役人等ヘ渡スヘキ俸給ハ其才能ト職掌ニ從テ相應ニ之ヲ與フヘシ然ラサレハ其役人ヲシテ十分ノ力ヲ盡サシムルコトヲ得サルヘシ若シ其俸給ヨリ以上ノ財ヲ散スル役人アラハ速カニ其職ヲ放免セヨ假令其財ノ來リテ生スル所ロ明瞭ナリトモ尙ホ之ヲ放免スヘシ他日必ス禍ヲ惹クノ基トナルヘシ凡ソ入ル所ヨリ費ス所ノ多キ人ハ多クハ善良ナル銀行ノ役人ト見做スヘカラス

元金ノ事

銀行ノ元金ハ必ス實額タルヘシ虚額タルヘカラス故ニ元金ハ貸ス爲メノ金ナリ借ル爲メノ

金ニ非ラス株主ヲシテ能ク此理ヲ曉ラシムヘシ紙幣頭ハ其威權ヲ以テ手段ヲ盡シ銀行ヲシテ必ス虚名ノ元金ナキ様ニナサシムヘシ是レ銀行ヲ拘束スルニ非ラス銀行ノ堅固ヲ謀リテノ事ナリ

諸務取扱ノ事

國立銀行ノ法ハ政府深ク其發行ノ金札兌換ノ事ニ注意シテ官民ノ便益ヲ謀リテ之ヲ制定スルモノナリ故ニ世人舉テ之ヲ精確良法ト稱スルハ余カ前識スル所ナリ苟クモ銀行ノ人々ハ此盛意ヲ体認シテ其責任ニ負ムカサランコトヲ心掛ケ以テ其事務ヲ處分セハ必ラス其實効ヲ得ヘシ一度其實効ヲ得ル時ハ獨リ其銀行ニ利益アルノミナラス日本全州ノ裨益トナリ其銀行ノ榮名徧ク天下ニ滿ツヘシ又其處分ヲ謬リテ不幸ヲ醸サハ遂ニ衆人ノ怨府トナリ世上ノ誹謗ヲ招クコト必然ナリ此ノ榮辱利害ヲ顧リミテ事務ヲ處分セヨ

銀行ノ役人ハ勤メテ銀行ヲ堅固ニナス事ヲ心掛ケ其元金ヲ保全シ其積金ヲ貯蓄シ將來第一ノ最大ナル銀行タランコトヲ謀ルヘシ

銀行ノ帳面ヲ衆目ニ示シテ贊稱セラレ諸人ノ爲メニ信用セラレ依頼セラル、ノ策ハ他ナシ只其積金ヲ多クスルコアル而已此理ヲ辨セハ銀行ノ利益ヲ分割スルニ臨ミ寧ロ株主等ノ望ミニ十分ナラストモ積金ヲ多クスルヲ注意スヘシ

銀行ノ事務ヲ處分スルニ當リテハ須ラク廉直公平ナルコトヲ主トスヘシ奇道ヲ用ヒテ非常

ノ大利ヲ貪ルコト勿レ只々銀行條例ヲ眼目トシ假令本訥ナル銀行ト云ハル、トモ理財ニ巧ミナル銀行ト云ハル、コト勿レ理財ニ巧ミナル銀行ハ大抵狡猾ニ非サレハ必ス虚唱ナル銀行ナリ決シテ不朽ノ信ヲ得ルコト能ハス

銀行ヨリ發行ノ紙幣ハ永久ニ通用スヘシト思フヘカラス速ニ之ヲ正金ニ引替畢ラント祈望スヘシ抑モ近年更始ノ際萬々止ムヲ得サルノ時期ニ遭ヒ政府ヨリ始メテ金札ヲ發行シ姑ラシ之ヲ正金ニ代用スト雖モ本是政府ノ素意ニ非ズ故ニ今政府公債証書ヲ發行シテ人民ノ所望ニ任セ之ヲ交換シ期ヲ定メテ其公債ヲ消却セントス此際ニ臨マハ銀行ノ紙幣モ亦盡ク引替畢リテ之ヲ廢止セシテ勿論ナリ故ニ政府ノ公債証書ニヨリテ銀行ノ紙幣ヲ發行シ以テ世上ノ商賣ニ通用スル間ハ政府ト銀行ニテ日本全州ノ人民ニ對シテ其實ニ任スルコト心得ヘシ

是ニ由テ之ヲ觀レハ今政府能ク會計ノ條規ヲ踐行シ定期ニ從テ其公債ノ支消ヲ遂ケ銀行モ亦其營業ヲ確實ニシテ發行紙幣ノ正金引替ヲ怠ラス能ク萬人ノ共信ヲ得ハ終ニハ全州ノ理財會計ヲ挽回スルモ亦甚タ至難トスヘカラス然ル時ハ日本人民ニ對シテ之ヲ大切ト云ハサルヘケンヤ豈ニ愉快ナラスヤ豈名譽ナラスヤ

今ヤ世人皆テ流融ノ不便ヲ鳴ラシテ銀行ノ創立ヲ企望ス幸ニ此銀行ノ方法善良ナルヲ知リ其發行紙幣ノ便ナルヨリ夙ク人民ノ望ミニ適セハ之ヲ最良ノ貨幣トシテ遂ニ政府ノ金札

ニ優ルノ稱ヲ得ルニ至ルハ余カ篤ク信スル所ナリ希クハ銀行能ク其業ニ勉力シテ其贊稱ヲ空クスルコト勿レ

紙幣頭ノ願フ所ハ此方法ヲ以テ銀行ノ利益ヲ起シ全州ノ人民ヲ裨益シ富國理財ノ一助タラシコトナリ是即チ政府ノ祈望スル所ナリ而シテ之ヲ實行スルハ銀行ノ役人ノ心掛ニアルノミ頭取支配ノ取締役タラン人ハ篤ト此情實ヲ會得セヨ

明治五年八月五日

紙幣頭 公告

第三千九百九十一 明治六年十二月三日布告

第三百九十八號

國立銀行條例成規中紙幣頭ニ可差出報告ノ條第五節第十一節左之通改定候條此旨布告候事

第五 株主姓名表

是ハ銀行ノ株主等銘々ノ姓名宿所並ニ所持ノ株數ヲ一々記載シ毎年一月十日迄ニ差出スヘシ

第十一 發行紙幣平均高並ニ準備金預リ金平均高申立 但一ケ年半ケ年平均

是ハ毎年七月一日迄ニ差出スヘシ

第三千九百九十二 明治七年九月廿四日布告

第百號

第十三類 銀行

三百二十九

九年百六號布
告ヲ以テ改正
ス現行(七三
百七十一)ニ
アリ

橫濱元爲換會社洋銀券發行差許置候後去ル明治五年八月中國立銀行條例頒布ニ付テハ右銀券通用ハ可差止ノ處今般詮議ノ次第有之更ニ別紙規則ヲ定メ從前ノ通發行差許候條此旨布告候事

別紙

洋銀券發行規則

第一條

橫濱洋銀券發行ハ特別ノ詮議ヲ以テ從前ノ通第二國立銀行ヘ負擔セシメ其事務ヲ取扱フモノモ亦同銀行ノ役員ニテ兼務ス可ヘシ

第二條

其發行高ノ總數ハ百五十萬弗ト定メ其種類ハ五弗拾弗二拾弗五拾弗百弗五百弗千弗ノ七種タルヘシ

第三條

此營業ニ付テハ洋銀賣買ヲ專ラト爲シ又人民ノ望ニヨリテ日本通貨ヲ預リ置キ洋銀ヲ貸渡シ或ハ洋銀ヲ預リ置キ通貨ヲ貸渡スモ勝手タル可シ

第四條

引換用意金ノ高ハ實地散布高ト同數ナル正弗或ハ通貨ヲ備フヘシ但該銀行ノ發行紙幣ヲ以テ此用意金ヘ加フ可カラス

第五條

此用意金ハ物品ヲ抵當ニ取リテ運用シ又ハ利益ヲ取リテ他ニ預クル等ノ事ヲ嚴禁ス而シテ此用意金ハ銀行本業ノ準備金ト混スヘカラス萬一用意金額不足ナルカ又ハ彼是融通運交スル等ノ如キ不正ノ舉動之アルニ於テハ第十二條十三條ニ照準シテ嚴重ノ處置ニ及フ可シ但此銀券融通ノタメ銀行ノ便ニ因リ大藏省ノ許可ヲ得テ慥カナル「バンク」等ヘ預備ノ舉ヲ爲スハ此格ニアラス

第六條

每半ケ年出納決算ヲ遂ケ其所屬諸費ヲ引去リ純益アラハ株高ニ應シ配當ス可シ

第七條

此營業ヲ允許スルニ付キ追テ其益金ノ内ヨリ相當ノ税金ヲ政府ヘ納ムヘシ右納方ハ向後政府ニ於テ制定スル所ノ銀行税金ニ準シ大藏省ノ指令ニヨリテ上納ス可シ

第八條

洋銀券發行ニ付每半ケ年其事務ノ景況及ヒ利益發行銀高引換高并ニ其平均高用意金有高等ノ詳明ナル報告書計表等ヲ紙幣頭ニ差出ス可シ其書式ハ紙幣頭ノ差圖ニ從ヒ此銀行頭取取締役之レニ記名調印ス可シ

但日々ノ發行高引換高用意金高洋銀相場ノ報告ハ其營業休暇日ノ外ハ毎日紙幣頭ヘ差出

ス可シ

第九條

右洋銀券發行ヲ允許スルニ付キ此銀行ニ於テハ徵信ノ爲メ其抵當トシテ實地散布高三分一丈ケノ眞價アル公債証書又ハ不動産ヲ大藏省出納寮ニ預ケ置ク可シ尤モ此抵當物ハ決シテ銀行本業ノ資本ニ關セス完ク株主家産ノ内ヲ以テ別段差出スヘシ
但三分一ノ算計ハ半ケ年間實地散布ノ平均高ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第十條

紙幣頭ハ大藏卿ノ許可ニ從ヒ營業ノ實際ヲ詳知スルタメ時々官員ヲ派出シ營業中ノ時間ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ所屬簿冊計表及ヒ發行總高殘數引換高用意金有高等ヲ緻密ニ點檢シ又銀行役員不正ノ所爲ナキヤ否ヤヲ督察シ其實況ト考按ノ趣旨トナ書認メ紙幣頭ニ報告セシム可シ

第十一條

此銀券ヲ營業時間中ニ持參シテ引換ヲ望ムキ之ヲ拒ミ或ハ之ヲ怠テ次ノ日ニ讓ル等ノヲ禁止ス

第十二條

萬一前款ノ趣旨ニ悖リ正弗或ハ通貨ヲ以テ引換ヲ爲サハルキハ持參人ハ其旨ヲ地方官廳ニ申出可シ而シテ地方官ハ一應之ヲ該銀行ヘ質シ全ク一時ノ怠惰ニテ相拒ミ別段事故モ之レ無クハ直ニ譴責シテ引換ヲ爲サシム可シ若シ用意金ノ不足ヨリ起リシヲ判然タラハ至急其旨ヲ紙幣頭ニ申通ス可シ

第十三條

紙幣頭ハ此報告ヲ地方官廳ヨリ得レハ速ニ官員ヲ派出シテ其事實ヲ推問シ何等ノ事故ニテ用意金不足ヲ生シタル儀判然タラハ暫ラク此出納ヲ差止メ其顛末ヲ紙幣頭ヘ稟告ス可シ

第十四條

紙幣頭ハ尙大藏卿ニ稟議シ右用意金ノ欠額ヲ補フタメ兼テ預リ置キタル公債証書不動産ヲ沒入スル旨ヲ申渡シ右証書ヲ出納頭ヨリ受取リ大藏卿ノ許可ニ從ヒ便宜賣却シテ用意金ノ全額ニ滿タシメ過剩アラハ下ケ戻ス可シ若シ不足アレハ株主一同銘銘ノ身代ニ掛ケテ之レヲ償ハシメ然ル後跡引受人ヲ命ス可シ

第十五條

株主三分二以上ノ集議ニ因リ此銀行本業ヲ廢セントスルキハ先ツ洋銀券未發行ノ現額即チ銀行ニ存在シテ未タ世間ニ散布セサルモノ及ヒ散布高ノ用意金田聊カ欠額之レナキ旨ヲ紙幣頭ニ申立ツ可シ紙幣頭ハ直ニ官員ヲ派出シテ銀券用意金ニ有高檢査ノ上當分日々出納ヲ監督セシメ至急大藏卿ニ稟議シ跡引受人ヲ命ス可シ

第十六條

右ノ通政府ニ於テ嚴重ニ保護シ又銀行ニ於テモ此規則ヲ遵奉シ確實ニ營業セシ上ハ異變アルマシキ等ナレモ萬一該銀行非常ノ災害ヲ蒙リ大損失ヲ釀成シ銀行條例第十八條ノ手續ニ從ヒ本業ヲ處分スルニ際シ此銀券ノ用意金多分ノ欠額アリテ而カモ株主一統之ヲ補フヲ能ハサルモハ頭取々締役一同身代限り取リ立其餘株主ヘハ株金ノ割合ヲ以テ之ヲ賦當シ等ヘ取々締役一同ノ株金都合二十万圓ニテ此身代限り取立高五万圓ナシ若シ右割合高ノ出金ヲ爲ルルハ其割合ヲ以テ外カ株主ヘ株金高ニ應シテ配賦スルヲ云フ

シ得サル者ハ身代限り以テ之ヲ償ハセ其集金高ヘ兼テ出納寮ニ預リ置キタル公債証書不動産ヲ賣却シ其代價ヲ之レニ加ヘ此總合高ト銀券散布高トヲ較算シ銀券ノ割引高ヲ定メ其趣旨及ヒ割合高引換方期限等明晰ニ記載シ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ニテ世上ニ公告ス可シ

第十七條

政府ノ都合ニヨリテ要用ノトアレハ此規則ヲ增補シ又ハ之ヲ改革シ又ハ之ヲ廢止スルヲアルヘシ

第三千九百九十二

明治十年十一月五日布達

甲第三十號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金拾萬圓ヲ以テ長野縣管下北第十一區四小區信濃國小縣

郡上田町百番地ニ設立シタル第十九國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ本月八日ヨリ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

會社

第三千九百九十四 明治元年十一月廿日布告

八年十四號布告三條ヲ消ル港灣部(第二千五百四)參照スヘシ

此度箱館產物問屋仲買等之名目相改メ箱館產物賣捌人ト唱ヘ荷物之儀ハ大坂兵庫堺敦賀等ニ於テ會所取建總テ引請取扱候間右賣捌人之外農商共望ノ者ヘハ廣ク賣捌候ニ付其最寄會所ヘ可申出候事

但會所ノ取扱ヲ不經シテ船方ヨリ直ニ賣買候儀一切不相成候若違背之輩於有之ハ屹度御咎被仰付候條心得違無之樣可致候事

第三千九百九十五 明治三年閏十月十七日達

水 戸 藩

北海道產物爲取締常州那珂港へ先般開拓使官員出張候處自今被止候條此旨相達候事

但今後取締方之儀ハ開拓使ヨリ可相達事

德 島 藩

北海道產物爲取締阿州撫養港へ先般開拓使官員出張候處自今被止候條此旨相達候事

但今後取締方之儀ハ開拓使ヨリ可相達事

山 口 藩

豐 浦 藩

北海道產物爲取締長州下ノ關へ先般開拓使官員出張候處自今被止候條此旨相達候事

但今後取締方之儀ハ開拓使ヨリ可相達事

第三千九百九十六 明治六年十月廿九日司法省ヨリ省使へ回達

第七百七十七號

府下番人取立ニ付テハ諸商會社等ニ於テ臨時非番番人雇方手續之儀東京府協議之上別冊之通相定施行可致存候間爲御心得及御回達候條一部宛御引去御順達有之度候也 諸商會社番人使役手續別紙略之

七年一月番人ノ制廢止ニ依リ消ル

酒造絞油味噌醬油

第三千九百九十七 明治元年五月廿九日布告

四年七月布告
ヲ以テ改正ス
リ(第三千九百
九十九)ニア
リ

- 一 酒造之儀ハ古來ヨリ定法モ有之處今度御一新ニ付鑑札御改被仰出候間早々差出可申事
- 一 規定之外増造之儀ハ堅被禁候條於其筋々可遂吟味事
- 但増造之儀其筋ヲ以願出候得ハ御糺之上其筋ニヨリ可及沙汰事
- 一 凶年ニハ分割ヲ以減造可致事
- 一 造酒百石ニ付金貳拾兩宛上納被仰付候事
- 一 前年心得違ニ而規定之外増造致シ鑑札取揚ニ相成候者其悔悟之上願出候ハ、百石ニ付金五拾兩宛上納被差免候事

何町 何某	何町 何某
酒造米 ○ 何百石	裏
但元米掛米概共 慶應四年辰	商法會所 燒印 商法 司印

○堅曲尺五寸○横三寸五分○厚サ仕上ケ五分

右雛形ニ準シ夫々其支配所ニ而割印燒印共取極鑑札相渡百石ニ付金貳拾兩宛取立候上ハ上納可有之事

但其支配所ニ而酒造米高並名前書共委細張面ニ認メ鑑札料相添上納ノ事

右之通被仰出候間心得違無之様嚴重ニ可相守事

第三千九百九十八 明治四年二月三日達

龜田藩管内羽後國岩城澤村長岡田貢儀馬鈴薯ヲ以テ酒味噌醬油等製造ノ儀同藩管内限リ御差許シ相成候處右官許ヲ名トシ追々社ヲ結ヒ社中ノ者各所へ出シ會社出張所等取建市村ノ者共ハ猥リニ株鑑札相渡シ或ハ無故帶刀差許シ官吏ニ紛取所業相働候趣ニ相聞ヘ以ノ外之事ニ候右ハ官許ノ御趣意ニ悖リ不埒ノ儀ニ付各所へ出張會所等取設ノ儀嚴ニ被禁貢并同社ノ者取締ノ儀同藩へ相達置候間府藩縣各管内ニ於テモ前件ノ所業致候者有之候ハ、本籍姓名等篤ト取糺夫々舊籍へ差戻シ會所等有之候ハ、廢止可致候尤製造方法ハ被差停候譯ニハ無之候間管内限リ屹度取締相立開墾育民ノ爲メ施行致候儀ハ不苦候事

第三千九百九十九 明治四年七月布告

清濁酒醬油釀造株鑑札渡方并ニ稅則ノ儀是迄一定ノ成規無之間々無鑑札ニテ自釀爲致候向々モ有之哉ノ趣元來收稅ハ其事ヲ修治スルノ要費ニ供スルノ儀ニ候處右様稅則及取締方法紛雜致シ候テハ其弊害不少ニ付今般改テ國內齊一ノ規則別紙ノ通確定相成候條目今以後無鑑札ニテ釀造不相成ハ勿論總テ成規ニ遵ヒ犯違無之様各管轄廳ニ於テ取締可致候事

別紙

第十二類 酒造絞油味噌醬油

三百四十九

八年廿六號布
告ニ依テ消ル
現行(七)三百
七十九)參照
スヘシ

八年廿六號布
告ヲ以テ廢ス
現行(七)三百
七十九)參照
スヘシ

今般清濁酒其外銘酒類并ニ醬油釀造御定稅則御改正被仰出從前ノ株鑑札都テ廢止致シ更ニ
免許鑑札大藏省租稅司ヨリ引替可相渡間是迄渡シ置候鑑札ハ不殘府縣管轄廳ニ於テ取纏當
未年十月限リ同省へ可差出事

但鑑札一枚毎ニ造人國郡村名前書小切ニ認メ且其管轄廳印ヲ押シ鑑札相添可差出事

一是迄分ケ株ト唱へ一株ヲ二所或ハ三所へ分ケ候者有之趣右ハ自今禁止候事

一右分ケ株ヲ以テ釀酒致シ居候モノ今般改テ相願候ハ、新規鑑札下ケ渡候間願人姓名書相

添前同様可差出候事

一向後新規稼致シ度望ミノ者ハ其管轄廳へ願出次第姓名其外前同様取調可差出事

一右免許鑑札所持ノ者以來石數ノ定限無之釀造ノ手續ハ其年造込凡積石數銘々ノ力ニ應シ

造主ヨリ八月晦日限リ爲申立各管轄廳ニ於テ其年柄勘辨ノ上釀造石數差定造高免許鑑札

相渡シ置總体取纏石數名前等巨細認分ケ十月中大藏省租稅司へ可相屆事

但當未年ハ免許鑑札引換以前ノ儀ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ造込石數可爲申立事

一造高免許ノ鑑札年々稼人へ下ケ渡方ハ各管轄廳ニ於テ造込石數聞屆候節別雛形ノ通認メ

相渡可申事

一免許料造高免許稅其外都テ各管轄廳ニ於テ綿密ニ簿冊ニ記入シ稼人幾個免許料何程造込

石數何程造高稅何程ト各造人名面明細ニ認譯候調書右收稅金ニ相添年々十二月限リ府縣

直ニ大藏省へ相納可申事

一管内若シ濫造ノ者有之候ハ、別紙規則ニ從ヒ科料可申付尤モ右手續ハ調書ヲ以テ其節可

相屆事

右ノ趣管内無遺漏可相觸事

辛未七月

民 部 省
大 藏 省

清酒濁酒醬油鑑札收與并ニ收稅方法規則

第一則

一新規免許鑑札願受候モノハ爲免許料清酒ハ金拾兩濁酒ハ金五兩醬油ハ金一兩一分宛可相
納尤モ味淋白酒其外銘酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

但右鑑札引替ノ分ハ免許料ニ不及候事

一免許鑑札ハ來申年ヨリ毎年八月其管轄廳ニ於テ相改メ可申方一燒失流失或ハ盜難等コテ

失ヒ候者有之候節ハ事實取糺シ手續書ヲ以テ其段租稅司へ申立更ニ鑑札相下ケ可申事

但燒失等ニテ更ニ鑑札相下ケ候ハ新規願受ケ候節ノ免許料ノ半高上納可致候事

一造高ノ多少ニ不拘清酒ハ稼人一個ニ付金五兩濁酒ハ金一兩二分醬油ハ金二分ツ、當未年

ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札改ノ節免許稅トシテ可相納候事

但味淋白酒其外銘酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

一造方休業致シ候者モ當末年ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札ノ改メテ受可申其節御定期ノ免許稅可相納事

一休業致シ候者免許鑑札返納相願候ヘハ免許稅ニ不及候事

第二則

一免許鑑札賣買致シ度者ハ双方村町役人トモ連印ヲ以テ其管轄廳ヘ願出不相當無之候ハ、其廳ニ於テ別紙雛形ノ通繼紙証文致シ免許可致事

但買請人國郡村名前書相添管轄廳ヨリ租稅司ヘ可相届事

一右鑑札賣買ノ節證印稅トシテ賣代金百分ノ二但十兩ニ付 永二百文相納可申事

第三則

一毎年八月免許鑑札改ノ節其年ノ造高申立造高免許ノ鑑札可相願事

但當末年ハ免許鑑札引替以前ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ可申立來申年以來ハ今年渡置候造高免許鑑札ヘ其年ノ造高ヲ別紙雛形通小切ニ認糊付致シ可差出事

附昨年ノ造高免許鑑札燒失等ノ節ハ別段書面ヲ以テ可願出事

一右ノ如ク當年造込願高認添候昨年ノ造高免許鑑札ハ八月限り差出候ヘハ各管轄廳ニ於テ其年柄ヲ察シ國內ノ總造高ニ見比ヘ詮議ノ上相定メ九月限り別紙雛形ノ通造高免許鑑札

可相渡事

但本文鑑札ハ其管轄廳ニ於テ製造致シ候儀ト可心得候事

第四則

一清酒ハ造高改トシテ時宜見計管轄廳ヨリ巡見造高相改可申事

但醬油ノ儀ハ五十石以上造ヨリハ出役ノ上可相改事

一濁酒ハ時々釀造可致ニ付支配役人ノ見分ニ不及尤造込ノ都度釀造人ノ村町役人トモニ於テ見分致シ綿密ニ相改造高免許鑑札ノ數ニ不滿様可取締事

第五則

一清酒並ニ銘酒類味淋白酒等生酒代金ノ五分但百兩ニ付 五兩其所前年ノ酒價平均ヲ以テ爲釀造稅

毎年八月造高免許鑑札相願候節金高爲書出十月中可相納事

一濁酒ハ右同斷ノ三分但金百兩ニ付 三兩前同様ノ振合ヲ以テ可相納事

一醬油ハ前同斷ノ五厘但金百兩ニ付 二分右同様ノ振合ヲ以テ可相納事

第六則

一免許鑑札無之自己ノ利益ヲ計リ商賣ノ爲ノ密釀致シ候者於相顯ハ都テ其品取上ケ清酒銘酒ハ造高百石ニ付金七十五兩一石ニ付 金三分濁酒并ニ醬油ハ造高百石ニ付金二十五兩一石ニ付 金三分ノ割ヲ以テ科料可申付事

一其年ノ造高免許鑑札不願請自儘ニ醸造致シ候モノ於相顯ハ其醸造品ハ勿論兼テ相渡シ置候免許鑑札ヲモ取上ケ且爲科料清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金二十五兩一石ニ付金一分濁酒并ニ醬油ハ造高百石ニ付金十兩一石ニ付金二分ノ割ヲ以テ取立可申事

一過造致シ候者ハ其過造ノ分ヲ取上ケ清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金五十兩一石ニ付金二分濁酒并ニ醬油ハ造高百石ニ付金二十五兩一石ニ付金一分ノ割ヲ以テ科料可申付事

但取上候諸品并ニ醸造ノ分共入札拂可申付事

第七則

一右様取締相立候ニ付テハ向後規則ニ背キ候取計有之候者ハ都テ定則ノ科料金可申付若シ又村町役人等ニテ醸造人ノ頼ニ寄リ不正筋取計候カ又ハ不正筋ト乍存見遁シ候事共有之於相顯ハ相當ノ咎可申付事

一稼人共不正筋有之候ヲ見付訴出候者ハ其品ニ從ヒ相當之賞譽可有之事

一科料金并ニ取上ケ品拂代總高百兩迄ハ五分通百一兩以上ハ三分通但百一兩ナレハ百兩迄ヲ合セ五兩永取扱候者又ハ訴出候者へ褒美并ニ爲手當被下候ニ付管轄廳ニ於テ相當ニ配給可致候事

右ノ通規則相定候間各管轄廳ニ於テ成規ニ照準シ取締可致且收稅及ヒ科料金等ノ儀年々精細ニ翻譯簿冊ニ記載シ其年十二月中府縣共大藏省へ可相納候事

但本文規則相立候ニ付テノ諸入費ハ府縣共一ケ年試ノ上可申立事
辛未七月

民 部 省
大 藏 省

用紙程村六ツ

切ノ事

表面

清酒造鑑札

何縣府支配何國何郡何町

何 某

第何號

割印

裏面

割印

年號

干支月

免許

大藏省
租稅司

印

濁酒醬油其外
用之ニ倣フ

釀造免許鑑札
賣買ノ節管轄
廳証印ノ雛形

年號
干支月
免許

續目印

大藏省
租稅司

印

此釀造免許鑑札何國何郡何村誰御定ノ通
チ以テ買受候條相違無之モノ也

年號

干支月

何府廳

印

造高免許鑑札
雛形

表面

第何號

割印

干清酒何千何百何十何石造

何府支配何國何郡何村

何某

裏面

割印

年號
干支月

免許

何府廳

印

其年造高免許
鑑札願振雛形

割印

年號

干支月

免許

續目印

何府廳

印

當干支年

造高何千何百何十何石

何府支配何國何郡何村

右御免許鑑札奉願候

何某

印

第四千 明治四年十月九日布告

八年二十四號
布告ヲ以テ廢
ス(第四千八
)參照スヘシ

絞油營業ノ儀ハ鑑札并ニ稅則等は迄一定之成規無之冥加永ト唱ヘ相納候分ハ輕重有之或ハ生菜種等ニテ相納候向モ有之一定不致候ニ付自今改メテ國內齊一ノ規則別紙ノ通り確定相成候條來申年ヨリ無鑑札ニテ製造不相成ハ勿論總テ成規ニ從ヒ違犯無之様各管轄廳於テ取締可致事

規則

今般絞油稅則改テ被仰出別紙雛形ノ通都テ免許鑑札大藏省ヨリ可相渡候間從前ノ鑑札ハ其管轄廳ヘ取纏メ稼人國郡村町名前等巨細取調書ヲ以テ可申立且從前鑑札ノ分ハ其廳ニ於テ燒捨可申事

一府縣管下ニテ從來冥加永相納メ無鑑札ニテ絞リ來候者ハ從前ノ營業高器械ノ大小取調新規鑑札相渡稼人稼高并ニ國郡村町名前取調可差出事

一新規免許相願候者有之候ハ、其管轄廳ニ於テ聞届鑑札相渡シ當人國郡村町名前等巨細取調一ケ年一纏致シ納稅ノ節一同大藏省ヘ可差出事

一新規免許鑑札相渡シ候就テハ免許料トシテ鑑札一枚ニ付金一兩二分ツ、一時上納可申付事
但是迄鑑札相渡置候者古鑑札引換并ニ從來冥加永相納來候者ハ都テ免許料相納ムルニ

不及候間其次第丁寧ニ調分ケ可申出事

一絞油免許鑑札ハ毎年四月中其管轄廳ニ於テ相改メ可申萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候儀有之其段申出候ハ、事實巨細取調鑑札可相渡候尤モ新規願受候節ノ免許料半數上納可申付事

一器械他人ヘ讓渡ノ儀願出候ハ、其管轄廳ニ於テ聞届鑑札引換相渡シ可申當人國郡村町名前明細ニ取調一ケ年一纏ニ致シ舊鑑札相添稅金ノ節可差出事

一絞油稅ノ儀ハ年々四月中鑑札改ノ節一斗絞器械ニ付一ケ年稅金兩ツ、ノ割合ヲ以テ器械ノ大小ニ應シ取立可申事

但管內器械絞高等檢査ノ爲メ臨時見廻可致事

一免許鑑札願受候者向後廢業致シ度候ハ、其管轄廳ニ於テ聞届鑑札取上ケ一ケ年取纏可申立事

但シ一ケ年休業ノ向ハ鑑札不及取上尤モ休業三ケ年ニ至リ候ハ、鑑札可取上事

附休業ノ節ハ稅金取立ニ不及候事

一右ニ掲ル鑑札ハ凡積リヲ以テ其管轄廳ヘ可相渡置候間收與ノ儀詳明ニ取調稅金納ノ節可申立事

一各管內無鑑札ニテ絞油致シ候者并ニ免許高ヨリ余分ノ絞方致シ候者有之候ハ、其器械取

上ケ免許料十倍ノ科料金可申付事

一右免許鑑札ハ自己ノ相對ヲ以テ他人へ借貸ハ決シテ不相成候事

但萬一私ニ借貸致シ候者有之相顯ハル、ニ於テハ免許料五倍ツ、ノ過料金雙方ヨリ取

立職業差留可申事

一右税金相納候ニ付テハ是迄相納來リ候冥加永并ニ生業茶種其外其地方仕來ノ收税等ハ向後不及上納事

右之通規則相定候間各地方官ニ於テ成規ニ照準シ取締可致且免許料并油絞收税其外科料金等ハ精細分簿冊ニ記載シ年々八月中大藏省へ可相納事

辛未九月

大藏省

程村紙六ツ

切ノ事

第何號

割印

表面

絞油器械何斗絞鑑札

何府管下何國何郡何村

何某

裏面

割印

免許

大藏省
租税寮

印

第四千一 明治四年十月十四日達

別紙ノ通大藏省ヨリ申出候間及御達候也

別紙

酒造其外取締稅則

第五則中増補

一生酒代金五分ノ稅其所前年ノ酒價平均ト有之候者前年釀造イタシ候生酒ノ稅ヲ當年取立候儀ニ有之即チ當未年免許ヲ請釀造イタシ候五分ノ稅ハ來申年八月前同様ノ手續ニテ取立候事

第十三類 酒造絞油味噌醬油

三百六十一

八年廿六號布
告ヲ以テ感ス
現行(七十三百
七十九)參照
スヘシ

但酒價平均ノ儀ハ前九月ヨリ翌年二月迄ノ平均ト可心得且其最寄相場相立候市町ニ於テ二ヶ所或ハ三ヶ所ノ相場平均可致儀ニ付兼テ其市町相定置可申事

一生酒トハ即チ釀成ノ上全ク賣出シ候升高ヲ以石數何程ト取調候儀ニ有之候事

譬ヘハ米高百石造込候ヘハ生酒何ニ當ル哉ハ其管轄廳ヨリ造高改トシテ時宜見計巡見ノ節巨細相分可申事

右之手續ニ付當未年ハ規則ノ通免許稅ノミ取立候儀ト可相心得事

但清酒其外味淋白濁酒并ニ醬油等總テ右ニ準候事

一造高免許鑑札表面并其年造高免許願ノ認方左ノ通改定致候也

造高免許
鑑札表面

第何號
清酒
支元石何千何百何十何石造

何府 支配何國何郡何村
何 某

造高免許
鑑札願振
雛形

當千支年
元石何千何百何十何石

何府 支配何國何郡何村
右御免許鑑札奉願候
何 某 (印)

右之通増補候事

但味淋白濁酒其外總テ之ニ準ス

干支月日

大藏省

第四千二 明治四年十一月廿二日布告

是迄諸國并近在ヨリ東京ヘ積廻リ候酒樽十駄ニ付二兩宛ノ冥加金府下酒問屋ノ取次ヲ以テ相納來候處今般酒造其外稅則御布告相成候上ハ以來右冥加金上納ニ不及候事

第四千二 明治六年五月八日大藏省達

第七十七號

本年當省第四拾貳號ヲ以相達候清濁酒味淋白酒銘酒燒酎醬油絞油鑑札之儀今般改正引換相渡候鑑札雛形別紙之通候條爲心得相達候事

第十三類 酒造絞油味噌醬油

三百六十三

八年大藏省
以テ改テ現行
八百八十
八ニアリ

表 面

租 稅 寮

押 切 印

番 号

清 酒 釀 造 鑑 札

何 縣 府 管 下

國 郡 村 町 名

誰

裏 面



何 縣 府 廳 印

裏面



何
縣府
廳
印

表面

租 稅 寮

印 切 押

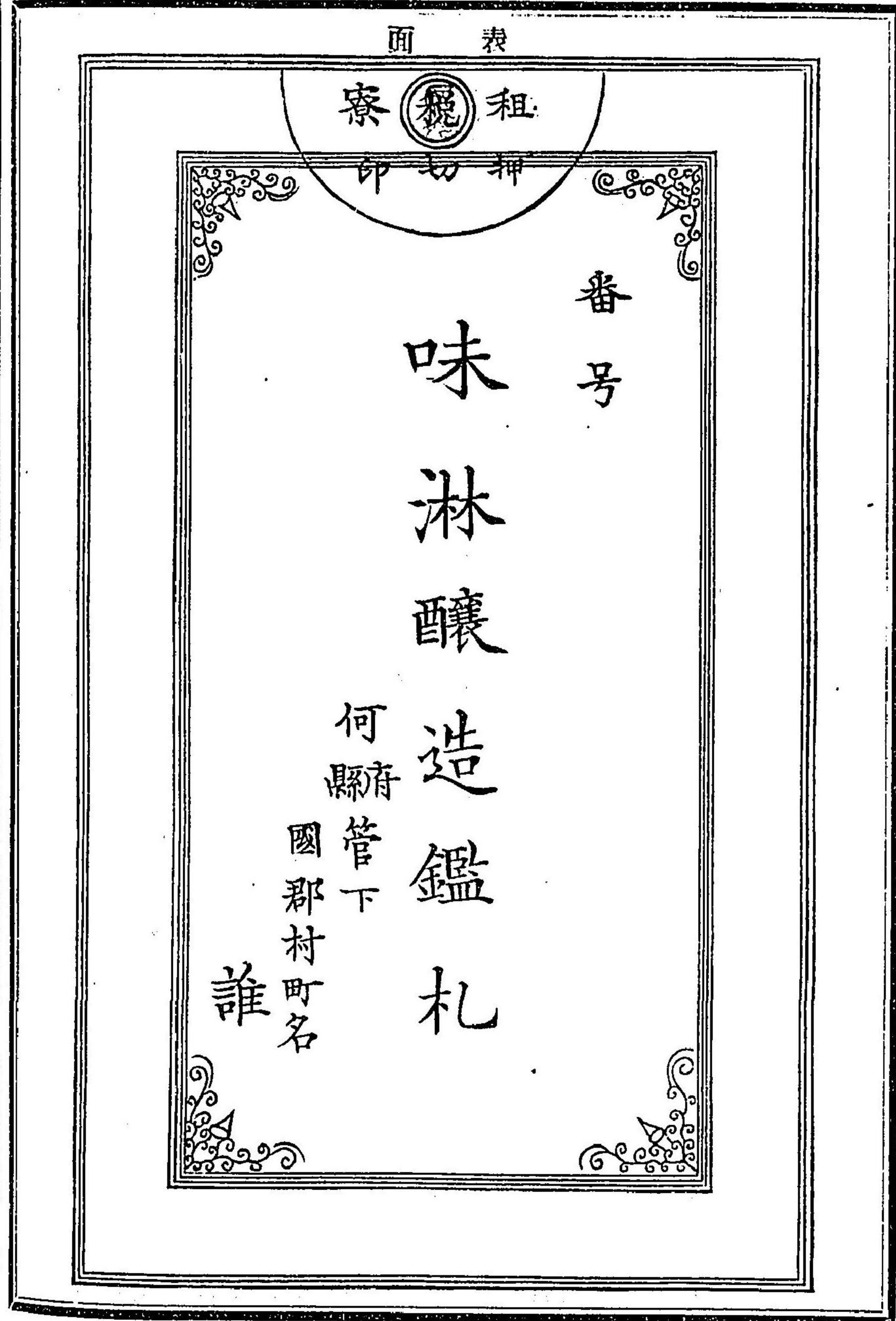
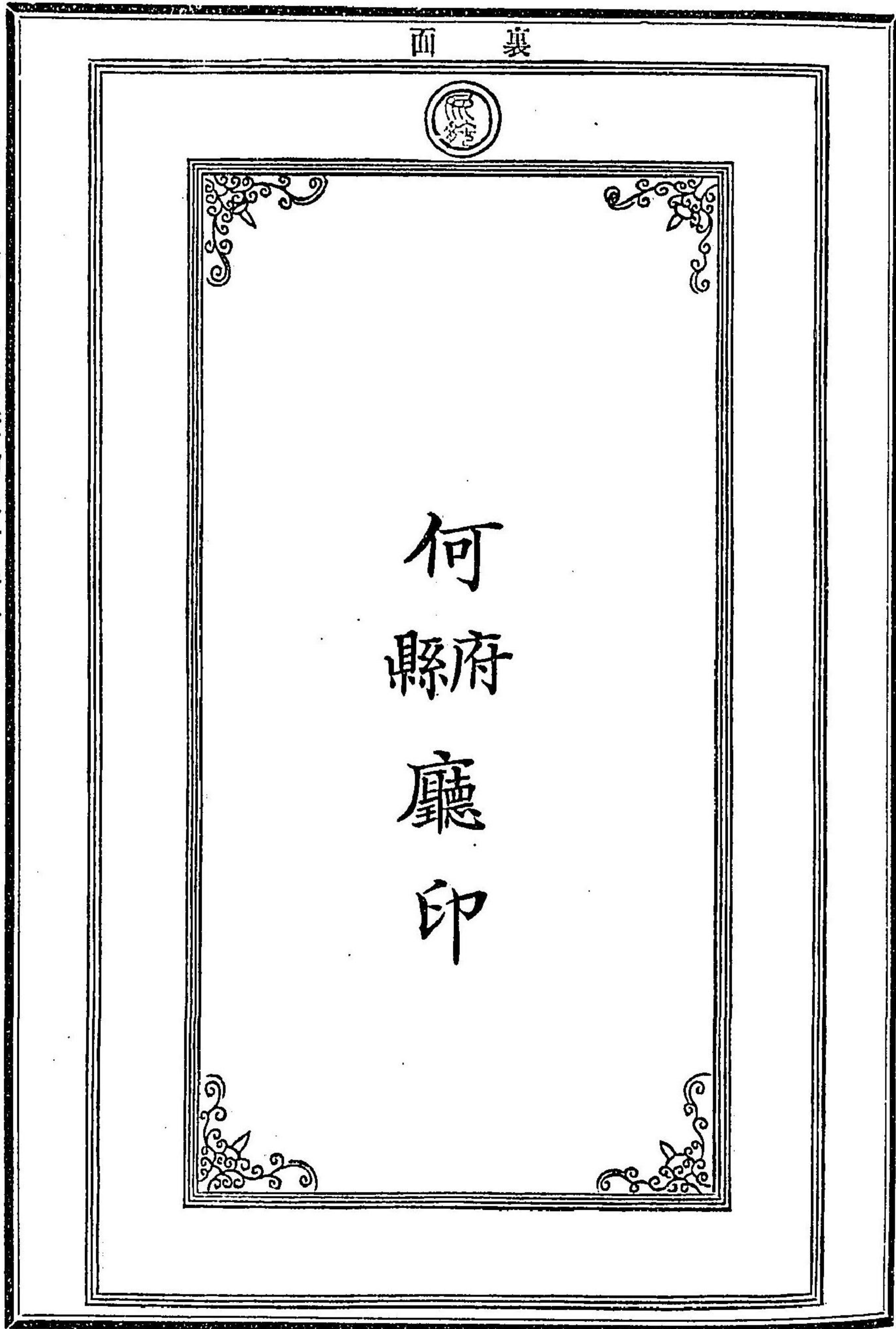
番
号

濁
酒
釀
造
鑑
札

何
縣府
管下

國
郡
村
町
名

誰



裏面



何縣府廳印

表面

租稅察



押切印

番号

銘酒釀造鑑札

何縣府管下

國郡村町名

誰

裏面



何府廳印

表面

租稅

押切印

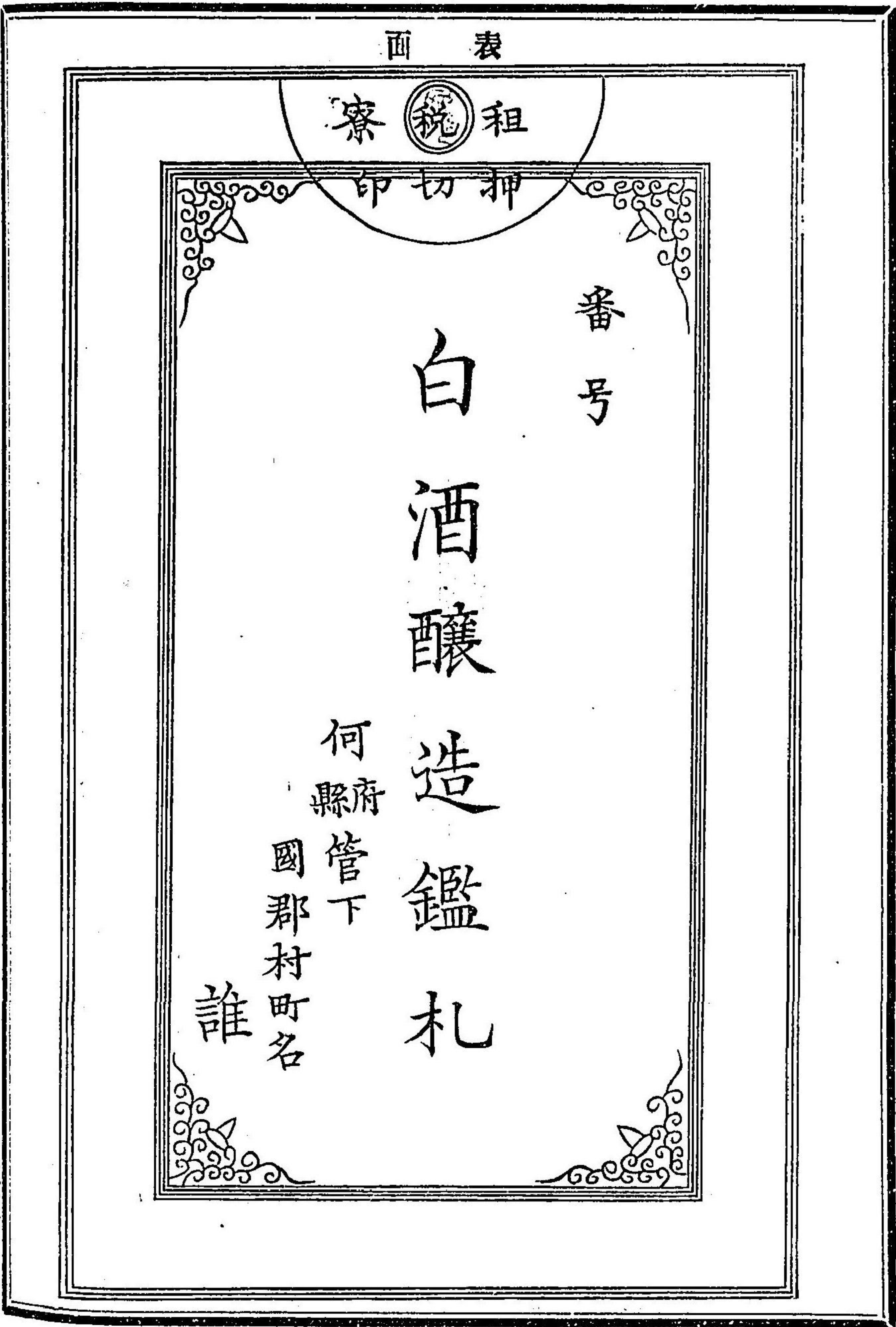
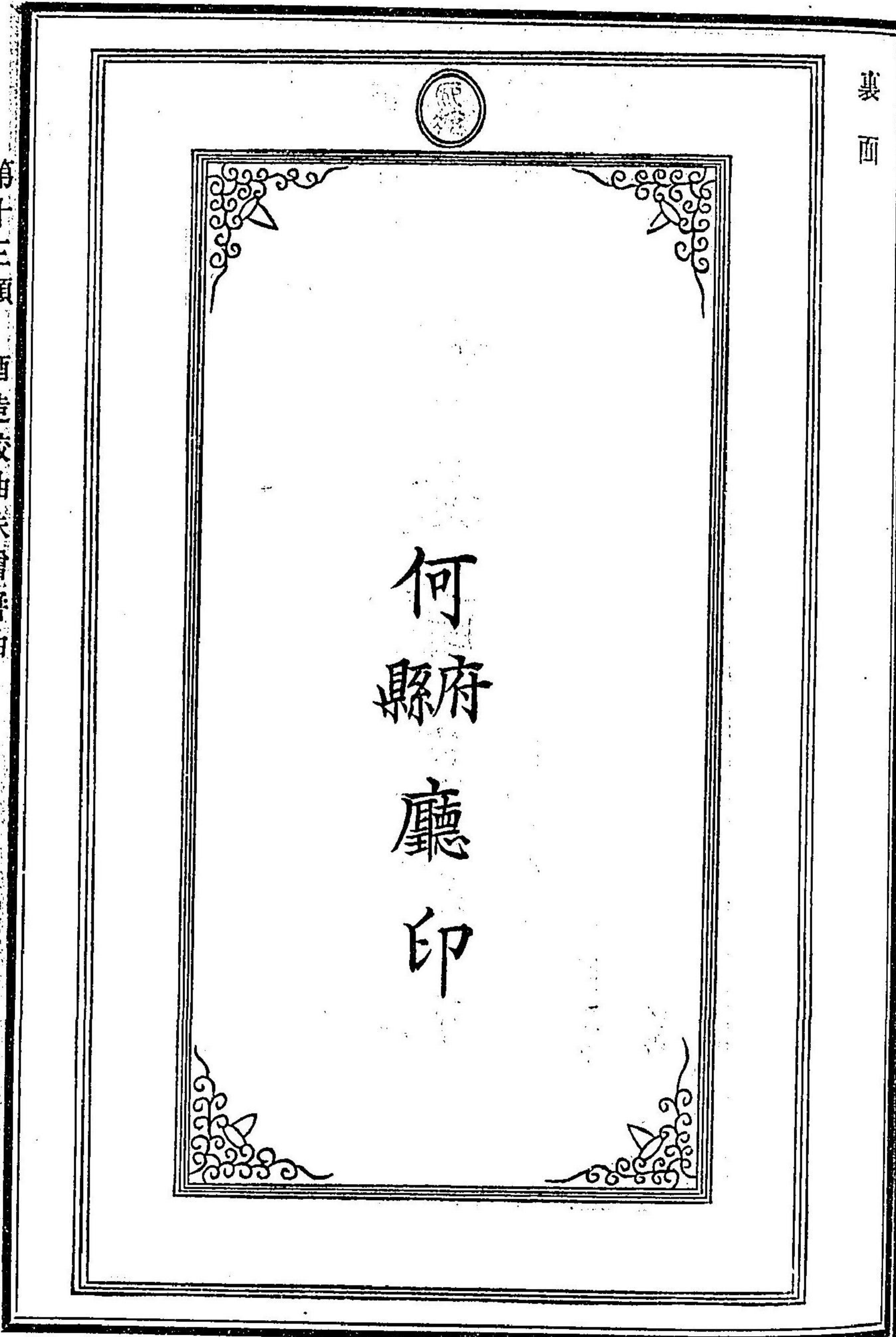
番号

燒酎釀造鑑札

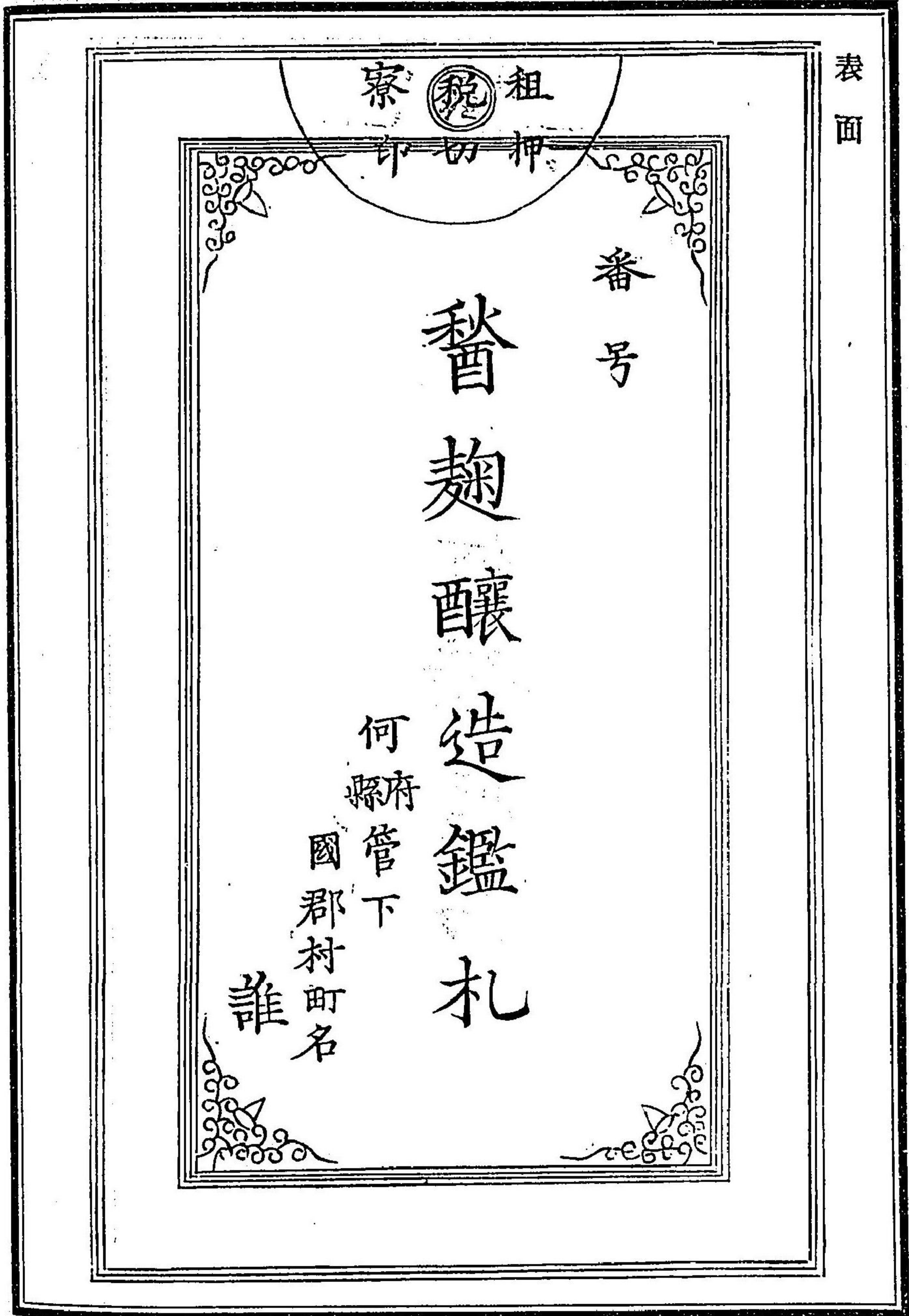
何府管下

國郡村町名

誰

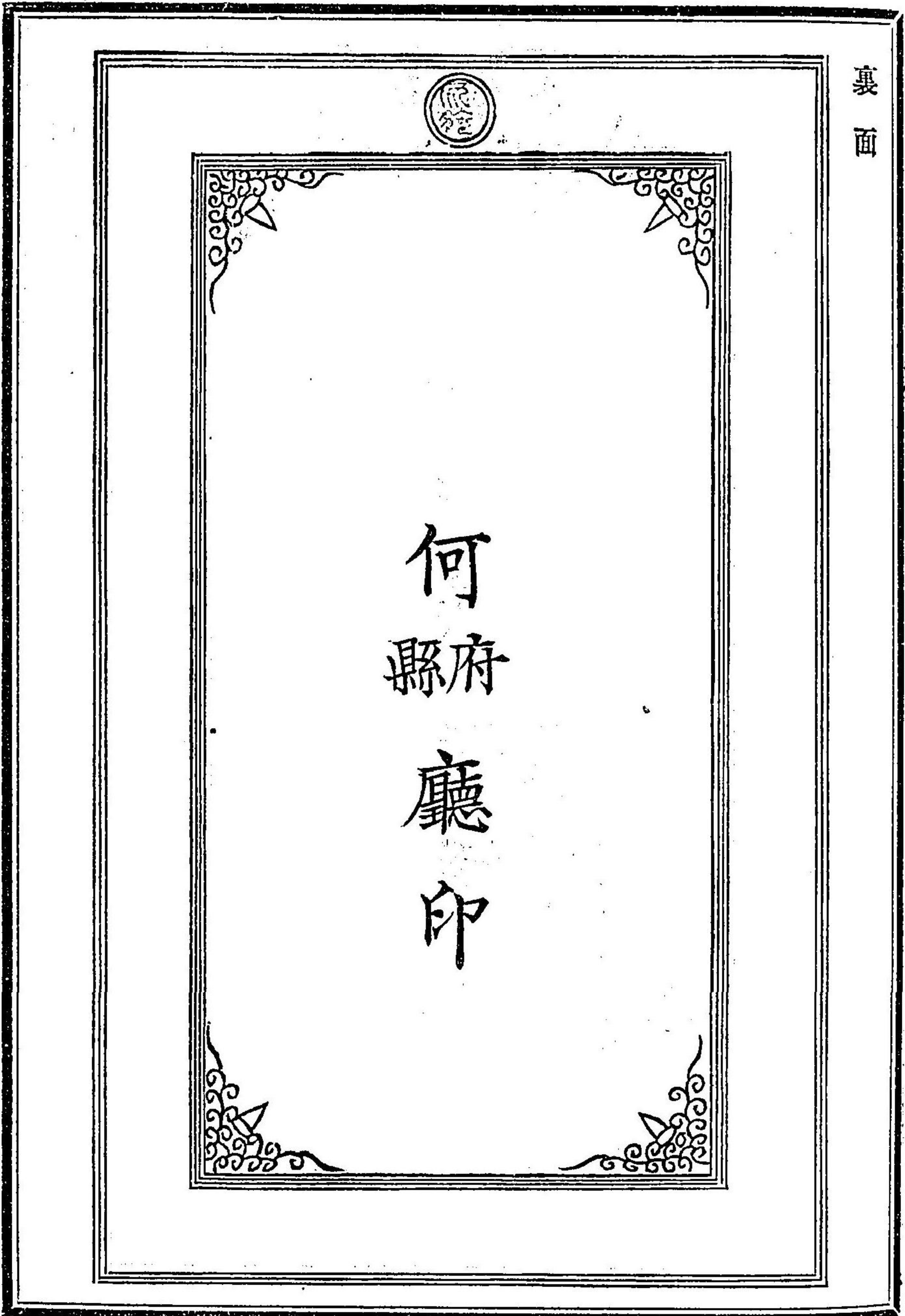


表面



三百七十六

裏面



第十三類 酒造絞油味噌醬油

三百七十七

表面

租 稅 案

押 切 印

番 号

醬 油 釀 造 鑑 札

何 縣 府 管 下

國 郡 村 町 名

誰

三百七十八

裏面

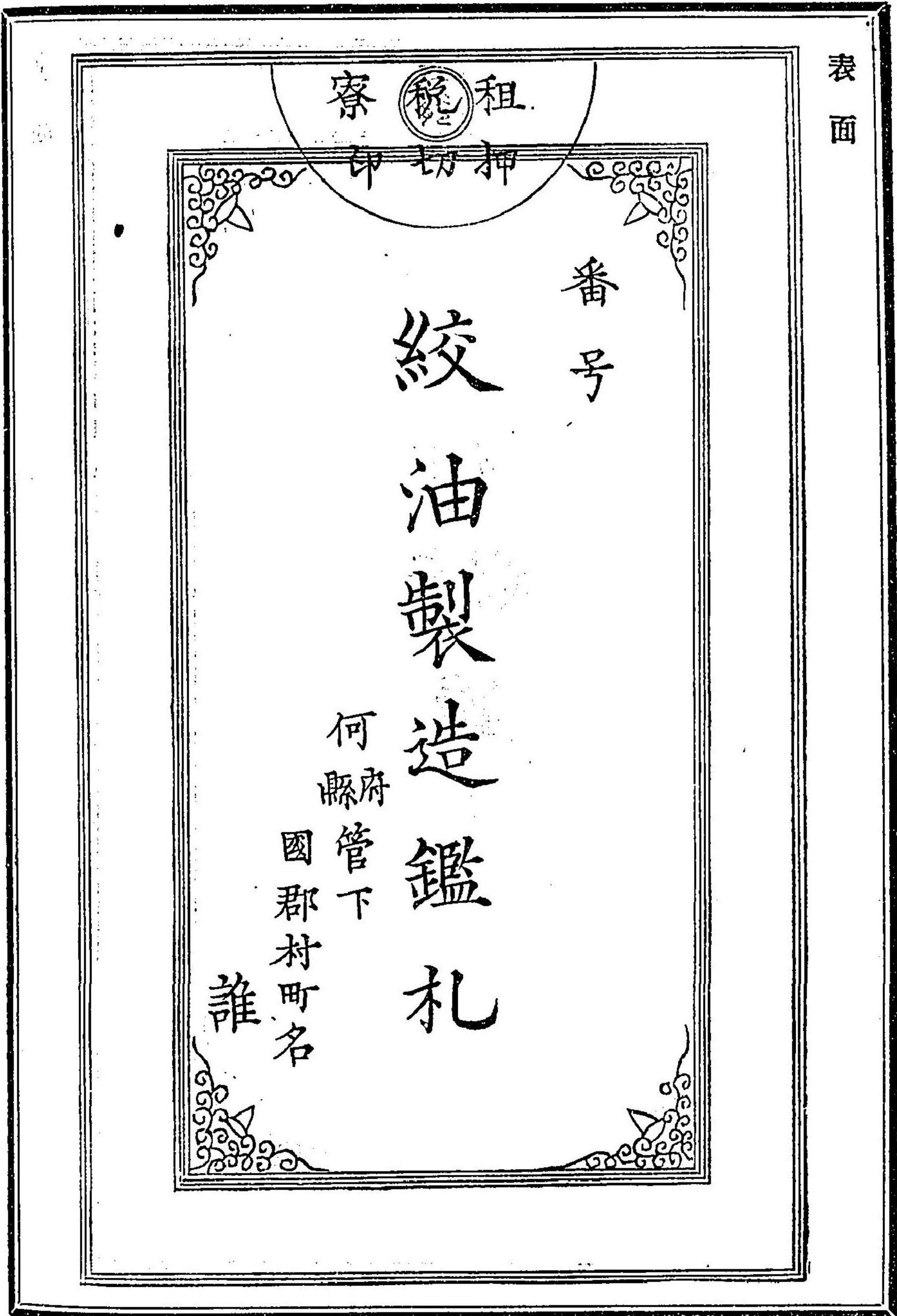


何 縣 府 廳 印

第十三類 酒造絞油味噌醬油

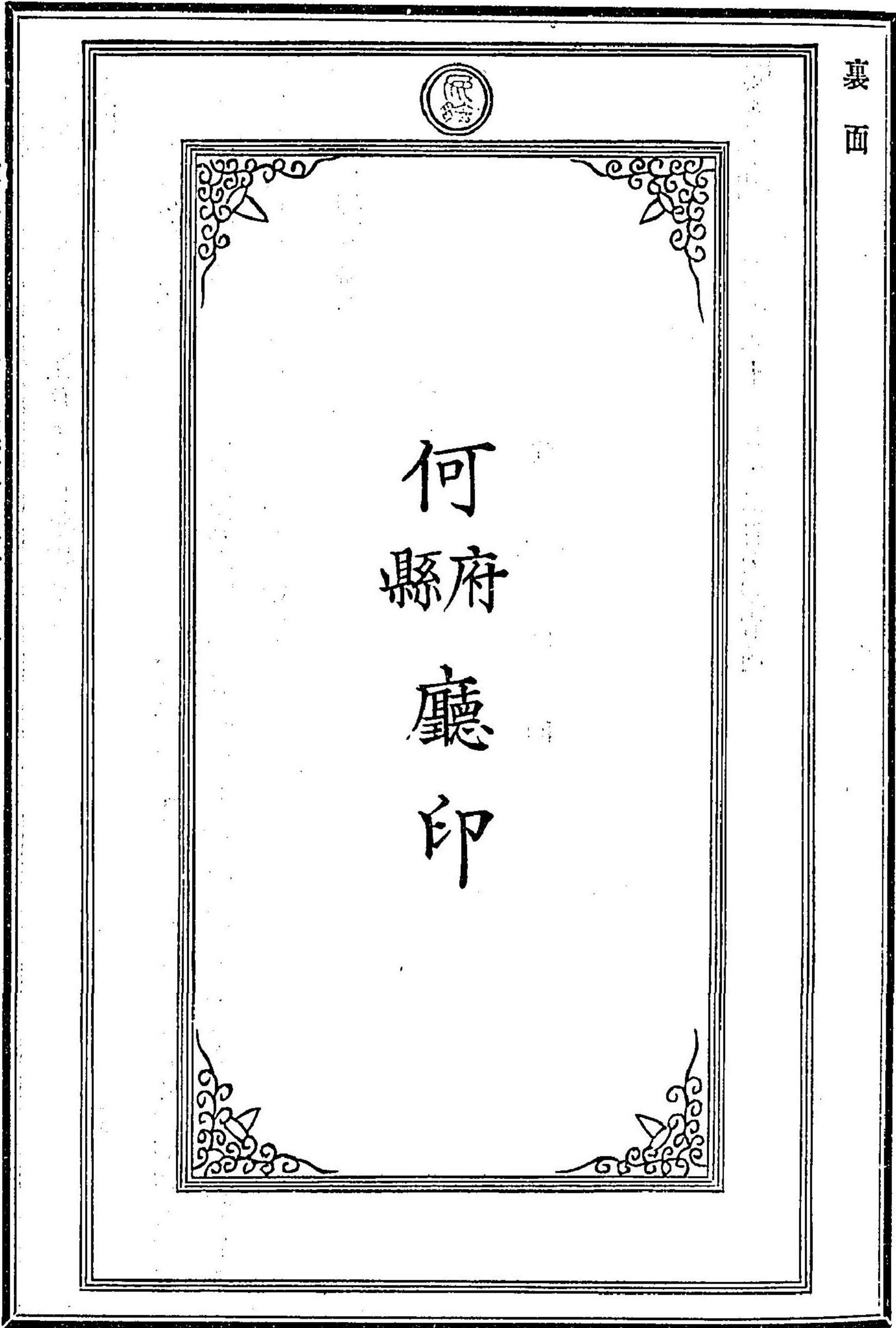
三百七十九

表面



三百八十一

裏面



第十三類 酒造絞油味噌醬油

三百八十一